

Ⅱ 在宅介護実態調査

目 次

序章 調査の概要.....	179
第1章 調査結果の概要.....	182
1 調査対象者の世帯や介護の状況とサービス・支援に対するニーズ（A票）	182
(1) 世帯類型.....	182
(2) 家族等による介護の頻度.....	182
(3) 主な介護者の本人との関係.....	183
(4) 主な介護者の性別.....	183
(5) 主な介護者の年齢.....	184
(6) 主な介護者が行っている介護.....	185
(7) 介護のための離職の有無.....	186
(8) 保険外の支援・サービスの利用状況.....	186
(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス.....	187
(10) 施設等検討の状況.....	187
(11) 本人が抱えている傷病.....	188
(12) 訪問診療の利用の有無.....	189
(13) 介護保険サービスの利用の有無.....	189
(14) 介護保険サービス未利用の理由.....	190
2 主な介護者の就労と介護の両立状況やサービス・支援に対するニーズ（B票） .	191
(1) 主な介護者の勤務形態.....	191
(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況.....	191
(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援.....	192
(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識.....	192
(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護.....	193
3 要介護認定データに基づく基礎集計結果.....	194
(1) 年齢.....	194
(2) 性別.....	194
(3) 二次判定結果（要介護度）.....	195
(4) サービス利用の組み合わせ.....	195
(5) 訪問系サービスの合計利用回数.....	196
(6) 通所系サービスの合計利用回数.....	196
(7) 短期系サービスの合計利用回数.....	197
(8) 障害高齢者の日常生活自立度.....	197
(9) 認知症高齢者の日常生活自立度.....	198
第2章 介護保険事業計画の策定に向けた検討.....	199
1 在宅限界点の向上に向けた支援・サービスの提供体制の検討.....	199
(1) 基礎集計.....	199
(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」 の変化.....	201

(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の 変化.....	204
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係.....	209
(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係...	213
(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係.....	216
(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係.....	220
2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	227
(1) 基礎集計.....	228
(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み.....	231
(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と 「就労継続見込み」の関係.....	235
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係.....	239
(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況....	241
(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援.....	245
3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	249
(1) 基礎集計.....	249
(2) 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・ サービス.....	251
(3) 「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」.....	254
(4) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」.....	259
4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	263
(1) 基礎集計.....	263
(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」.....	265
(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み 合わせ」.....	268
(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」.....	272
5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	276
(1) 基礎集計.....	276
(2) 訪問診療の利用割合.....	279
(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ.....	281
(4) 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無....	282
6 その他サービス未利用の理由など	284
(1) 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由.....	284
(2) 認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由.....	288
(3) 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービス.....	292
(4) 本人の年齢別・主な介護者の年齢.....	296
(5) 要介護度別の抱えている傷病.....	297
(6) 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病.....	298

序章 調査の概要

1 調査目的

本調査は、「宇治市高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画」の策定にあたり、在宅で介護を受けられている方を対象に、在宅生活の継続に必要な支援をはじめ、家族等介護者の就労状況や仕事と介護の両立のための支援やサービスへのニーズなどを把握し、今後の介護サービスのあり方の検討に向けた基礎資料とすることを目的に実施しました。

2 調査の実施概要

- (1) 調査対象者 : 期間内に要支援・要介護認定の更新・区分変更申請に伴う認定調査を行った、在宅で生活されている方
- (2) 調査方法 : 認定調査員による聞き取り調査
- (3) 調査期間 : 令和元年9月2日～12月27日
- (4) 有効回答数 : 649人

3 報告書の見方

- (1) 回答は各設問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示しています。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が総数と一致しない場合があります。
- (2) 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問では、各選択肢の回答比率の合計は100%を超えます。
- (3) 本調査は、国から提供された「自動集計分析ソフト」による集計・分析を行っています。そのため、設問により回答不明・無回答がある場合、自動的に基数（n）から省かれ集計されています。

4 集計項目に関する用語等の説明

□サービス利用の分析に用いた用語の定義

用語		定義
未利用		・「住宅改修」「福祉用具貸与・購入」のみを利用している方については、未利用として集計しています。
訪問系		・（介護予防）訪問介護、（介護予防）訪問入浴介護、（介護予防）訪問看護、（介護予防）訪問リハビリテーション、（介護予防）居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護を「訪問系」として集計しています。
通所系		・（介護予防）通所介護、（介護予防）通所リハビリテーション、（介護予防）認知症対応型通所介護を「通所系」として集計しています。
短期系		・（介護予防）短期入所生活介護、（介護予防）短期入所療養介護を「短期系」として集計しています。
その他	小規模多機能	・（介護予防）小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計しています。
	看護多機能	・看護小規模多機能型居宅介護を「看護多機能」として集計しています。
	定期巡回	・定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計しています。

□サービス利用の組み合わせの分析に用いた用語の定義

用語	定義
未利用	・上表に同じ
訪問系のみ	・上表の「訪問系」もしくは「定期巡回」のみの利用を集計しています。
訪問系を含む 組み合わせ	・上表の「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「短期系」「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」＋「短期系」「小規模多機能」「看護多機能」の利用を集計しています。
通所系・短期系のみ	・上表の「通所系」「短期系」「通所系」＋「短期系」の利用を集計しています。

□施設等検討の状況に係る用語の定義

本報告書での「施設等」は、「特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設（有料老人ホーム等）、グループホーム、地域密着型特別養護老人ホーム」を指し、介護保険施設に限定するものではありません。

□障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）

生活自立	ランク J	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する 1. 交通機関等を利用して外出する 2. 隣近所へなら外出する
準寝たきり	ランク A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない 1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 2. 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
寝たきり	ランク B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ 1. 車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う 2. 介助により車いすに移乗する
	ランク C	一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する 1. 自力で寝返りをうつ 2. 自力では寝返りもうてない

□認知症高齢者の日常生活自立度

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
	II a 家庭外で上記 II の状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
	II b 家庭内でも上記 II の状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりで留守番ができない等
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。	
	III a 日中を中心として上記 III の状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等
	III b 夜間を中心として上記 III の状態が見られる。	ランク III a に同じ
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランク III に同じ
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等

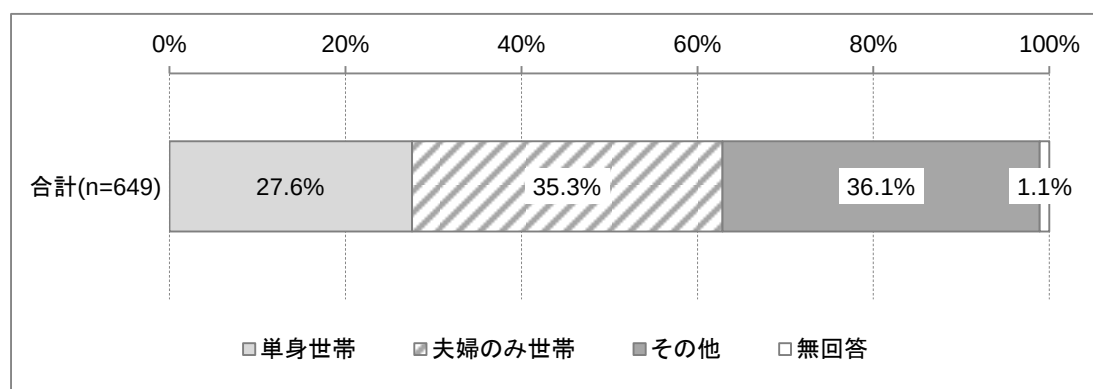
第1章 調査結果の概要

1 調査対象者の世帯や介護の状況とサービス・支援に対するニーズ（A票）

(1) 世帯類型

「単身世帯」が27.6%、「夫婦のみ世帯」が35.3%となっています。

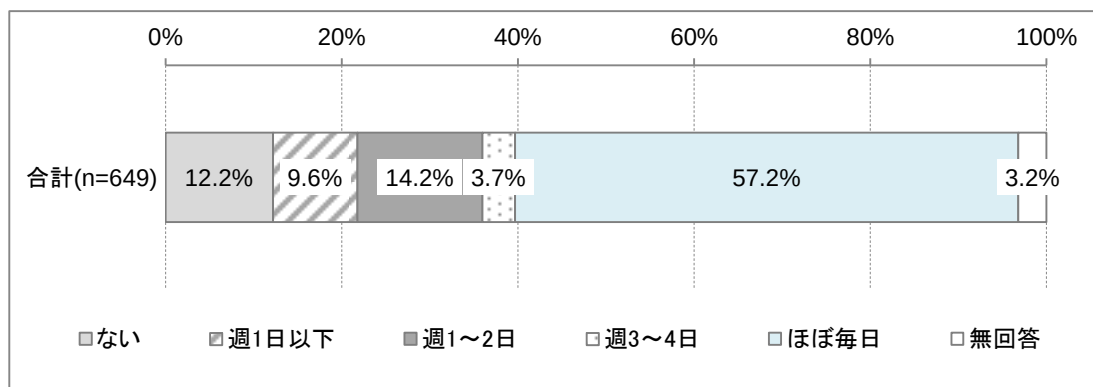
図表 1-1 世帯類型（単数回答）



(2) 家族等による介護の頻度

「ほぼ毎日」が57.2%で最も多く、次いで「週1～2日」が14.2%、「ない」が12.2%、「週1日以下」が9.6%となっています。

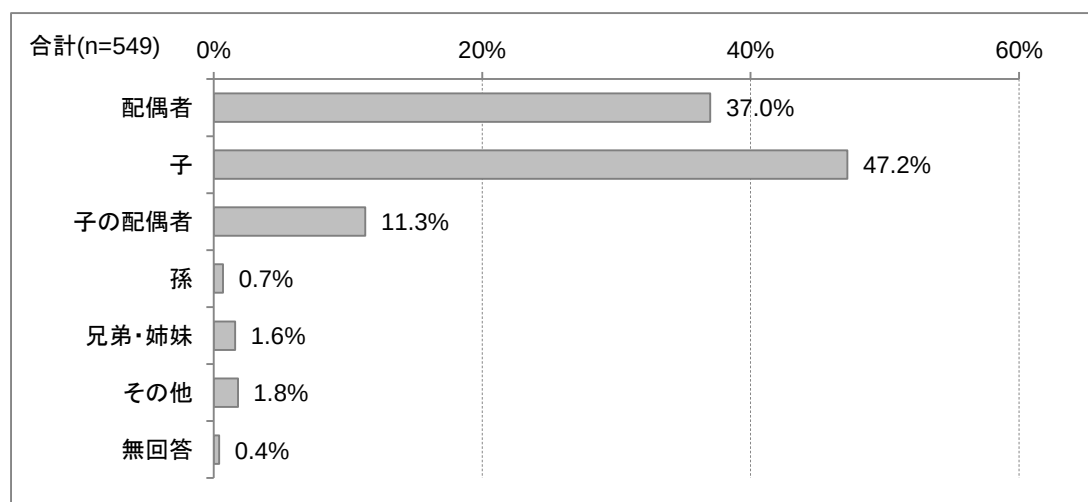
図表 1-2 家族等による介護の頻度（単数回答）



(3) 主な介護者の本人との関係

「子」が47.2%で最も多く、次いで「配偶者」が37.0%、「子の配偶者」が11.3%となっています。

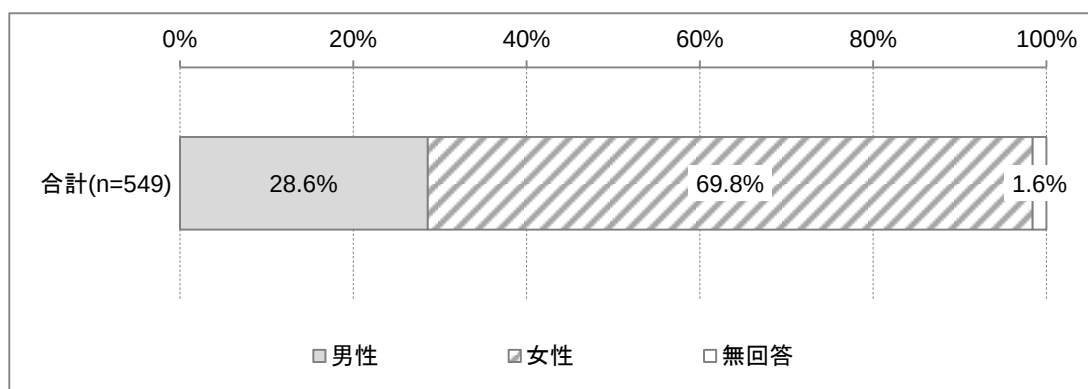
図表 1-3 主な介護者の本人との関係（単数回答）



(4) 主な介護者の性別

「女性」が69.8%、「男性」が28.6%となっています。

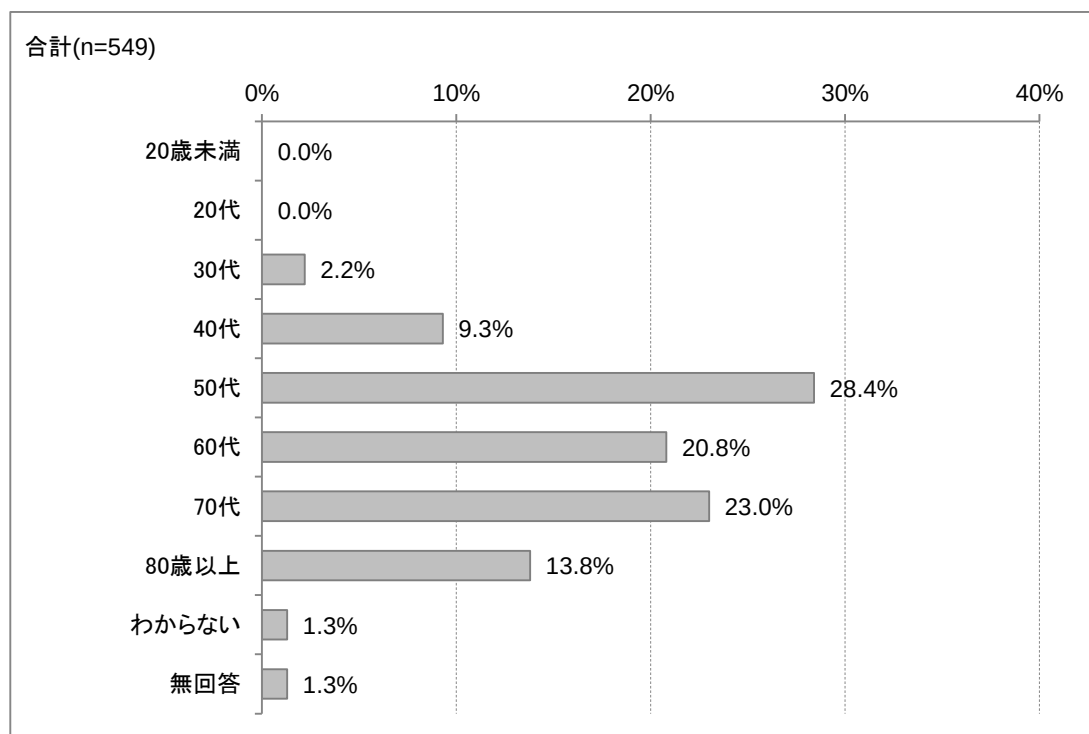
図表 1-4 主な介護者の性別（単数回答）



(5) 主な介護者の年齢

「50代」が28.4%で最も多く、次いで「70代」が23.0%、「60代」が20.8%となっています。

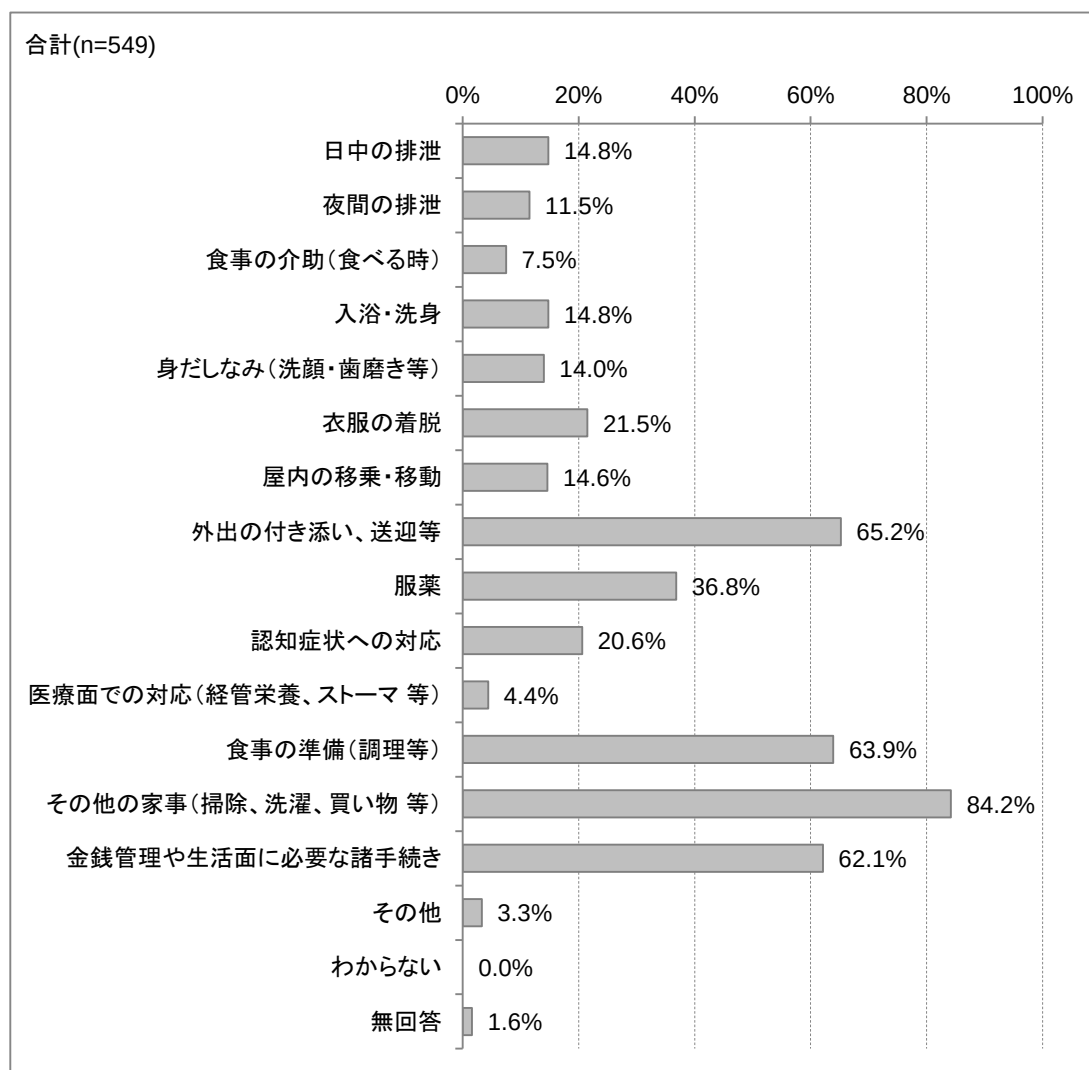
図表 1-5 主な介護者の年齢（単数回答）



(6) 主な介護者が行っている介護

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が84.2%で最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が65.2%、「食事の準備（調理等）」が63.9%となっています。

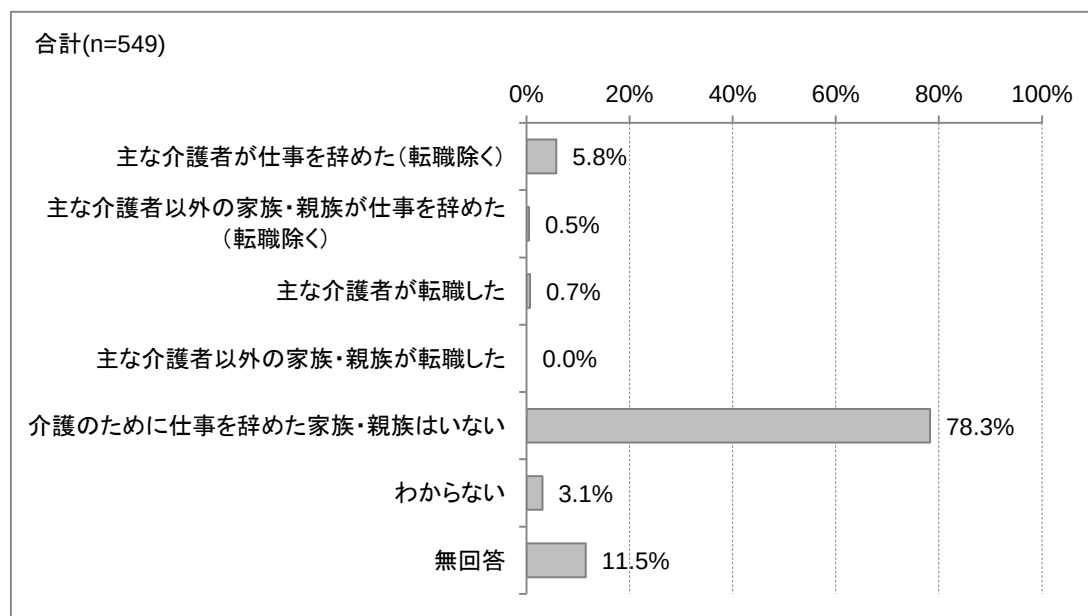
図表 1-6 主な介護者が行っている介護（複数回答）



(7) 介護のための離職の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が78.3%で最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が5.8%となっています。

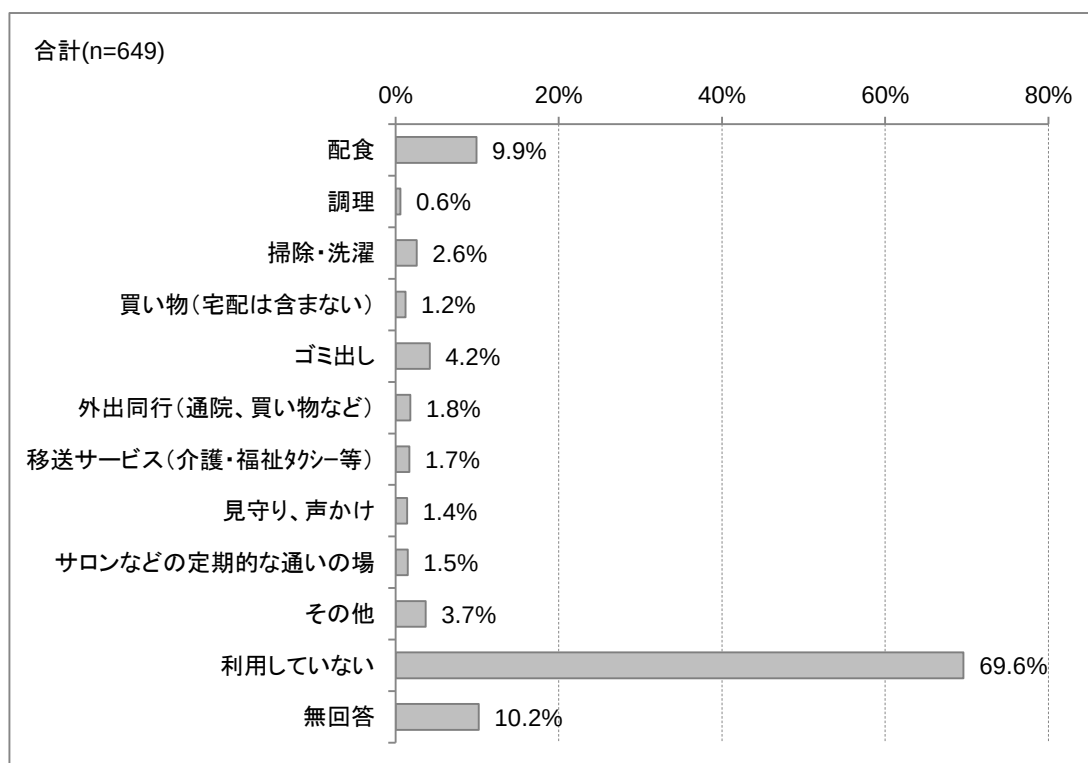
図表 1-7 介護のための離職の有無（複数回答）



(8) 保険外の支援・サービスの利用状況

「利用していない」が69.6%で最も多く、次いで「配食」が9.9%、「ゴミ出し」が4.2%となっています。

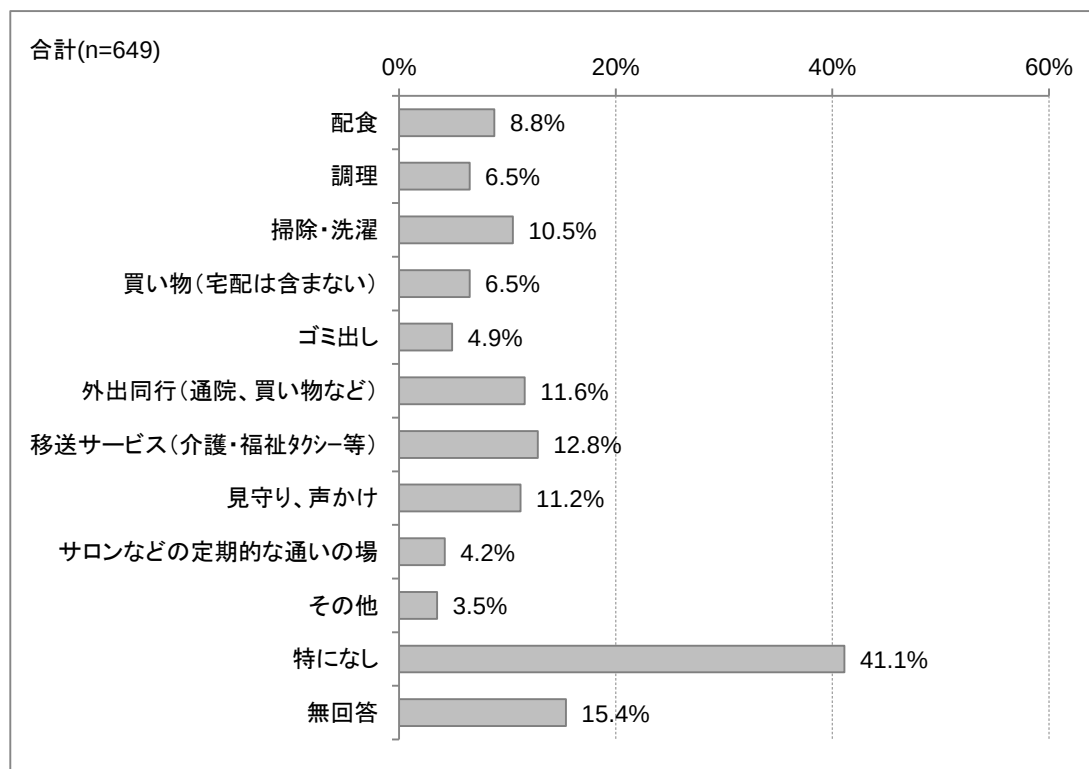
図表 1-8 保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）



(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

「特になし」が41.1%で最も多く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が12.8%、「外出同行（通院、買い物など）」が11.6%となっています。

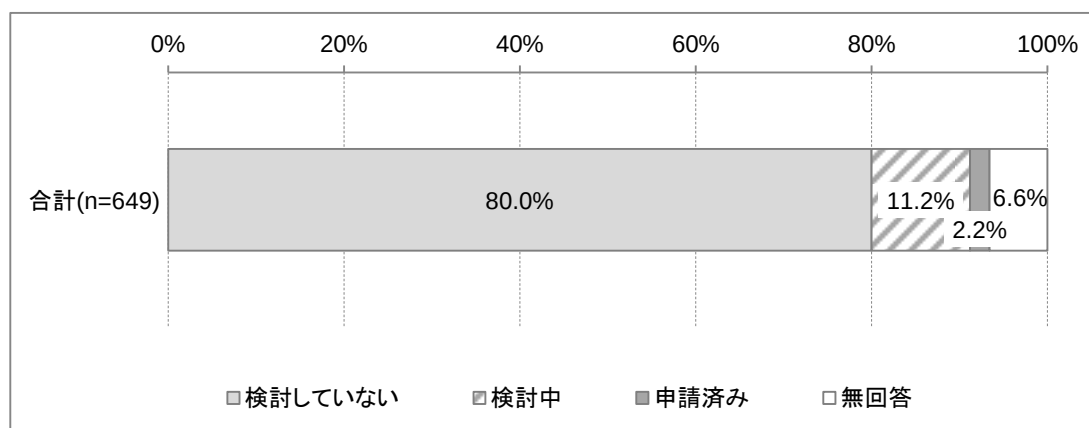
図表 1-9 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）



(10) 施設等検討の状況

「検討していない」が80.0%、「検討中」が11.2%、「申請済み」が2.2%となっています。

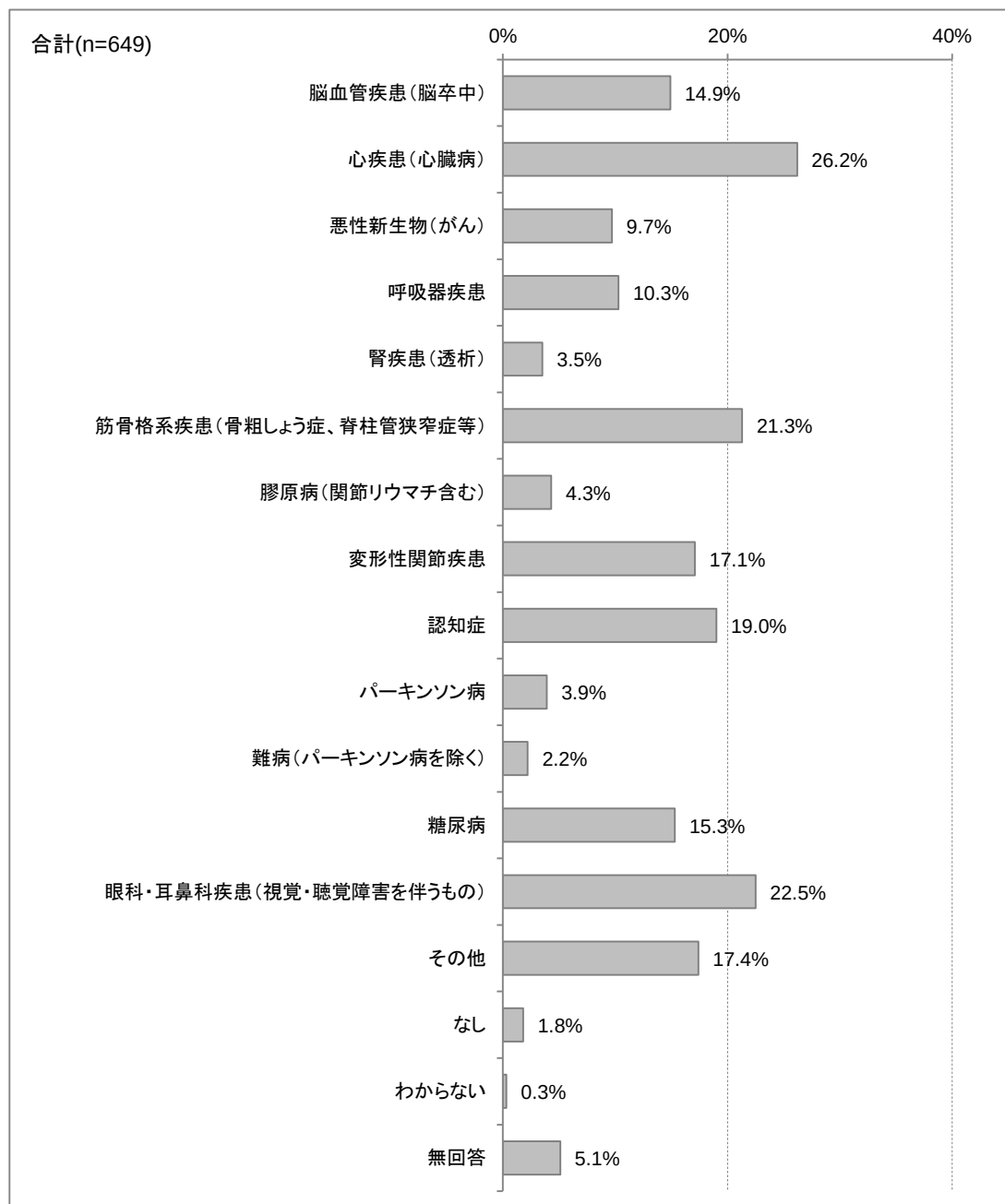
図表 1-10 施設等検討の状況（単数回答）



(11) 本人が抱えている傷病

「心疾患（心臓病）」が26.2%で最も多く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が22.5%、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が21.3%となっています。

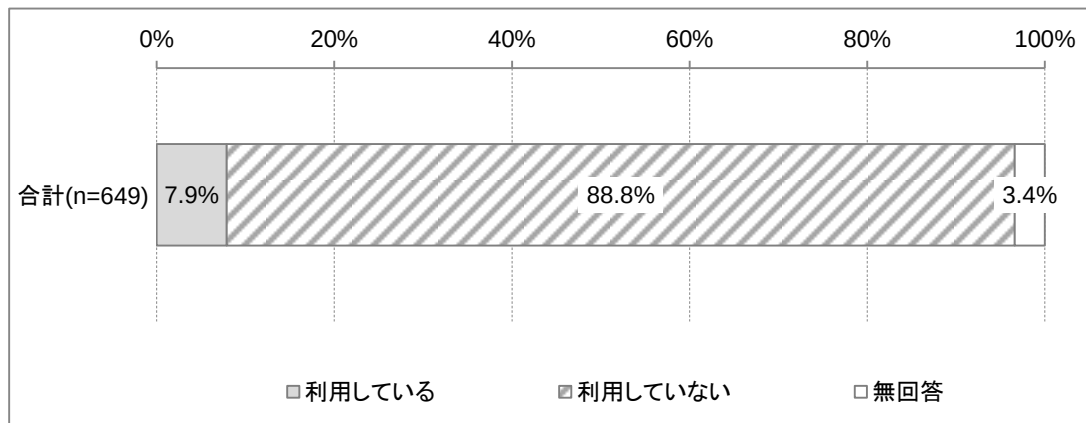
図表 1-11 本人が抱えている傷病（複数回答）



(12) 訪問診療の利用の有無

「利用していない」が88.8%、「利用している」が7.9%となっています。

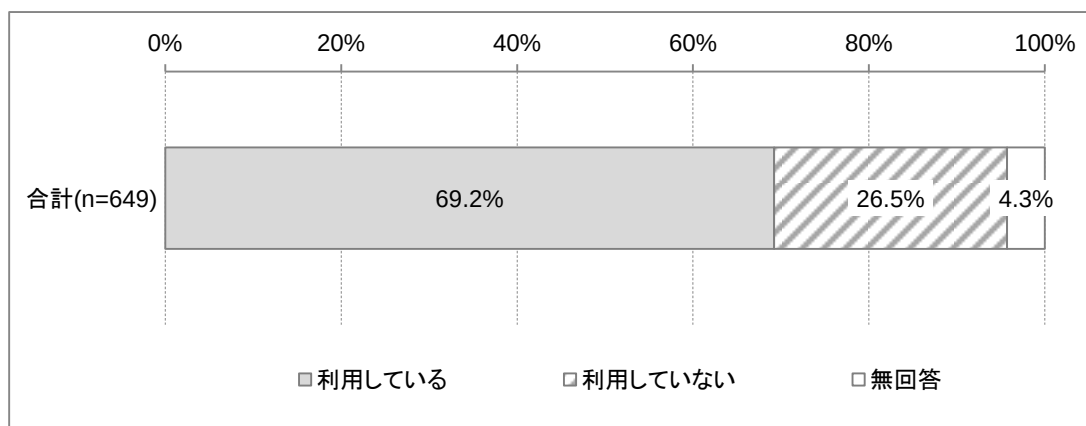
図表 1-12 訪問診療の利用の有無（単数回答）



(13) 介護保険サービスの利用の有無

「利用している」が69.2%、「利用していない」が26.5%となっています。

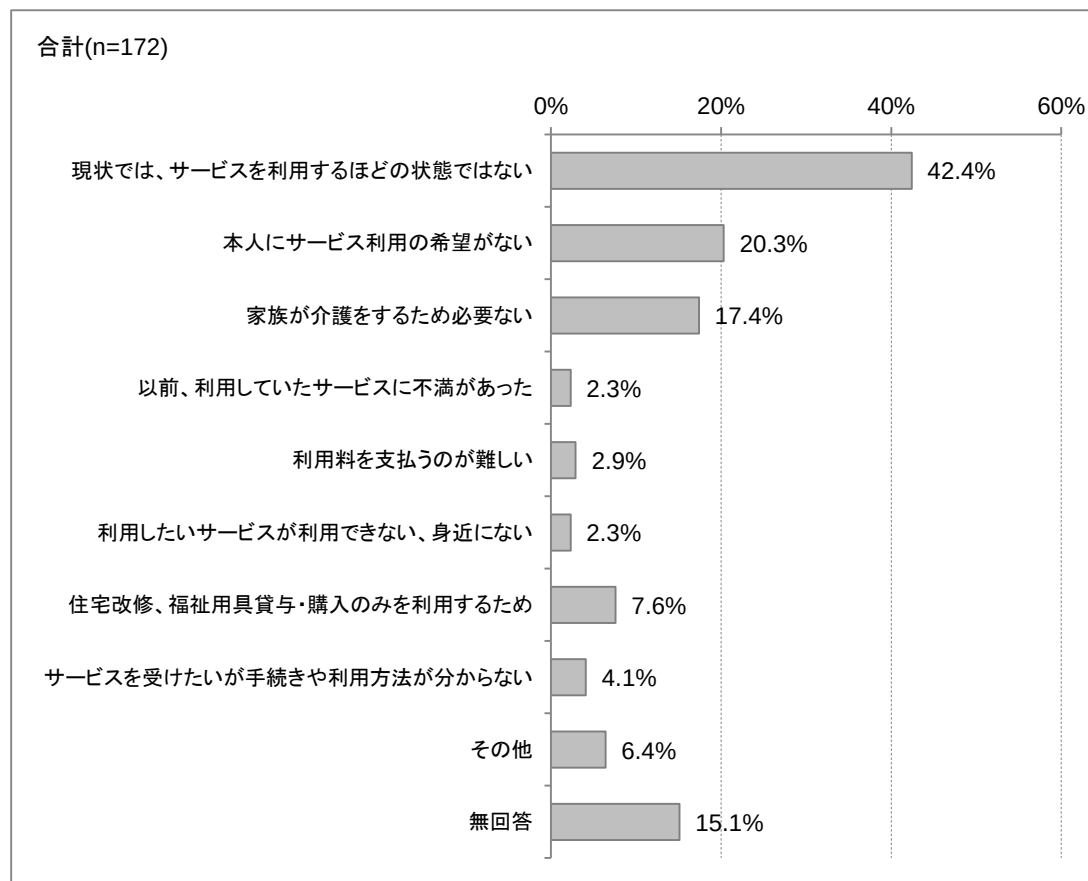
図表 1-13 介護保険サービスの利用の有無（単数回答）



(14) 介護保険サービス未利用の理由

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が42.4%で最も多く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が20.3%、「家族が介護をするため必要ない」が17.4%となっています。

図表 1-14 介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）

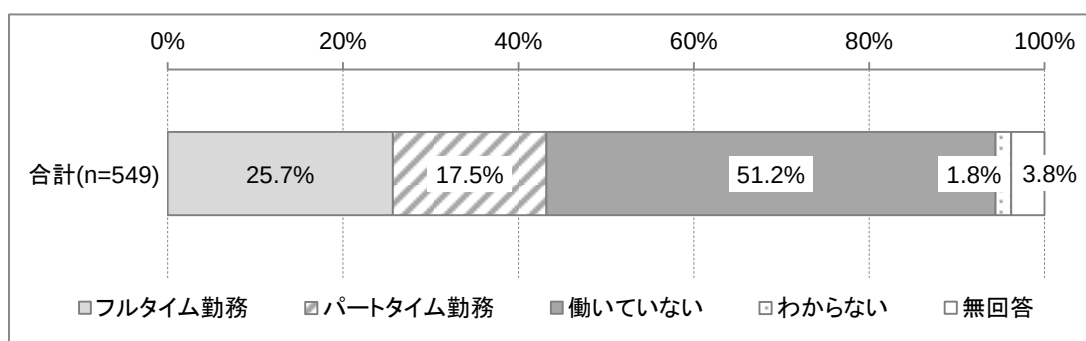


2 主な介護者の就労と介護の両立状況やサービス・支援に対するニーズ（B票）

(1) 主な介護者の勤務形態

「働いていない」が51.2%で最も多く、次いで「フルタイム勤務」が25.7%、「パートタイム勤務」が17.5%となっています。

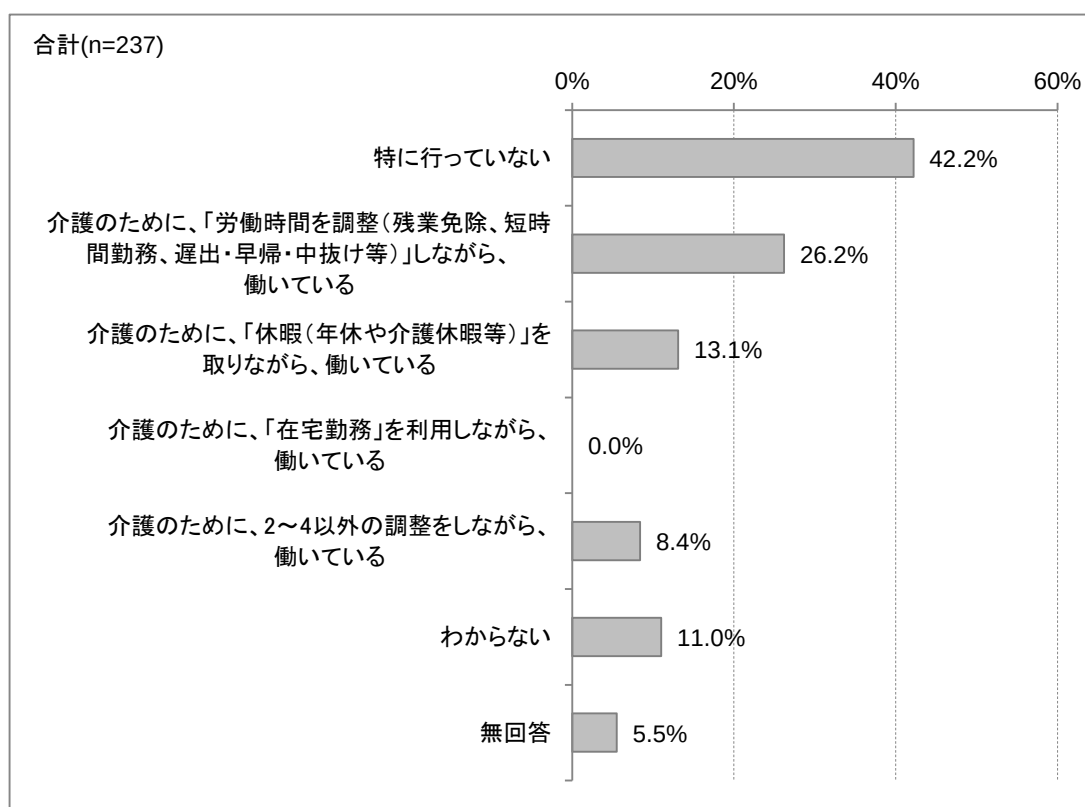
図表 2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）



(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

「特に行っていない」が42.2%で最も多く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が26.2%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が13.1%となっています。

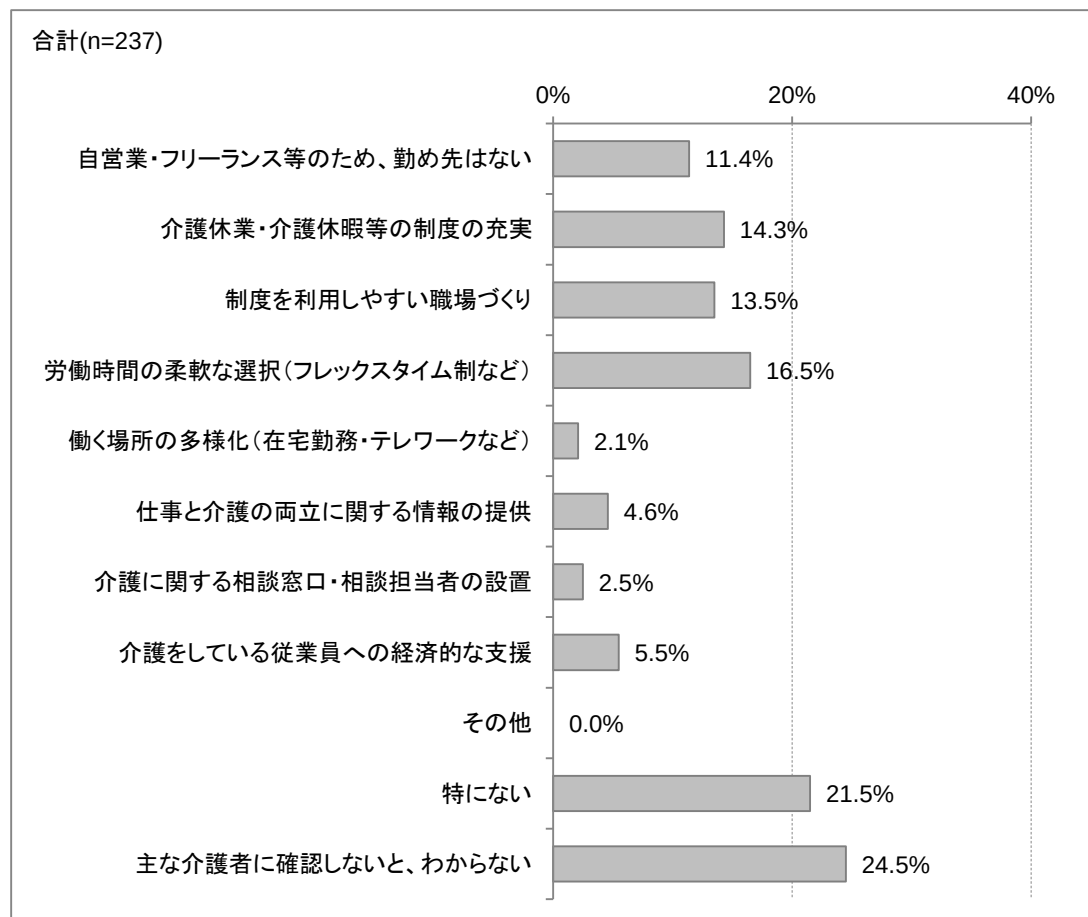
図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）



(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

「主な介護者に確認しないと、わからない」が24.5%で最も多く、次いで「特にない」が21.5%、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が16.5%となっています。

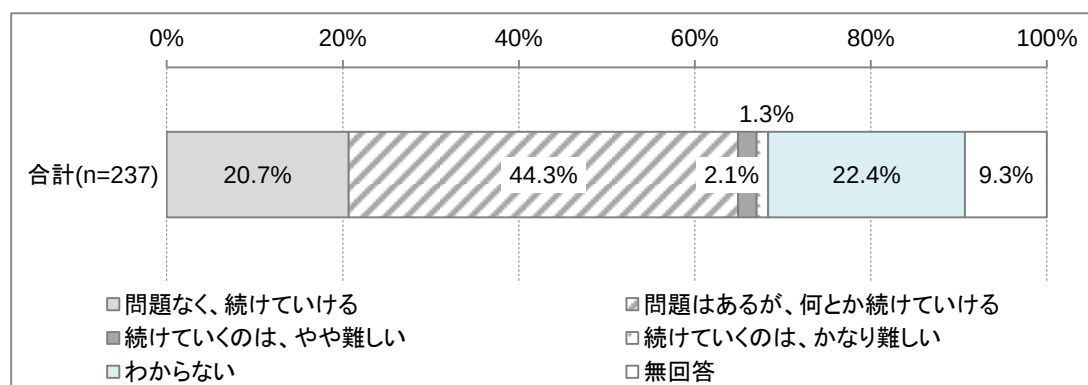
図表 2-3 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）



(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「問題はあるが、何とか続けていける」が44.3%で最も多く、次いで「わからない」が22.4%、「問題なく、続けていける」が20.7%となっています。

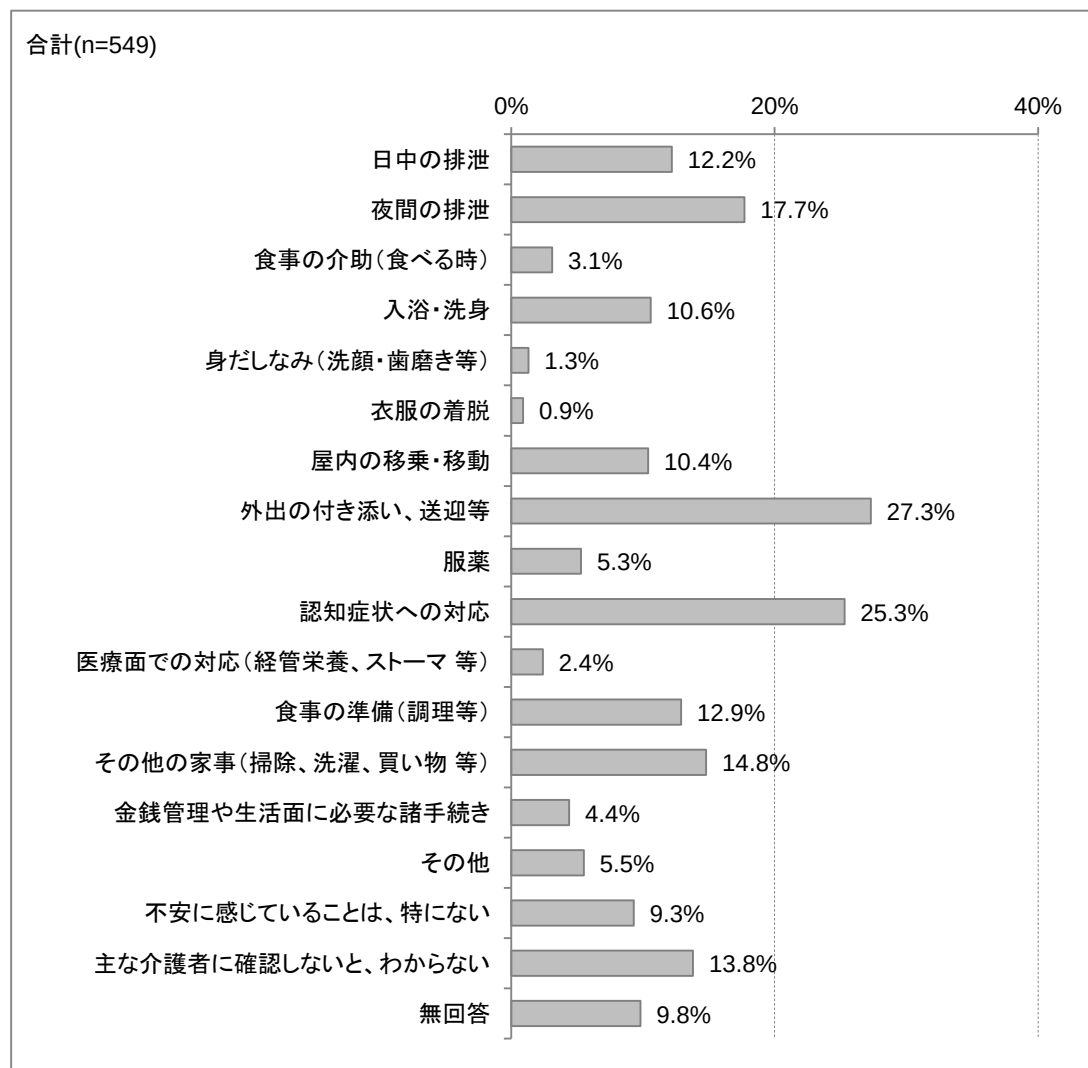
図表 2-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）



(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

「外出の付き添い、送迎等」が27.3%で最も多く、次いで「認知症状への対応」が25.3%、「夜間の排泄」が17.7%となっています。

図表 2-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）

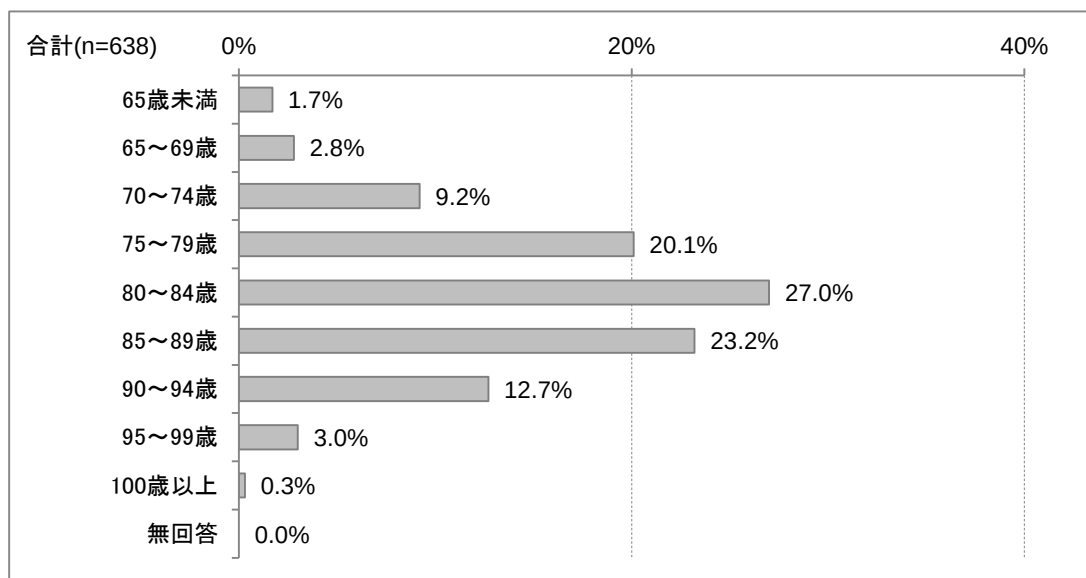


3 要介護認定データに基づく基礎集計結果

(1) 年齢

「80～84歳」が27.0%で最も多く、次いで「85～89歳」が23.2%、「75～79歳」が20.1%となっています。

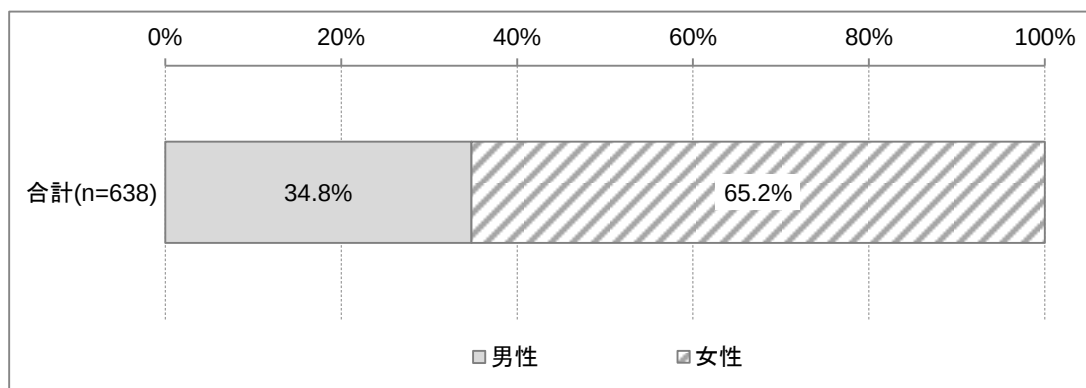
図表 3-1 年齢



(2) 性別

「男性」が34.8%、「女性」が65.2%となっています。

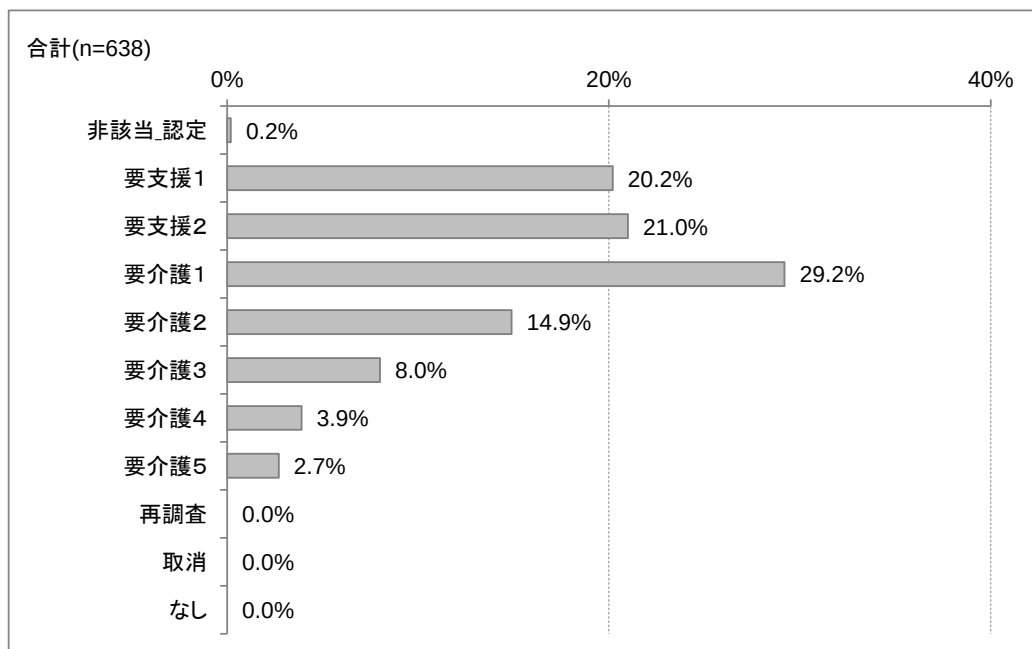
図表 3-2 性別



(3) 二次判定結果（要介護度）

「要介護1」が29.2%で最も多く、次いで「要支援2」が21.0%で、『要支援1・2』が41.2%、『要介護1・2』が44.1%、『要介護3以上』が14.6%となっています。

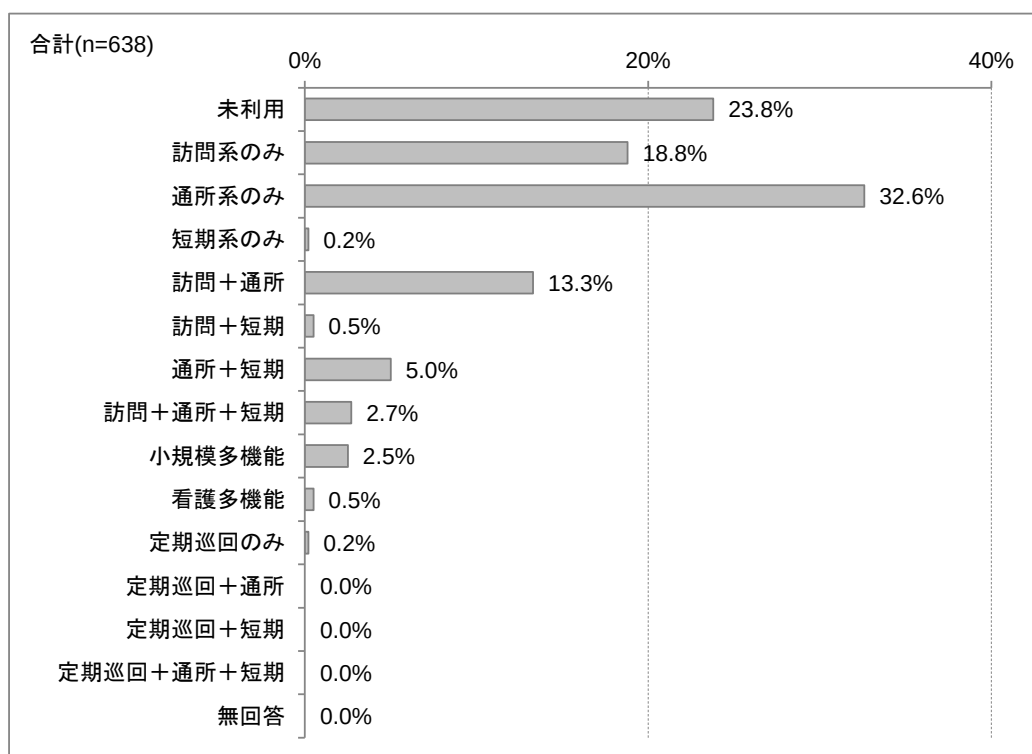
図表 3-3 二次判定結果



(4) サービス利用の組み合わせ

「通所系のみ」が32.6%で最も多く、次いで「未利用」が23.8%、「訪問系のみ」が18.8%となっています。

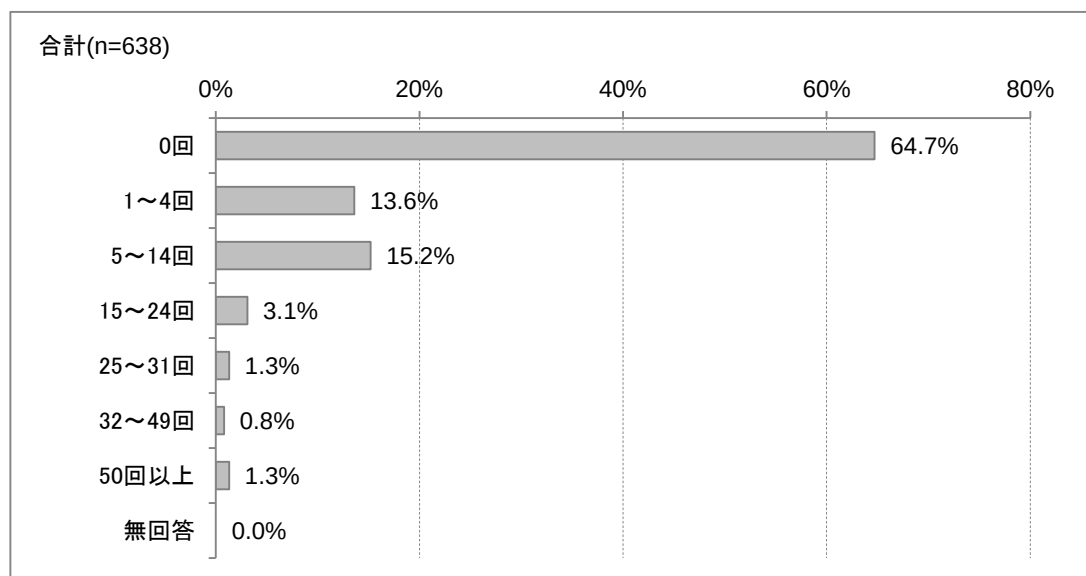
図表 3-4 サービス利用の組み合わせ



(5) 訪問系サービスの合計利用回数

「0回」が64.7%で最も多く、次いで「5～14回」が15.2%、「1～4回」が13.6%となっています。

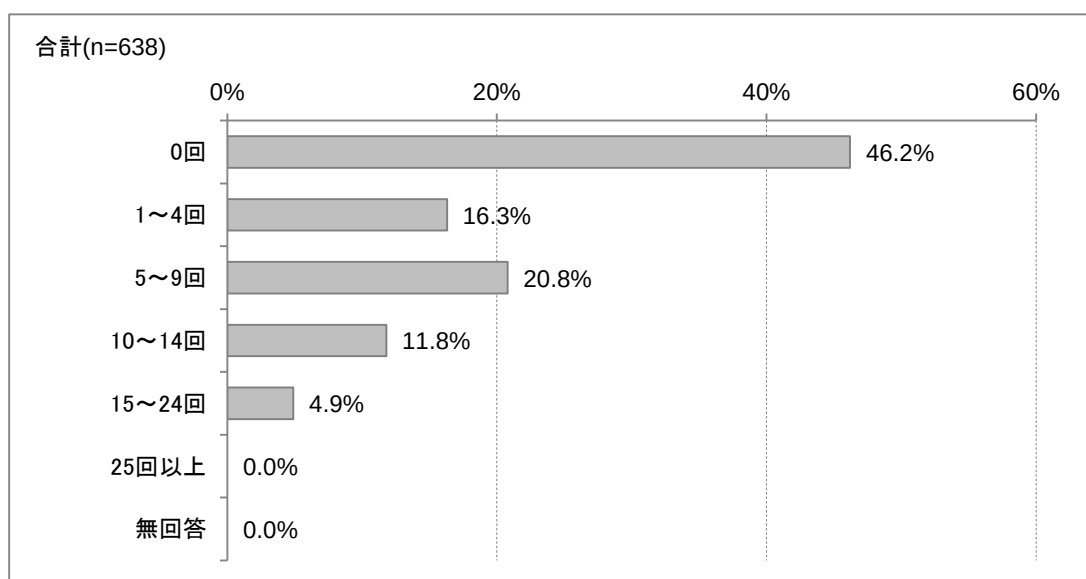
図表 3-5 サービスの利用回数（訪問系）



(6) 通所系サービスの合計利用回数

「0回」が46.2%で最も多く、次いで「5～9回」が20.8%、「1～4回」が16.3%となっています。

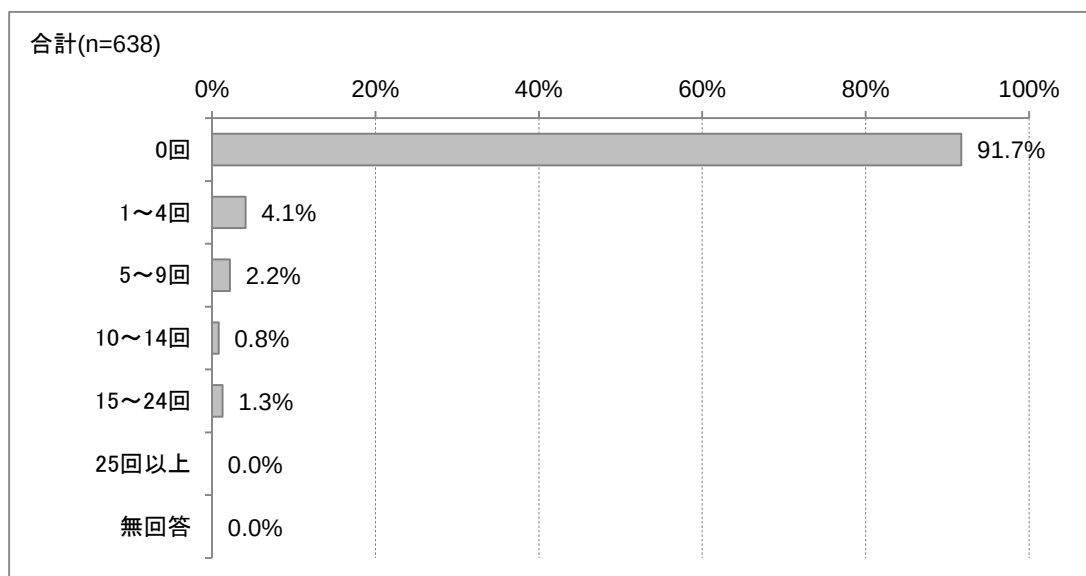
図表 3-6 サービスの利用回数（通所系）



(7) 短期系サービスの合計利用回数

「0回」が91.7%で最も多く、次いで「1～4回」が4.1%、「5～9回」が2.2%となっています。

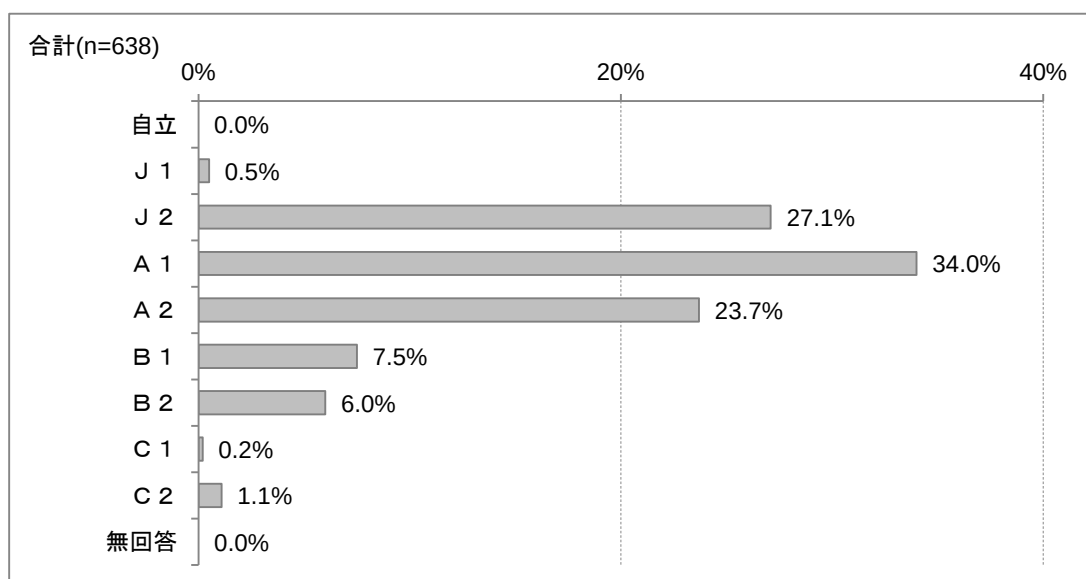
図表 3-7 サービスの利用回数（短期系）



(8) 障害高齢者の日常生活自立度

「A 1」が34.0%で最も多く、次いで「J 2」が27.1%、「A 2」が23.7%となっています。

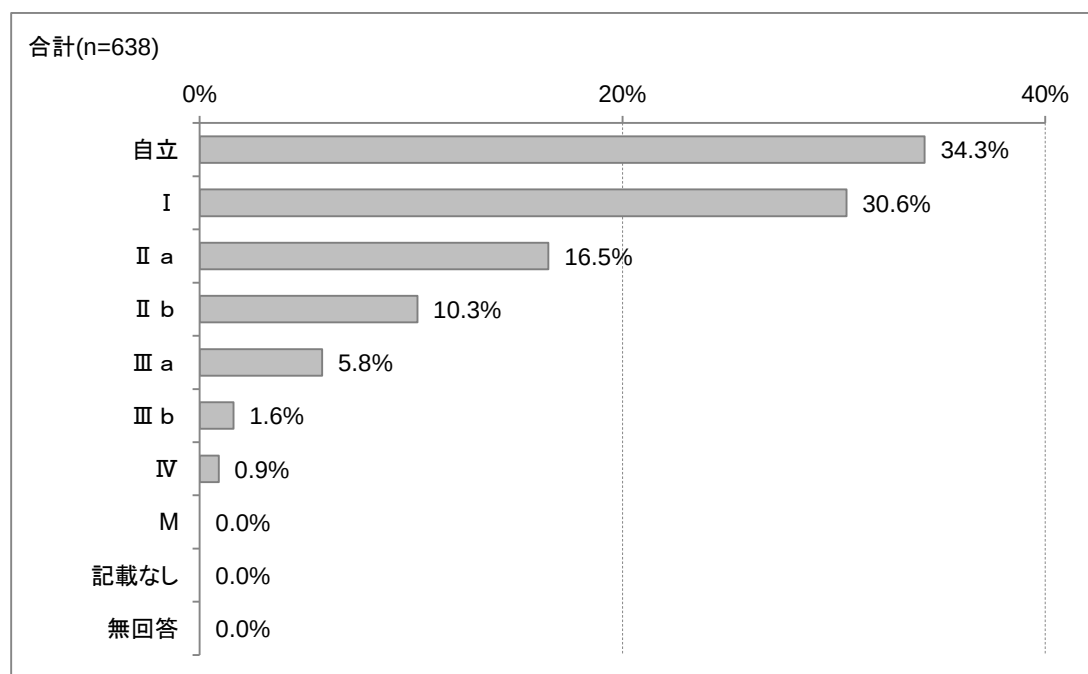
図表 3-8 障害高齢者の日常生活自立度



(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

「自立」が34.3%で最も多く、次いで「Ⅰ」が30.6%、「Ⅱ a」が16.5%となっています。

図表 3-9 認知症高齢者の日常生活自立度



第2章 介護保険事業計画の策定に向けた検討

1 在宅限界点の向上に向けた支援・サービスの提供体制の検討

■集計・分析の狙い

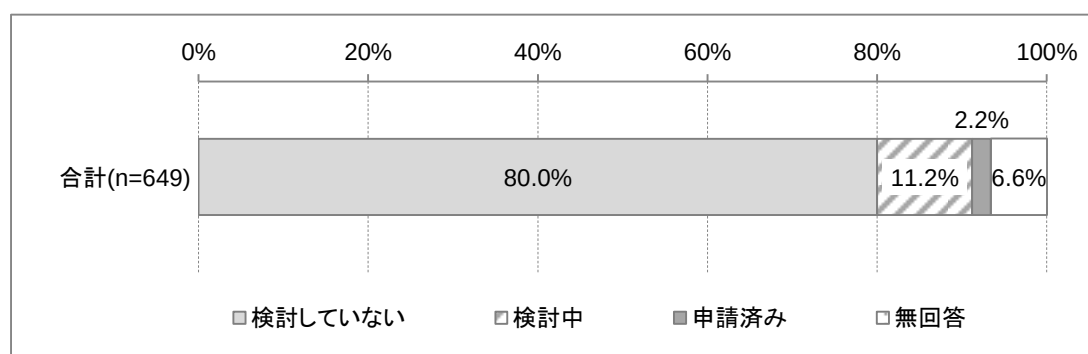
- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の2つの視点からの集計を行っています。
- それぞれ、「どのようなサービス利用パターンの場合」に、「在宅生活を継続することができると考えているのか」、もしくは「介護者の不安が軽減されているのか」を分析するために、「サービス利用パターン」とのクロス集計を行っています。
- なお、「サービス利用パターン」は、「サービス利用の組み合わせ」と「サービス利用の回数」の2つからなります。
- また、在宅限界点についての分析を行うという主旨から、多くの集計は要介護3以上、もしくは認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の方に限定して集計をしています。

(1) 基礎集計

- 施設等の検討状況に係る、基礎的な集計を行っています（図表 1-1～図表 1-3）。
- 要介護度の重度化に伴う、施設等検討状況の変化や世帯類型ごとの施設等検討状況についてその状況を確認してください。

「施設等検討の状況」単純集計

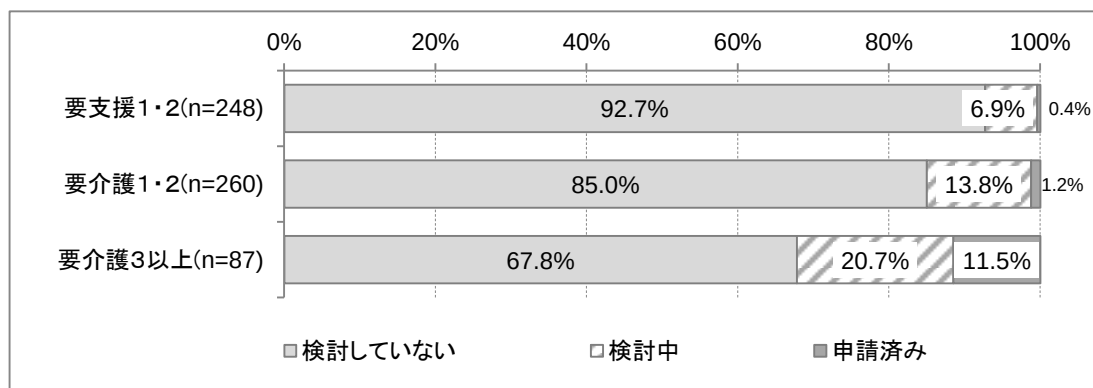
図表 1-1 施設等検討の状況



「施設等検討の状況」×「要介護度」クロス集計

要介護度が上がるにつれて「検討中」と「申請済み」の割合が高くなっています。

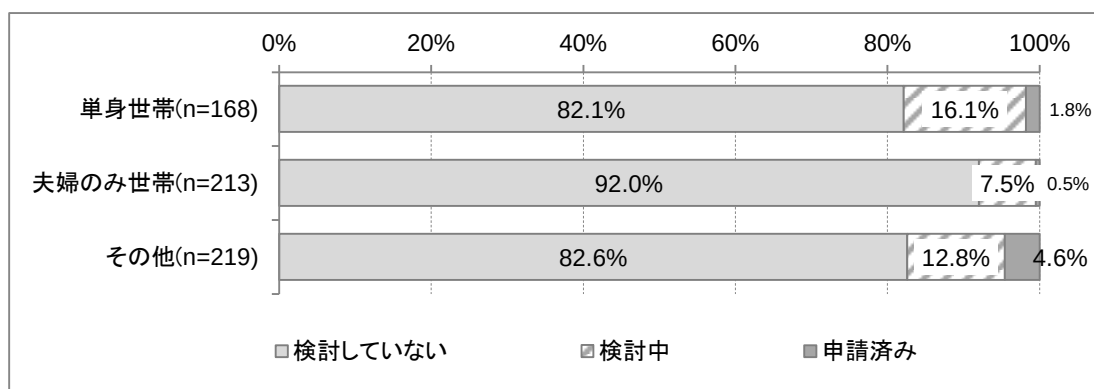
図表 1-2 要介護度別・施設等検討の状況



「施設等検討の状況」×「世帯類型」クロス集計

“単身世帯”では「検討中」の割合が、“その他の世帯”では「申請済み」の割合が他の世帯類型と比べて高くなっています。

図表 1-3 世帯類型別・施設等検討の状況



(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化

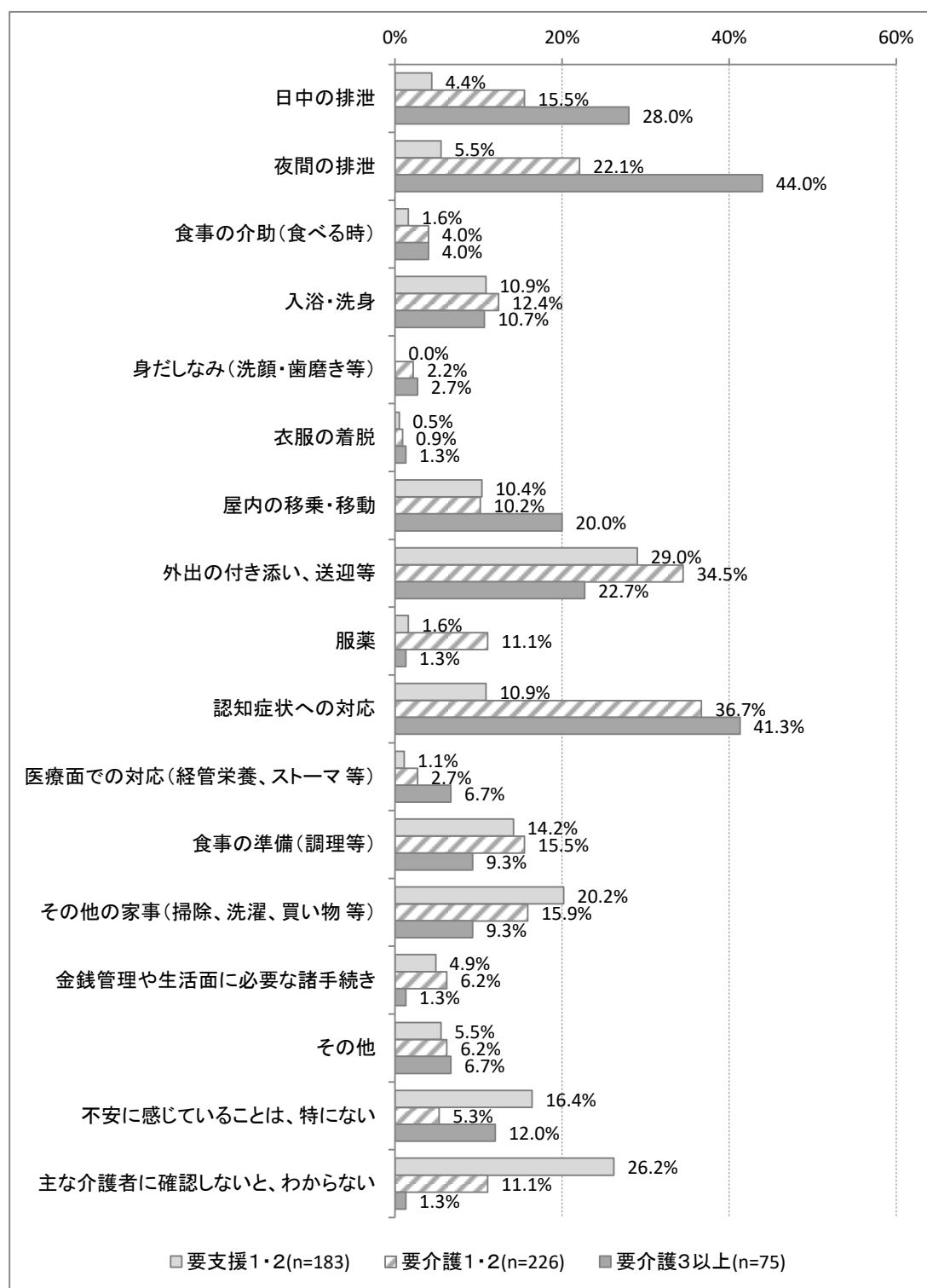
【着目すべきポイント】

- 要介護度と認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化について、集計分析をしています（図表 1-4、図表 1-5）。
- ここでの「主な介護者が不安に感じる介護」とは、「現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等」のことです。なお、ここで選択される介護は、現状で行っている介護であるか否かは問われていません。
- ここから、要介護度・認知症自立度別の、主な介護者が不安に感じる介護等を把握することができます。
- また、主な介護者の不安が相対的に大きな介護や、重度化に伴い主な介護者の不安が大きくなる介護等に着目することで、在宅限界点に大きな影響を与えと考えられる「主な介護者が不安に感じる介護」を推測することも可能になります。

「介護者が不安に感じる介護」×「要介護度」クロス集計

“要介護3以上”では、「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「屋内の移乗・移動」、「認知症状への対応」、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」等の割合が他の要介護度と比べて高くなっています。

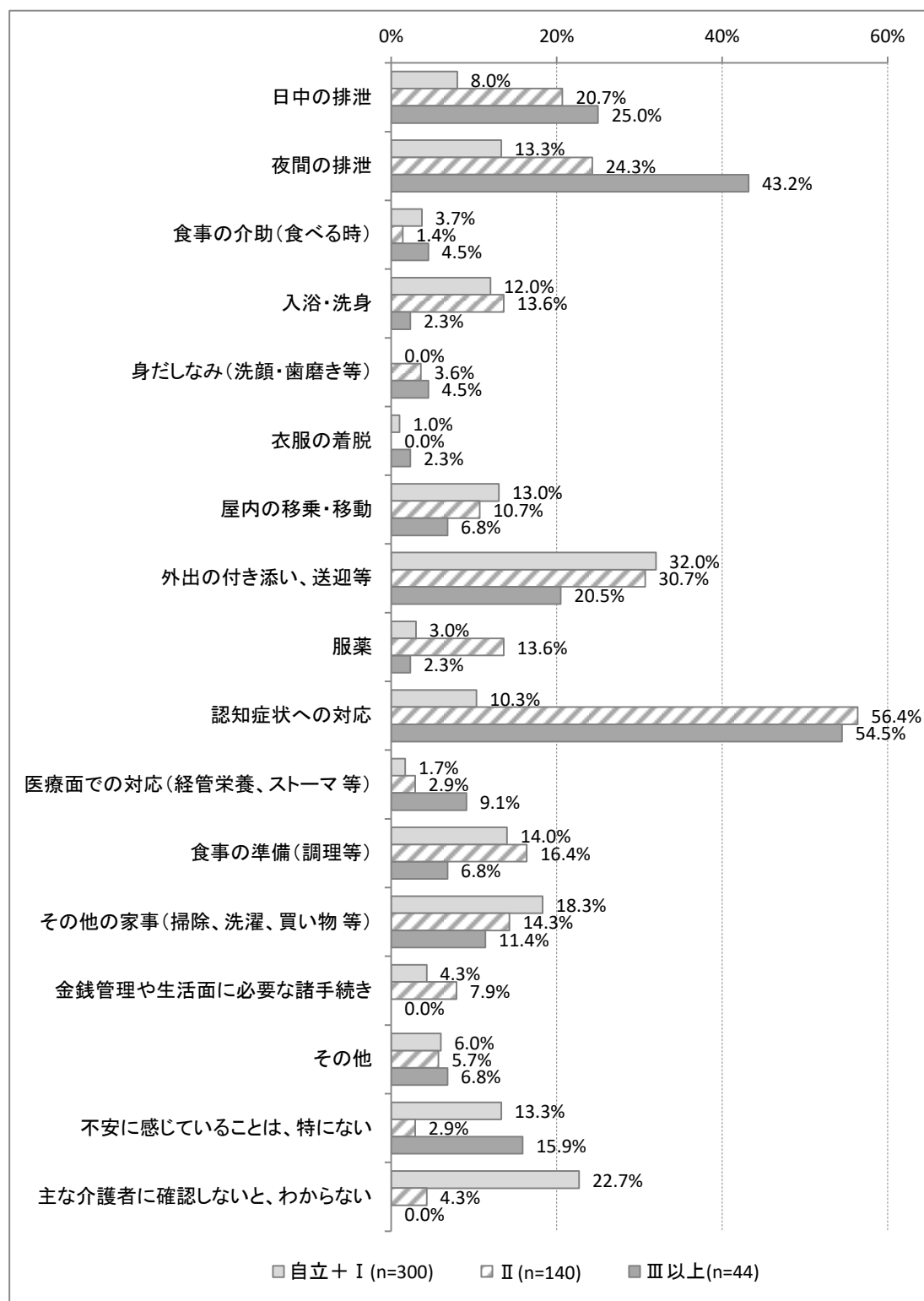
図表 1-4 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



「介護者が不安に感じる介護」×「認知症自立度」クロス集計

“Ⅲ以上”では「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「衣服の着脱」、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ 等）」の割合が他の自立度に比べて高くなっています。

図表 1-5 認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護



(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

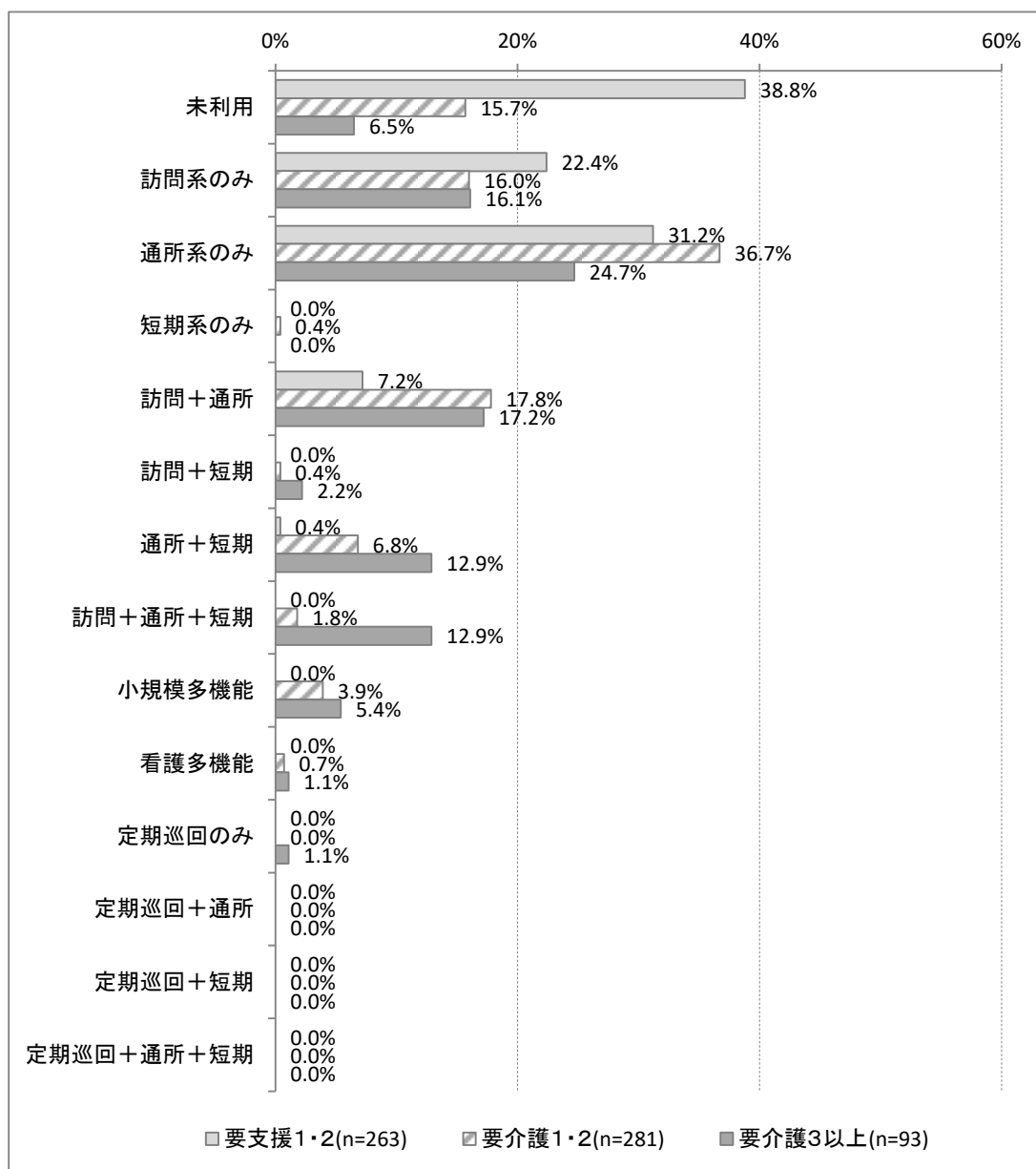
【着目すべきポイント】

- ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています（図表 1-6、図表 1-7）。
- 特に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。
- さらに、例えば今後の中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

「サービス利用の組み合わせ」×「要介護度」クロス集計

“要支援1・2”、“要介護1・2”では、「通所系のみ」の割合が高くなっています。“要介護3以上”では「通所＋短期」、「訪問＋通所＋短期」、「小規模多機能」等の割合が他の要介護度と比べて高くなっています。

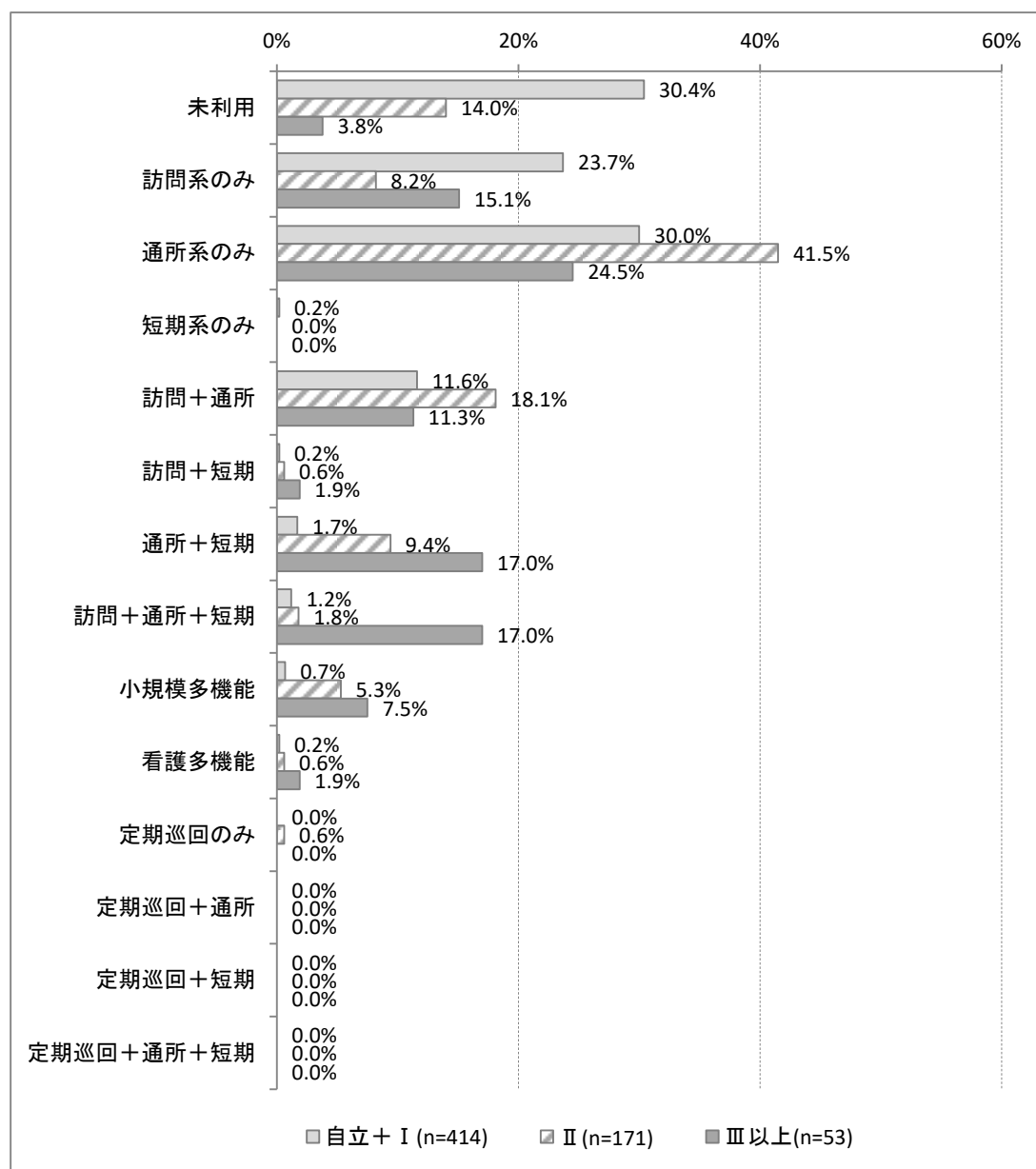
図表 1-6 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



「サービス利用の組み合わせ」×「認知症自立度」クロス集計

“自立＋Ⅰ”では、「訪問系のみ」の割合が他の自立度に比べて高くなっています。
 “Ⅱ”では「通所系のみ」が、“Ⅲ以上”では「通所＋短期」、「訪問＋通所＋短期」、
 「小規模多機能」等の割合が他の認知症自立度と比べて高くなっています。

図表 1-7 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



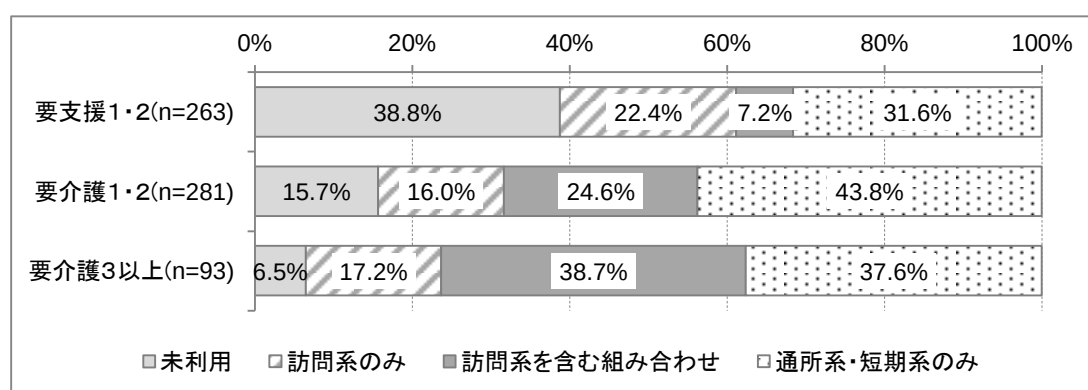
【着目すべきポイント】

- ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化した集計分析をしています（図表 1-8、図表 1-9）。
- 具体的には、サービス利用の組み合わせを、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に分類したものです。
- 組み合わせのパターンが細分化された集計分析（図表 1-6、図表 1-7）と比較して、上記のような視点から、重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化の傾向等を分かりやすく示すことを目的としたものです。
- 前掲の集計分析（図表 1-6、図表 1-7）と同様に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。
- また、中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

「サービス利用の組み合わせ」×「要介護度」クロス集計

要介護度が高くなるにつれて、「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高くなっています。

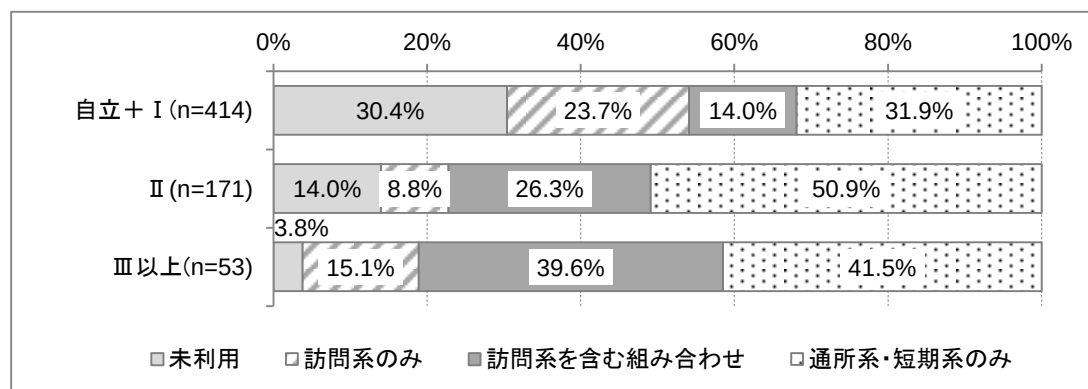
図表 1-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



「サービス利用の組み合わせ」×「認知症自立度」クロス集計

“自立＋Ⅰ”では「未利用」、「訪問系のみ」の割合が他の認知症自立度と比べて高くなっています。認知症自立度が高くなるにつれて、「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高くなっています。

図表 1-9 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

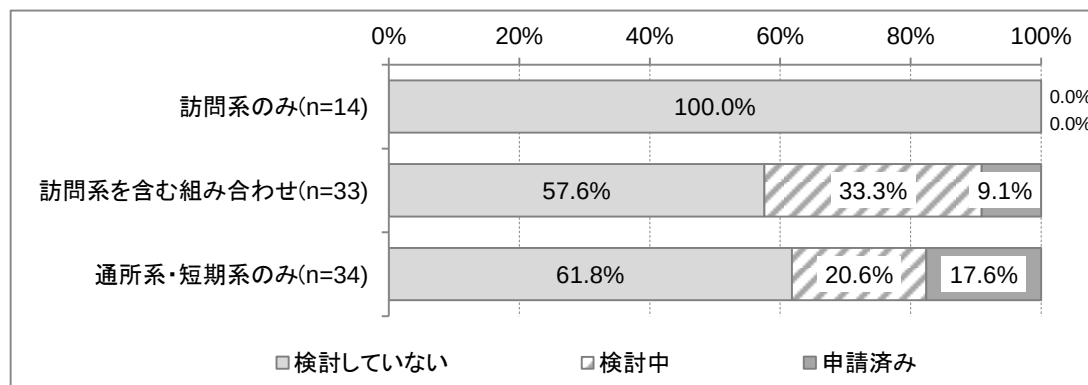
【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係について、集計分析をしています。それぞれ、要介護3以上と要介護4以上、認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表1-10～図表1-12は、「サービス利用の組み合わせ」別に「施設等検討の状況」の割合を集計分析したもので、特に「サービス利用の組み合わせ」ごとの「施設等検討の状況」の比較が容易です。
- また、図表1-13～図表1-15は、表側と表頭を逆にして集計したもので、「施設等検討の状況」別の「サービス利用の組み合わせ」をみることができます。これにより、例えば施設等への入所・入居を「検討していない」ケースのような「適切な在宅生活の継続を実現している」と考えられる要介護者について、実際に「どのような組み合わせのサービスを利用しているか」を把握することができます。
- したがって、例えば「検討中」や「申請済み」と比較して、「検討していない」ケースで多くみられるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

「施設等検討の状況」×「サービス利用の組み合わせ」×「要介護3以上」クロス集計

“訪問系のみ”では「検討していない」の割合が100%となっています。“通所系・短期系のみ”では「申請済み」の割合が他の組み合わせと比べて高くなっています。

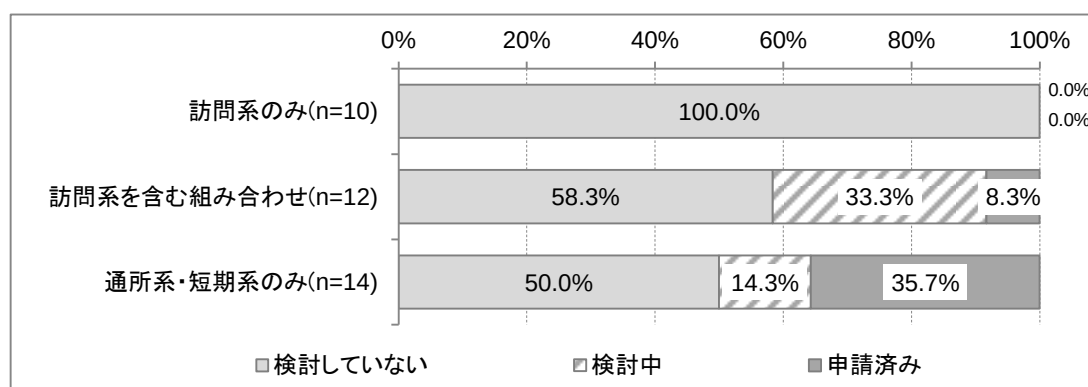
図表 1-10 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



「施設等検討の状況」×「サービス利用の組み合わせ」×「要介護4以上」クロス集計

“訪問系のみ”では「検討していない」の割合が100%となっています。“通所系・短期系のみ”では「申請済み」の割合が他の組み合わせと比べて高くなっています。

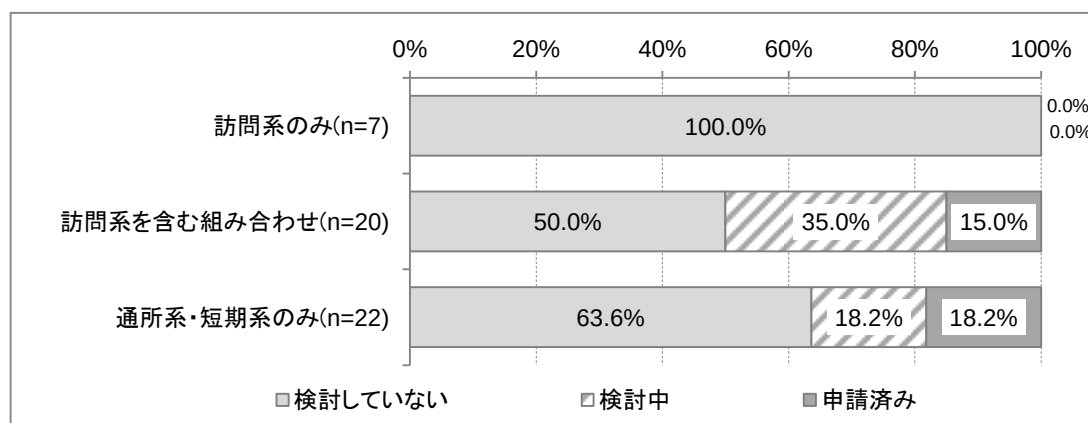
図表 1-11 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



「施設等検討の状況」×「サービス利用の組み合わせ」×「認知症Ⅲ以上」クロス集計

“訪問系のみ”では「検討していない」の割合が100%となっています。“通所系・短期系のみ”では「申請済み」の割合が他の組み合わせと比べて若干高くなっています。

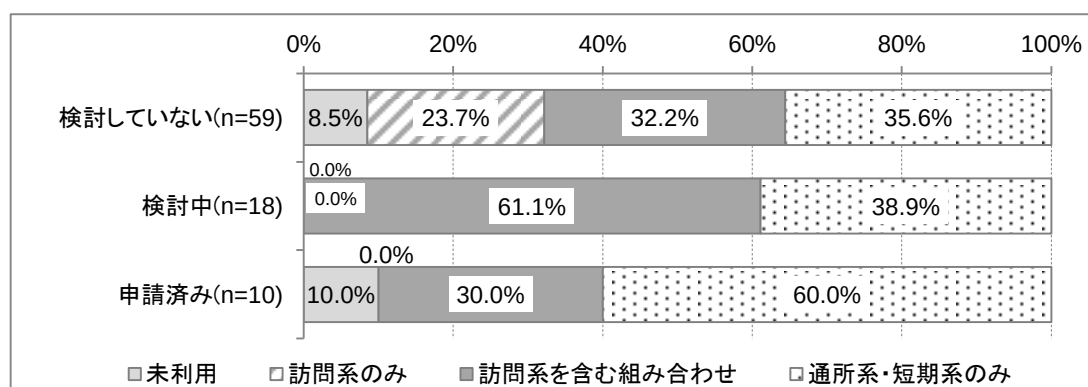
図表 1-12 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



「サービス利用の組み合わせ」×「施設等検討の状況」×「要介護3以上」クロス集計

“検討していない”では「訪問系のみ」の割合が他の検討状況と比べて高くなっています。

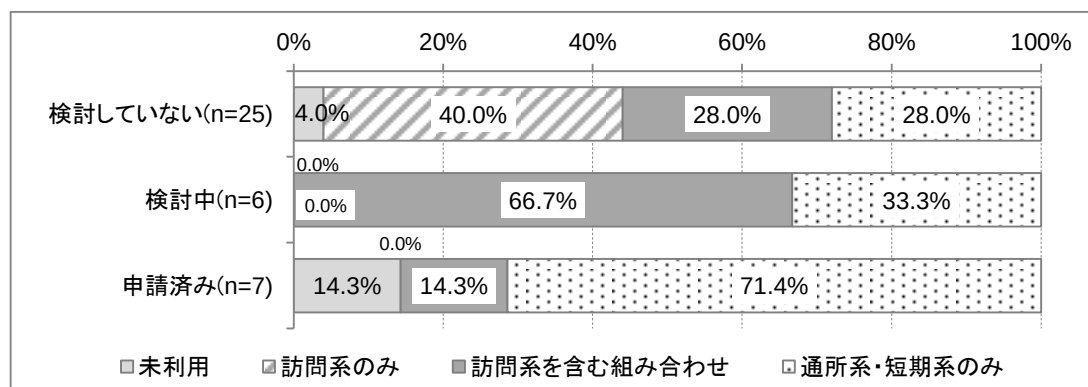
図表 1-13 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



「サービス利用の組み合わせ」×「施設等検討の状況」×「要介護4以上」クロス集計

“検討していない”では「訪問系のみ」の割合が他の検討状況と比べて高くなっています。

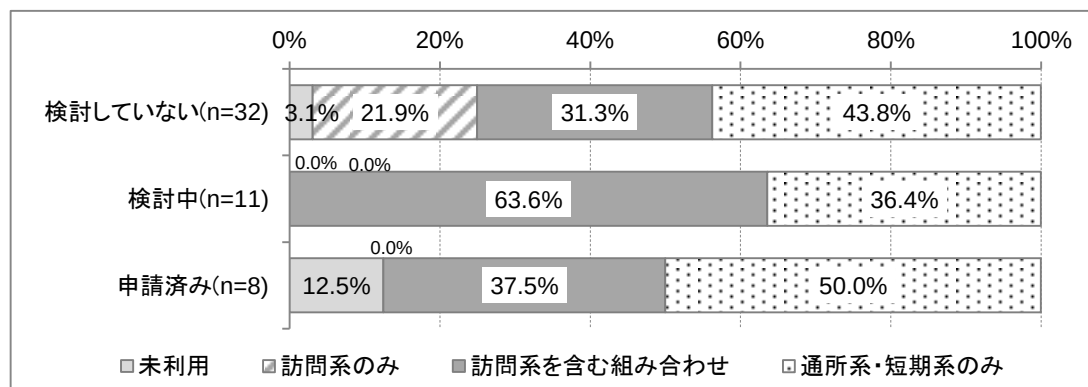
図表 1-14 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



「サービス利用の組み合わせ」×「施設等検討の状況」×「認知症Ⅲ以上」クロス集計

“検討していない”では「訪問系のみ」の割合が他の検討状況と比べて高くなっています。

図表 1-15 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

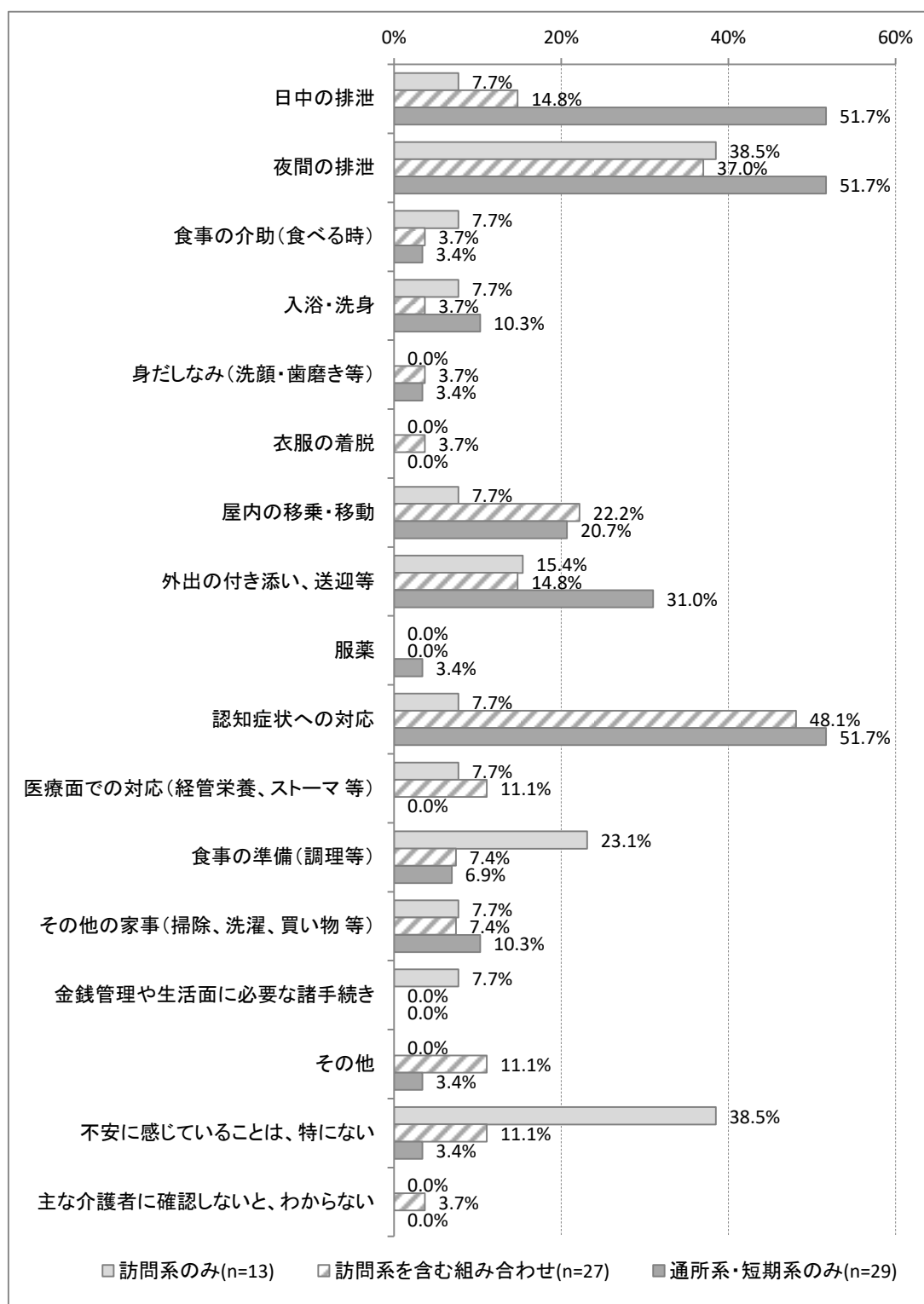
【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係について、集計分析をしています（図表 1-16、図表 1-17）。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護 等）」について、「主な介護者が不安に感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- したがって、「主な介護者の不安」が比較的小さくなるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するようなサービス整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

「介護者が不安を感じる介護」×「サービス利用の組み合わせ」×「要介護3以上」クロス集計

“訪問系のみ”では「食事の準備（調理等）」が他の組み合わせに比べて高くなっています。“通所系・短期系のみ”では「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」等の割合が高くなっています。

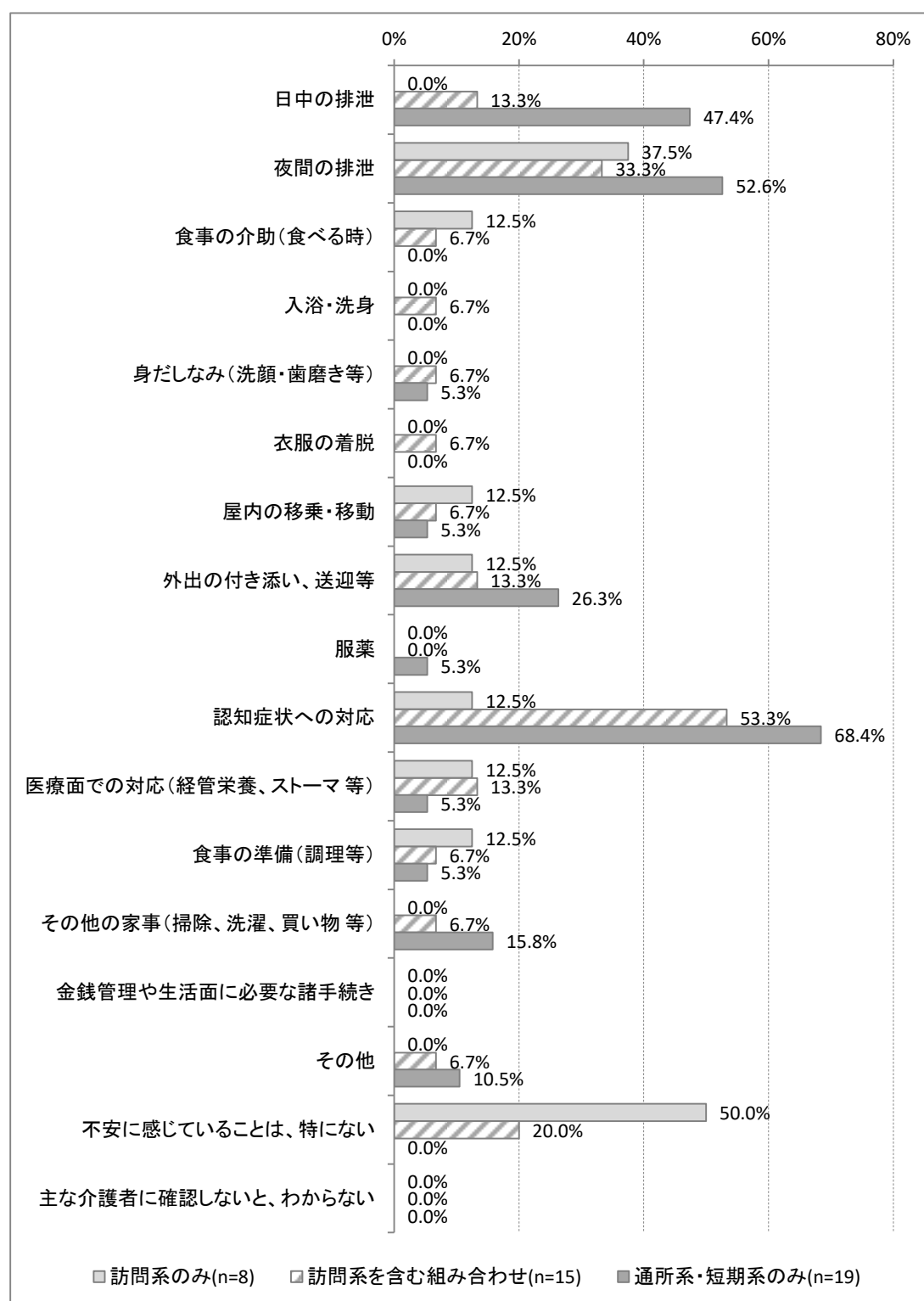
図表 1-16 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）



「介護者が不安を感じる介護」×「サービス利用の組み合わせ」×「認知症Ⅲ以上」クロス集計

“通所系・短期系のみ”では「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」の割合が他の組み合わせと比べて高くなっています。

図表 1-17 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）



(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係

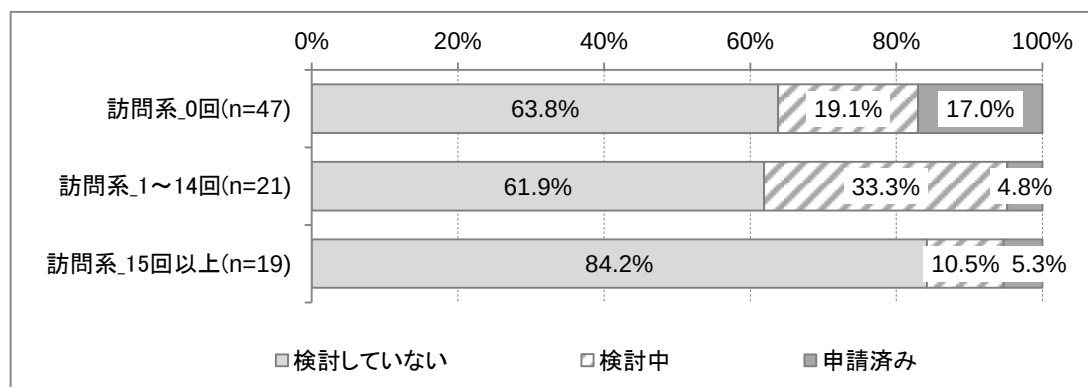
【着目すべきポイント】

- (4)では、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」について、集計分析を行っています。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表 1-18 と図表 1-19 が訪問系、図表 1-20 と図表 1-21 通所系、図表 1-22 と図表 1-23 が短期系について集計分析した結果です。
- 「サービス利用の回数」の増加に伴い、施設等への入所・入居を「検討していない」割合が高くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

「施設等検討の状況」×「訪問系サービス利用回数」×「要介護3以上」クロス集計

“訪問系1～14回”では「検討中」の割合が他の利用回数と比べて高くなっています。

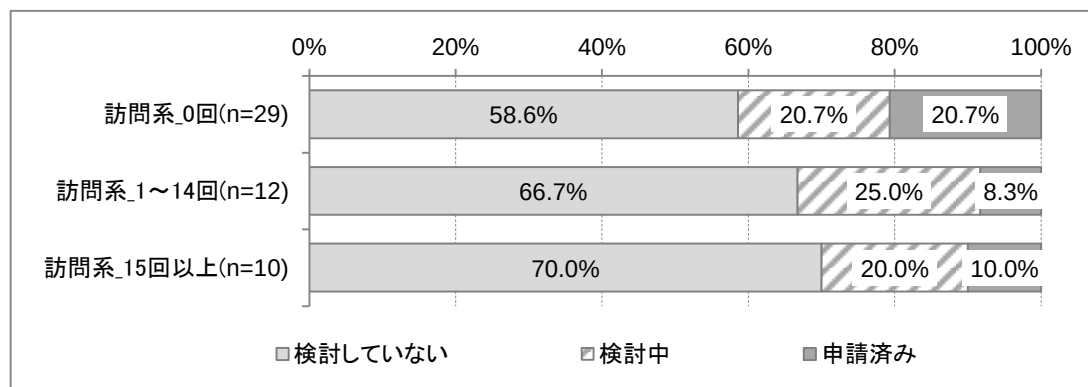
図表 1-18 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）



「施設等検討の状況」×「訪問系サービス利用回数」×「認知症Ⅲ以上」クロス集計

“訪問系1～14回”では「検討中」の割合が他の利用回数と比べて高くなっています。

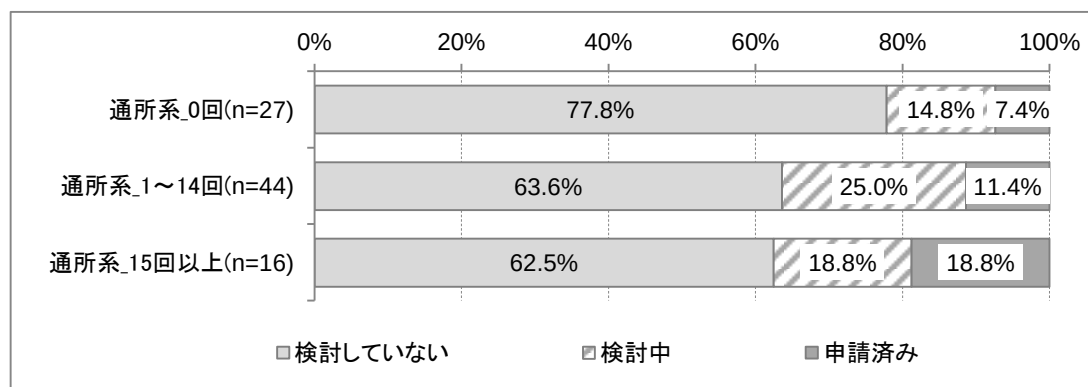
図表 1-19 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）



「施設等検討の状況」×「通所系サービス利用回数」×「要介護3以上」クロス集計

“通所系1～14回”では「検討中」の割合が他の利用回数と比べて高くなっています。

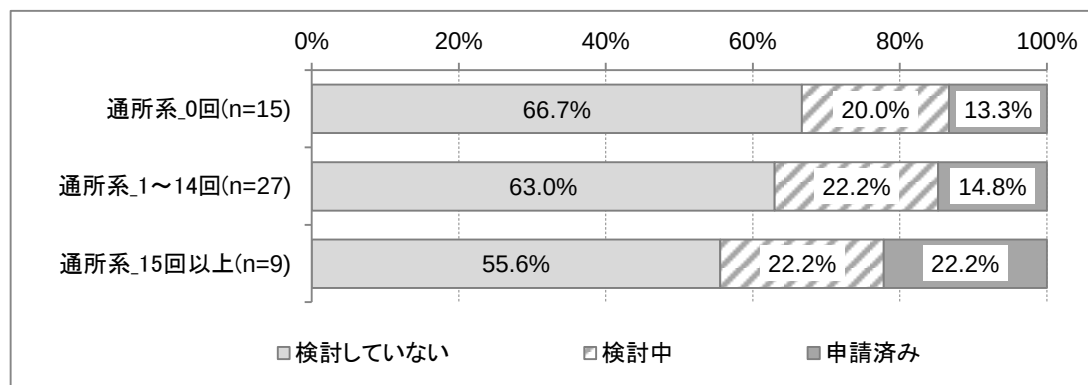
図表 1-20 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護3以上）



「施設等検討の状況」×「通所系サービス利用回数」×「認知症Ⅲ以上」クロス集計

“通所系0回”では「検討していない」の割合が他の利用回数と比べて高くなっています。

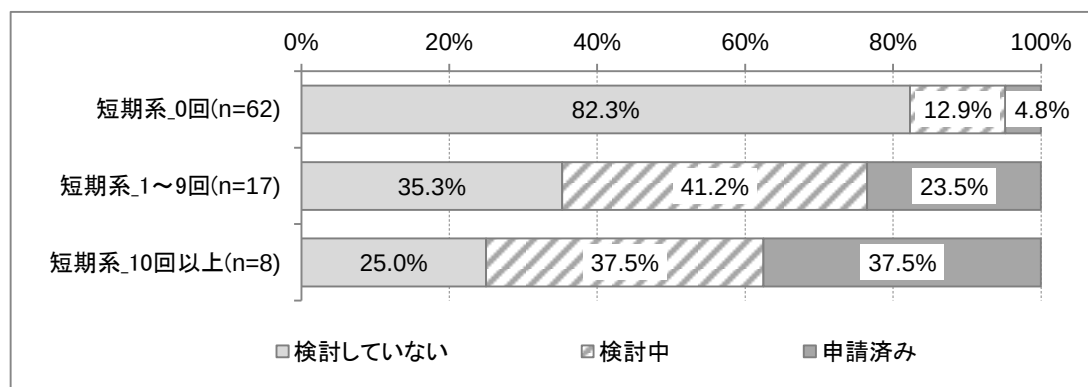
図表 1-21 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症Ⅲ以上）



「施設等検討の状況」×「短期系サービス利用回数」×「要介護3以上」クロス集計

“短期系1～9回”では「検討中」の割合が他の利用回数と比べて高くなっています。

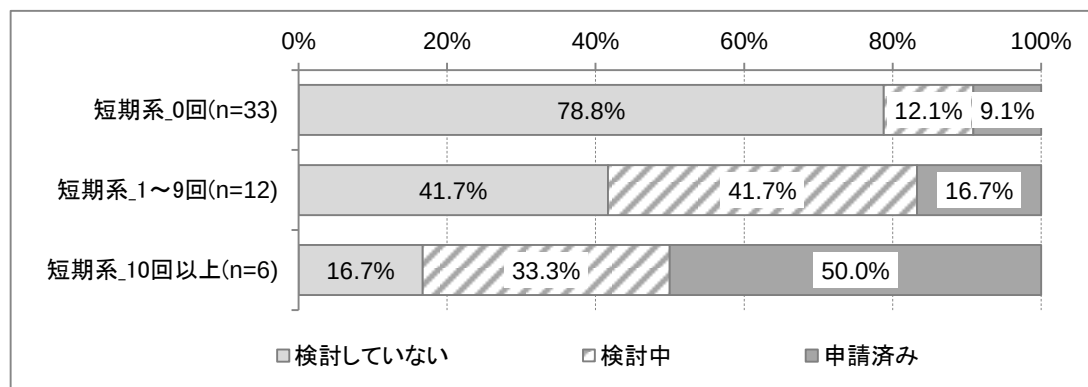
図表 1-22 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護3以上）



「施設等検討の状況」×「短期系サービス利用回数」×「認知症Ⅲ以上」クロス集計

“短期系1～9回”では「検討中」の割合が他の利用回数と比べて高くなっています。

図表 1-23 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症Ⅲ以上）



(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

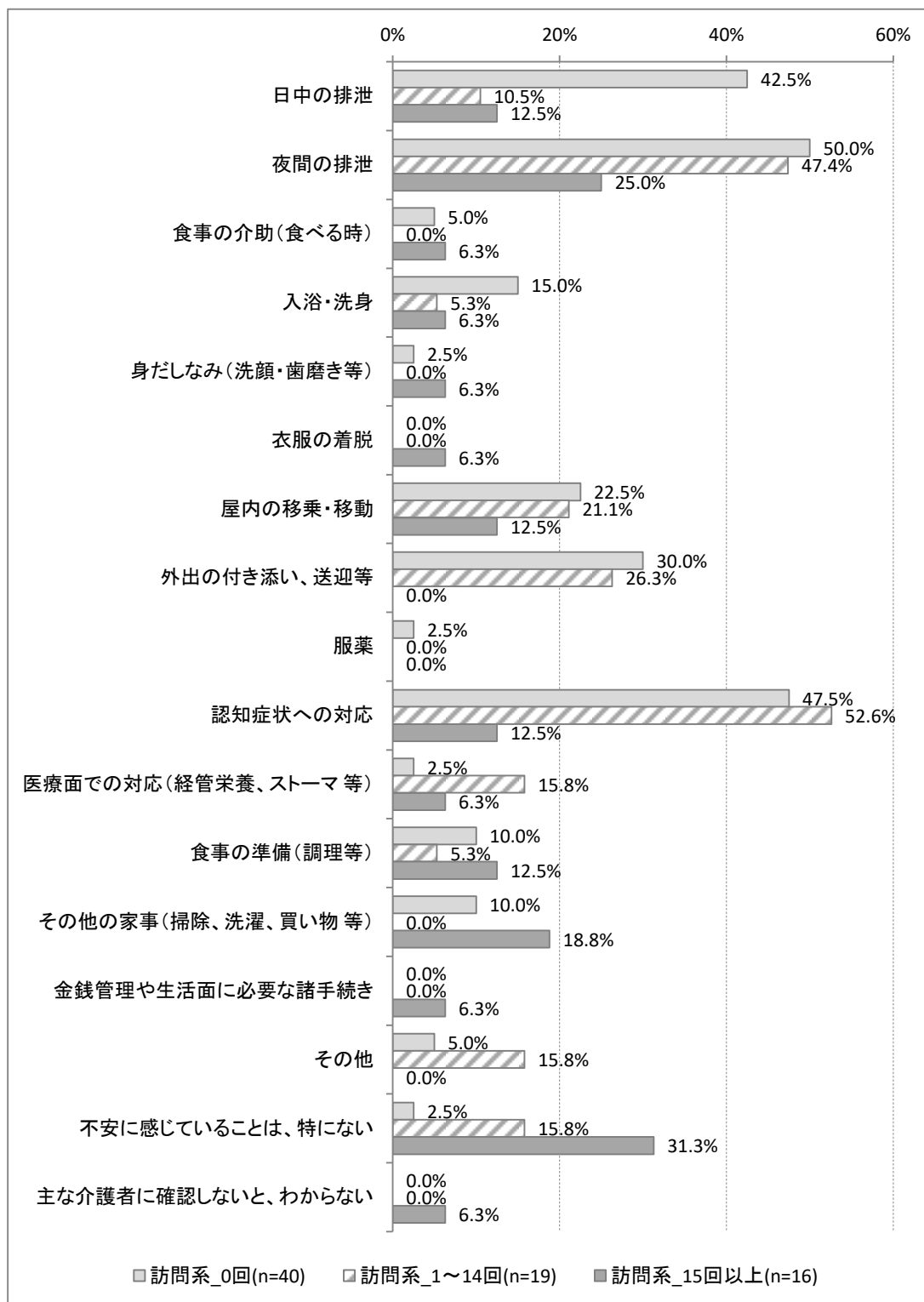
【着目すべきポイント】

- (5)では、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、集計分析を行っています。
- 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護 等）」について、「主な介護者が不安に感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表 1-24 と図表 1-25 が訪問系、図表 1-26 と図表 1-27 が通所系、図表 1-28 と図表 1-29 が短期系について集計分析した結果です。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「サービス利用の回数」の増加に伴い、「主な介護者が不安に感じる」割合が低くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなど期待されます。

「介護者が不安を感じる介護」×「訪問系サービス利用回数」×「要介護3以上」クロス集計

訪問系の利用回数の増加につれて、「夜間の排泄」の割合が低くなっています。

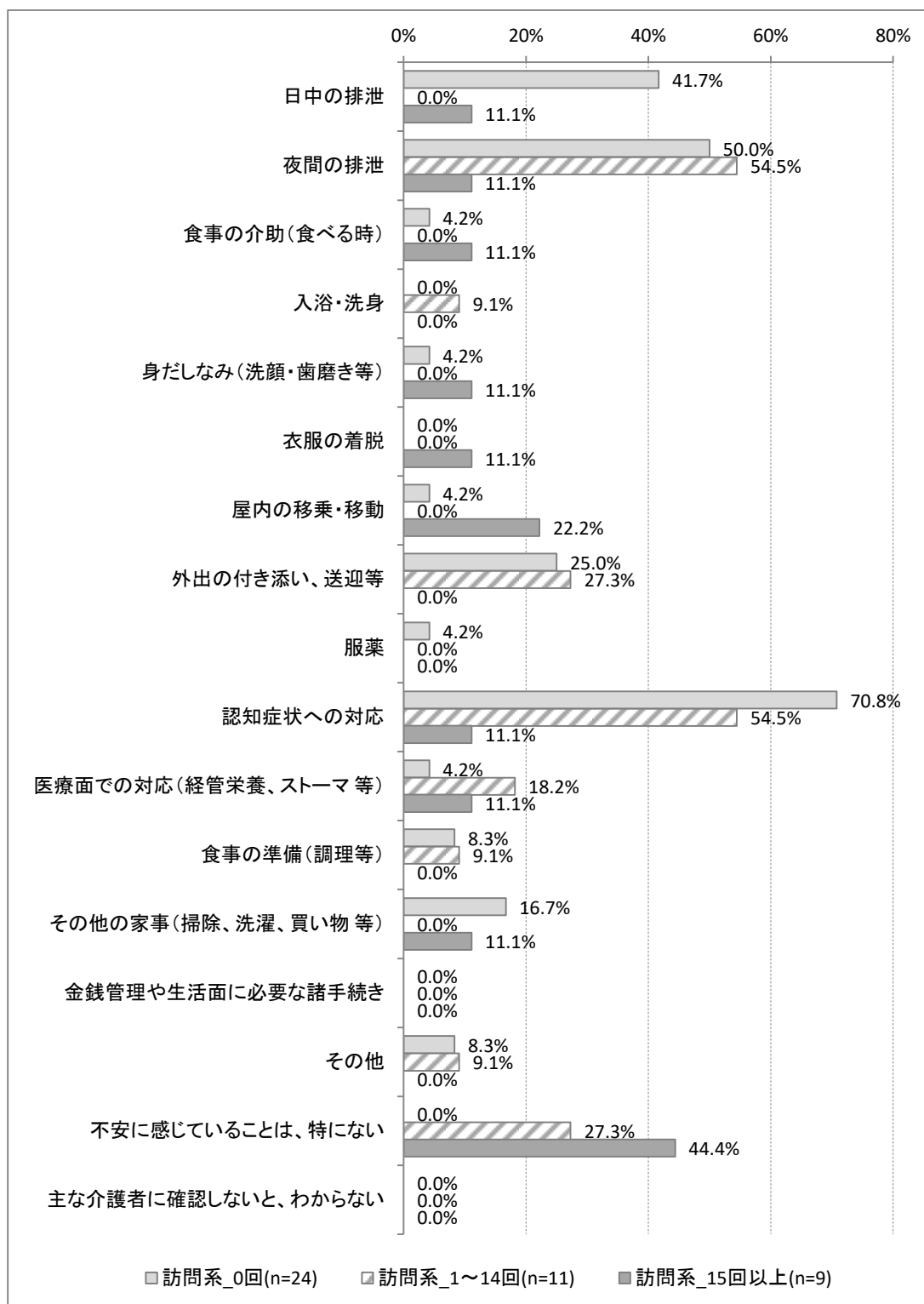
図表 1-24 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）



「介護者が不安を感じる介護」×「訪問系サービス利用回数」×「認知症Ⅲ以上」クロス集計

訪問系の利用回数の増加につれて、「認知症状への対応」の割合が低くなっています。

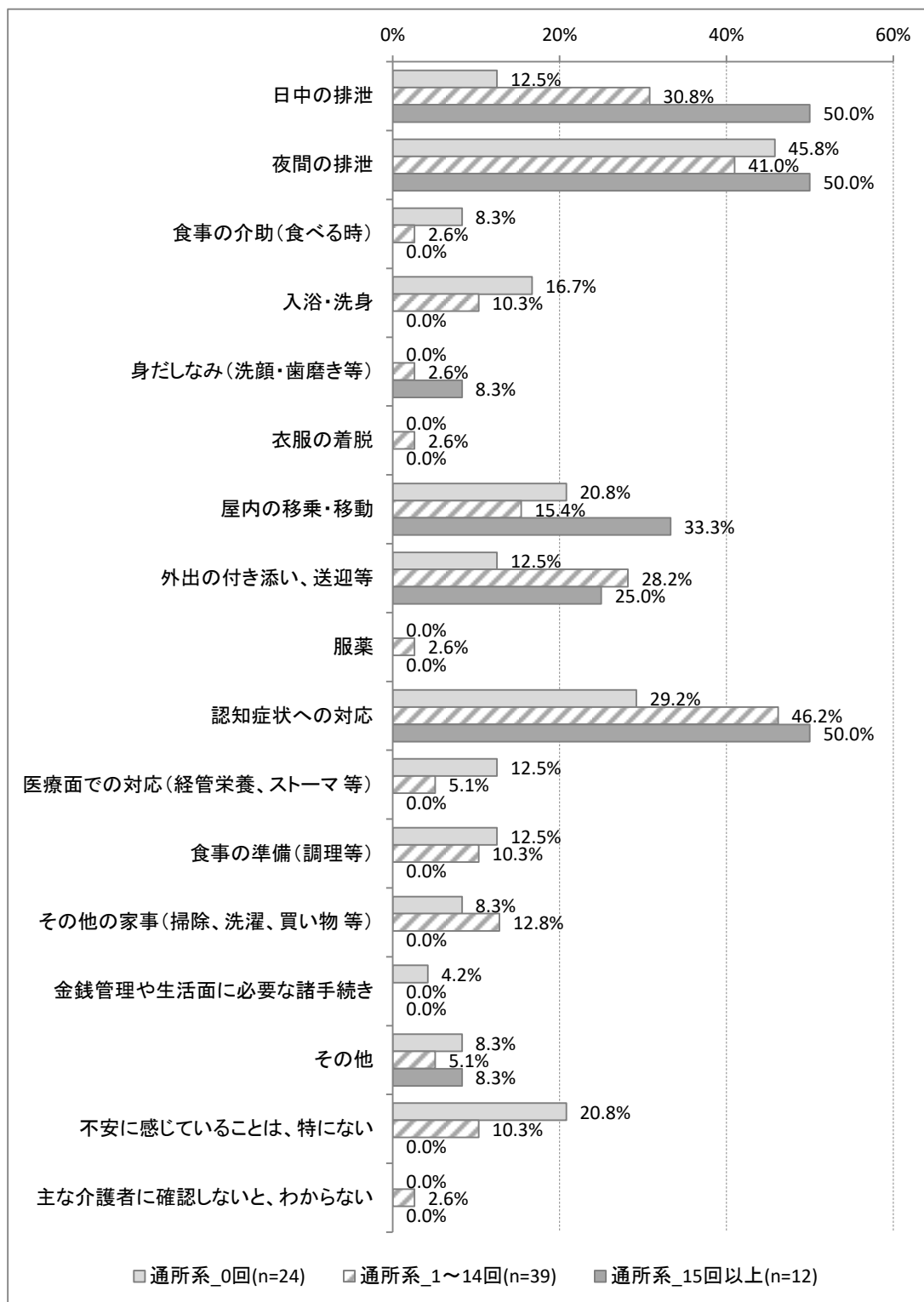
図表 1-25 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）



「介護者が不安を感じる介護」×「通所系サービス利用回数」×「要介護3以上」クロス集計

“通所系15回以上”では「夜間の排泄」、「認知症状への対応」等の割合が他の利用回数と比べて高くなっています。

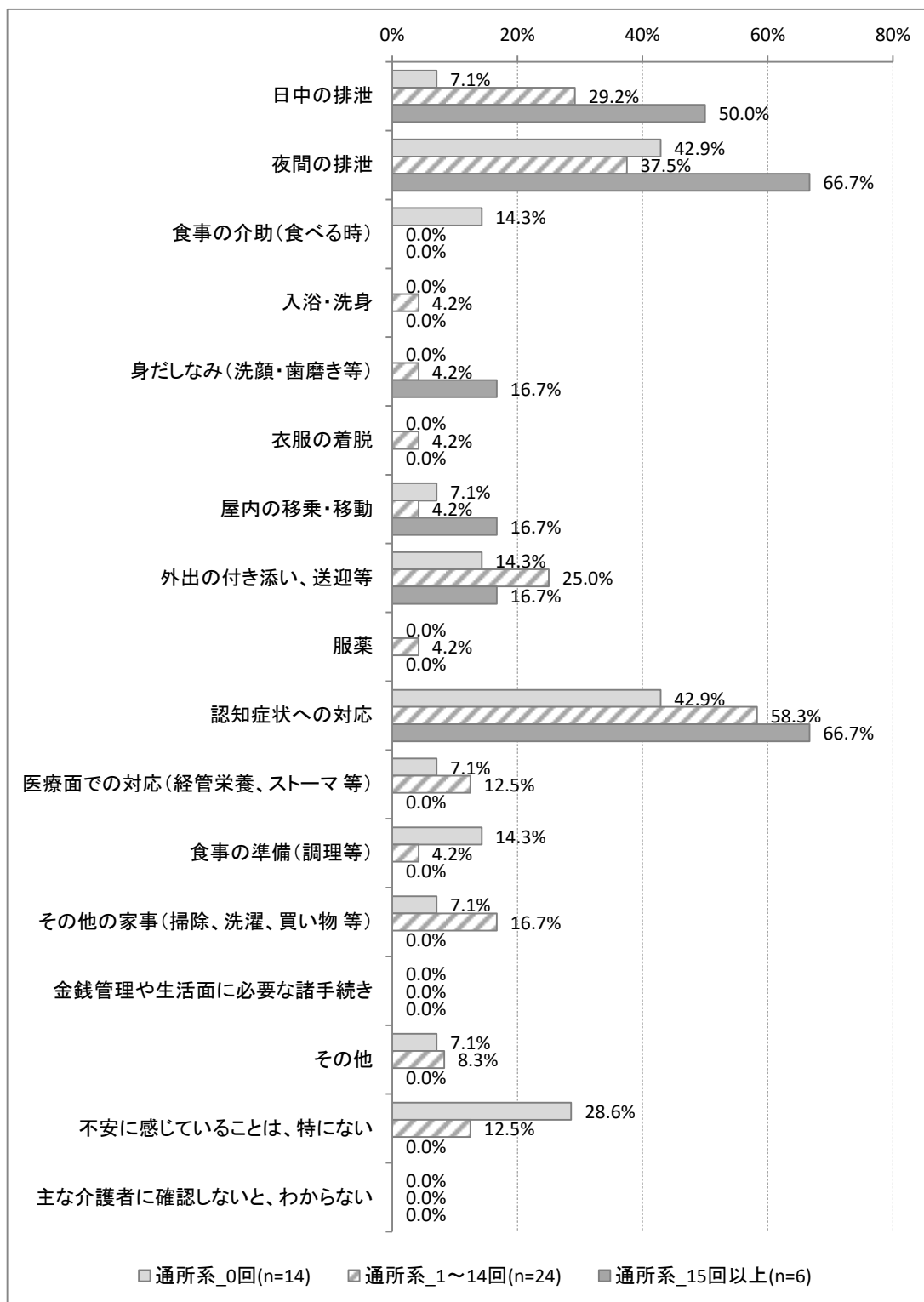
図表 1-26 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護3以上）



「介護者が不安を感じる介護」×「通所系サービス利用回数」×「認知症Ⅲ以上」クロス集計

“通所系15回以上”では「夜間の排泄」、「認知症状への対応」等の割合が他の利用回数と比べて高くなっています。

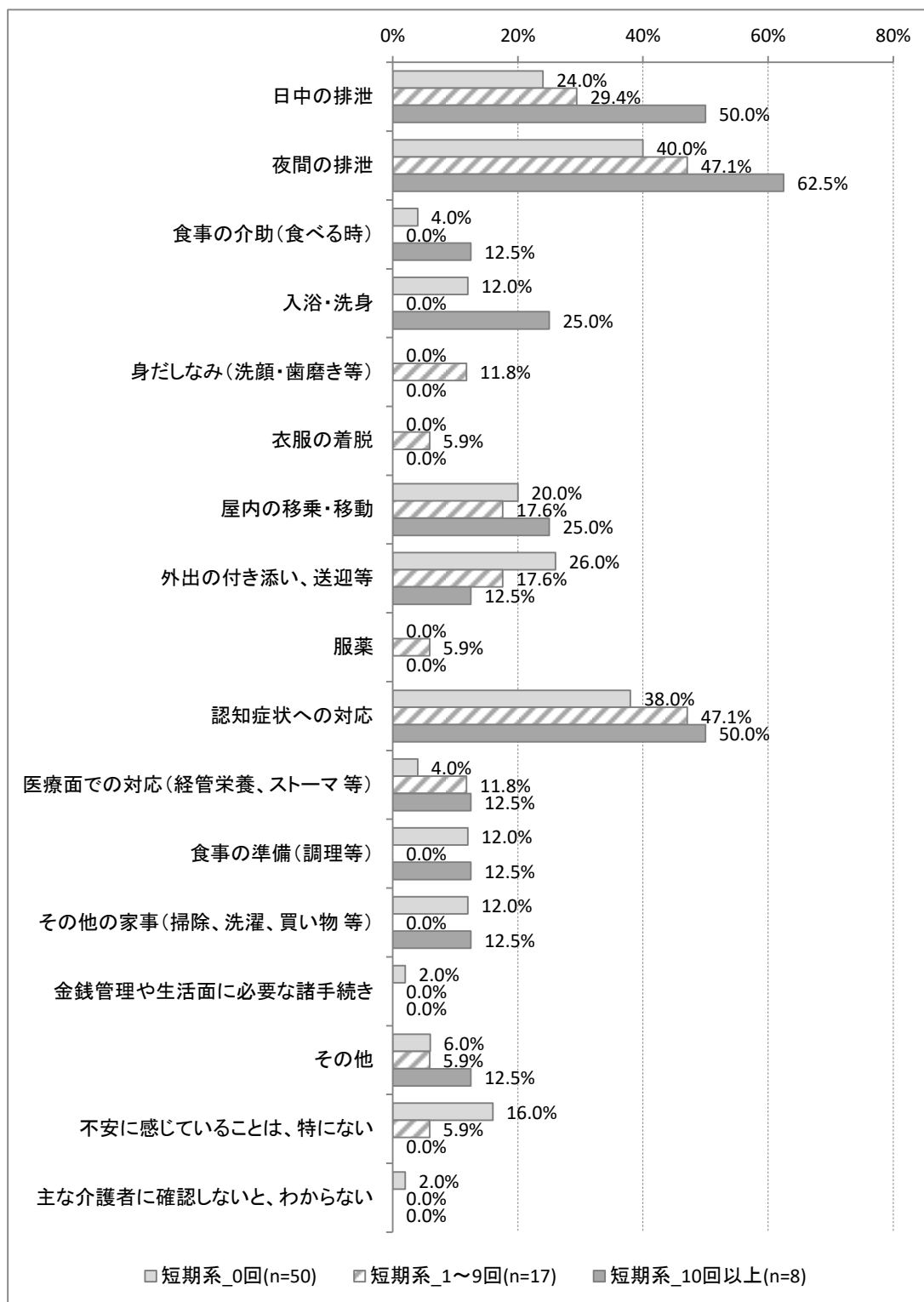
図表 1-27 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、認知症Ⅲ以上）



「介護者が不安を感じる介護」×「短期系サービス利用回数」×「要介護3以上」クロス集計

“短期系10回以上”では「夜間の排泄」、「認知症状への対応」等の割合が他の利用回数と比べて高くなっています。

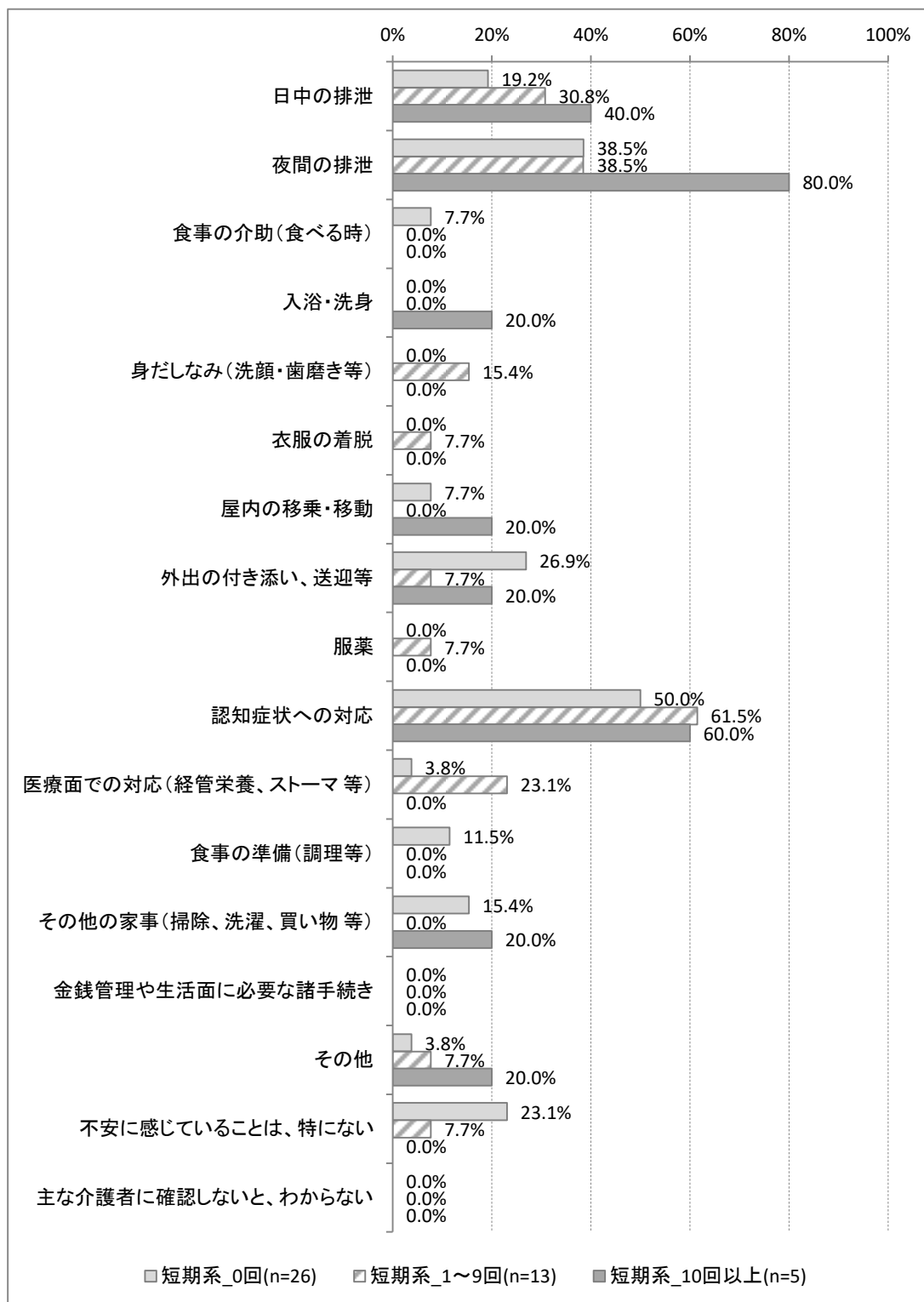
図表 1-28 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、要介護3以上）



「介護者が不安を感じる介護」×「短期系サービス利用回数」×「認知症Ⅲ以上」クロス集計

“短期系10回以上”では「夜間の排泄」等の割合が他の利用回数と比べて高くなっています。

図表 1-29 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、認知症Ⅲ以上）



2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

■集計・分析の狙い

- ここでは、介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況」と「主な介護者の就労継続見込み」の2つの視点からの集計を行っています。
- 具体的には、「就労している介護者（フルタイム勤務、パートタイム勤務）」と「就労していない介護者」の違いに着目し、就労している介護者の属性や介護状況の特徴別に、必要な支援を集計・分析しています。
- さらに、「どのようなサービス利用」や「働き方の調整・職場の支援」を受けている場合に、「就労を継続することができる」という見込みを持つことができるのかを分析するために、主な介護者の「就労継続見込み」と、「主な介護者が行っている介護」や「介護保険サービスの利用の有無」、「介護のための働き方の調整」などとのクロス集計を行っています。
- 上記の視点からの分析では、要介護度や認知症高齢者の日常生活自立度といった要介護者の状態別の分析も加え、要介護者の自立度が重くなっても、在宅生活や就労を継続できる支援のあり方を検討しています。

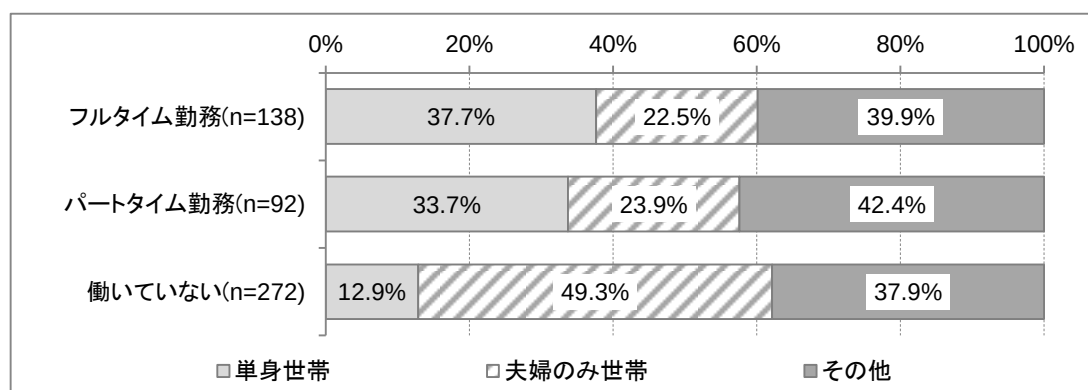
(1) 基礎集計

- 主な介護者の就労状況（フルタイム勤務・パートタイム勤務・働いていない）別に、世帯や介護者の特徴などの基礎的な集計を行っています。
- 主な介護者の属性や、要介護者の要介護度・認知症自立度について、就労状況別にその状況を確認してください。

「世帯類型」×「就労状況」クロス集計

“フルタイム勤務”では他の就労状況と比べて「夫婦のみ世帯」の割合が低く、「単身世帯」の割合が高くなっています。“働いていない”では「夫婦のみ世帯」の割合が他の就労状況と比べて高くなっています。

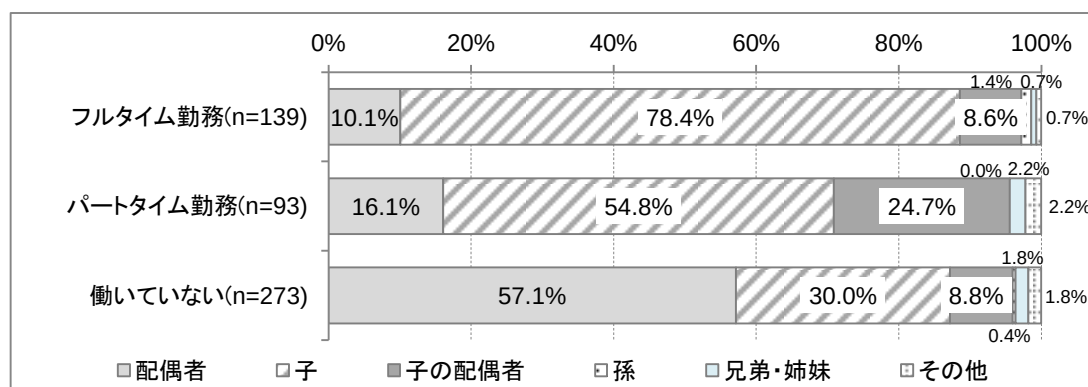
図表 2-1 就労状況別・世帯類型



「主な介護者の本人との関係」×「就労状況」クロス集計

“働いていない”では「配偶者」の割合が他の就労状況と比べて高くなっています。

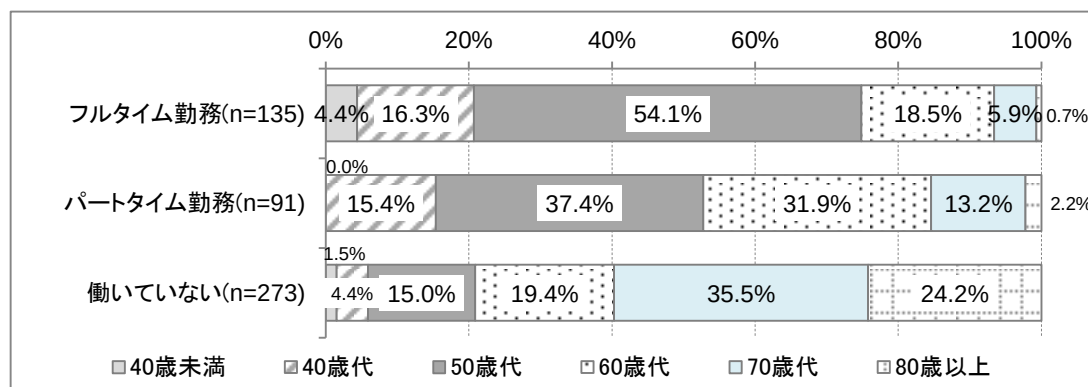
図表 2-2 就労状況別・主な介護者の本人との関係



「主な介護者の年齢」×「就労状況」クロス集計

“働いていない”では「70歳代」、「80歳以上」の割合が他の就労状況と比べて高くなっています。“フルタイム勤務”では「50歳代」以下の年齢層の割合が他の就労状況と比べて高くなっています。

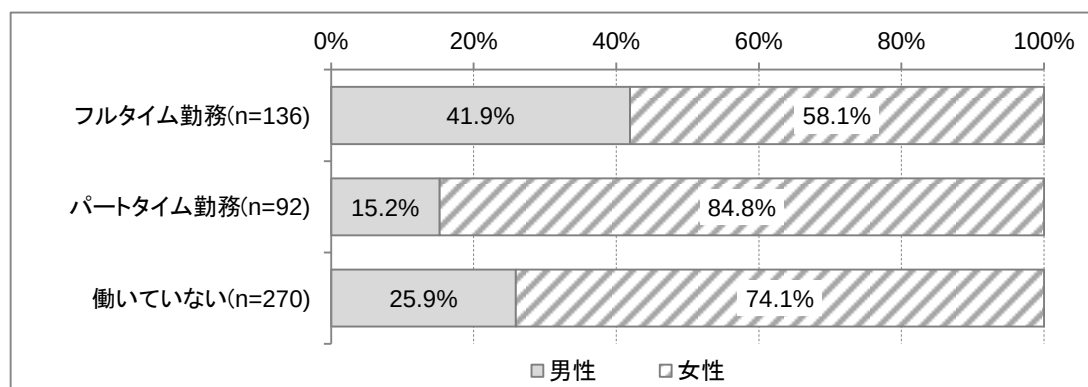
図表 2-3 就労状況別・主な介護者の年齢



「主な介護者の性別」×「就労状況」クロス集計

いずれも「女性」の割合のほうが高く、“パートタイム勤務”が他の就労状況と比べて高くなっています。

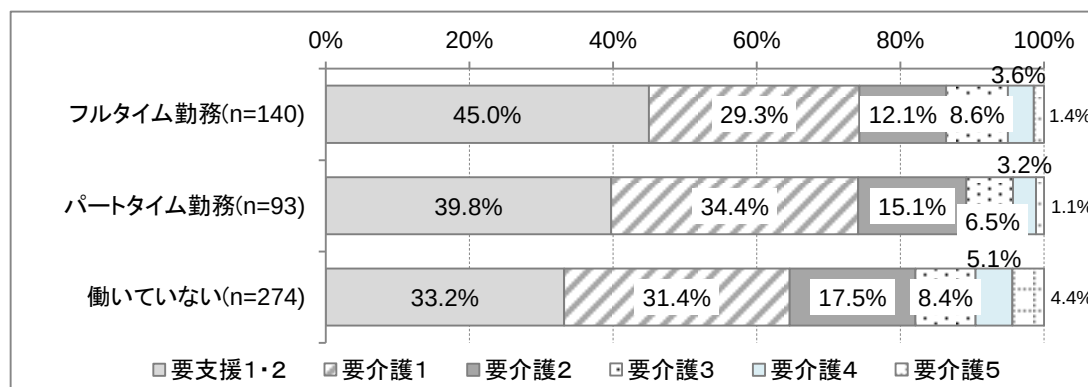
図表 2-4 就労状況別・主な介護者の性別



「要介護度」×「就労状況」クロス集計

“フルタイム勤務”では「要支援1・2」の割合が他の就労状況と比べて高くなっています。“働いていない”では「要介護2」と「要介護4」、「要介護5」の割合が他の就労状況と比べて高くなっています。

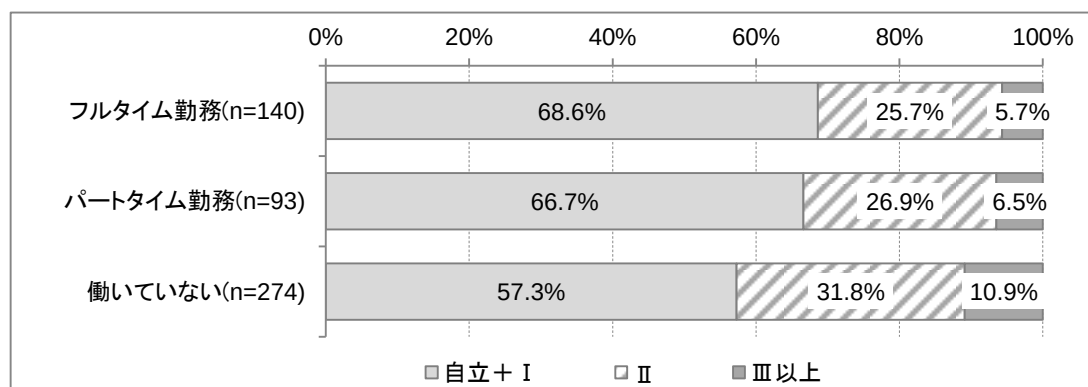
図表 2-5 就労状況別・要介護度



「認知症自立度」×「就労状況」クロス集計

“働いていない”では「Ⅱ」以上の認知症自立度の割合が他の就労状況と比べて高くなっています。

図表 2-6 就労状況別・認知症自立度



(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

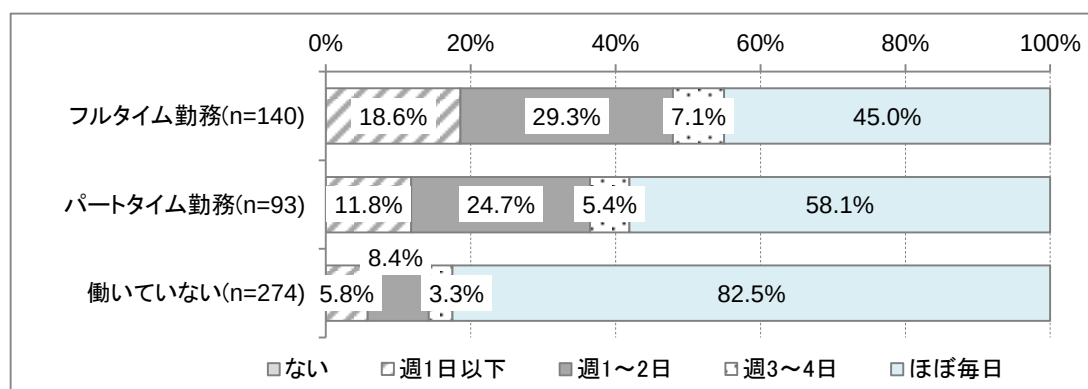
【着目すべきポイント】

- ここでは、「主な介護者が行っている介護」と「今後の就労継続見込み」について、主な介護者の就労状況別に集計分析をしています（図表 2-8、図表 2-9）。
- 「主な介護者が行っている介護」について、例えば、「働いていない」と比較して、「フルタイム勤務」や「パートタイム勤務」で少ない介護は、働いている介護者が、他の介護者や介護サービスの支援を必要としているものと考えられます。
- 「今後の就労継続見込み」については、「就労状況」との関係に加え、「要介護度」や「認知症自立度」別についても、集計分析を行っています。これにより、要介護者の重度化に伴って就労継続見込みを困難と考える人が増加するかどうかを把握することができます。
- なお、就労継続見込みの分析においては、「問題なく、続けていける」の割合と、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」をあわせた「続けていける」と考えている人の割合の2つの指標に着目しています（図表 2-10、図表 2-11）。

「家族等による介護の頻度」×「就労状況」クロス集計

“働いていない”では「ほぼ毎日」の割合が他の就労状況と比べて高くなっています。“フルタイム勤務”では「週1日以下」、「週1～2日」、「週3～4日」の割合が他の就労状況と比べて高くなっています。

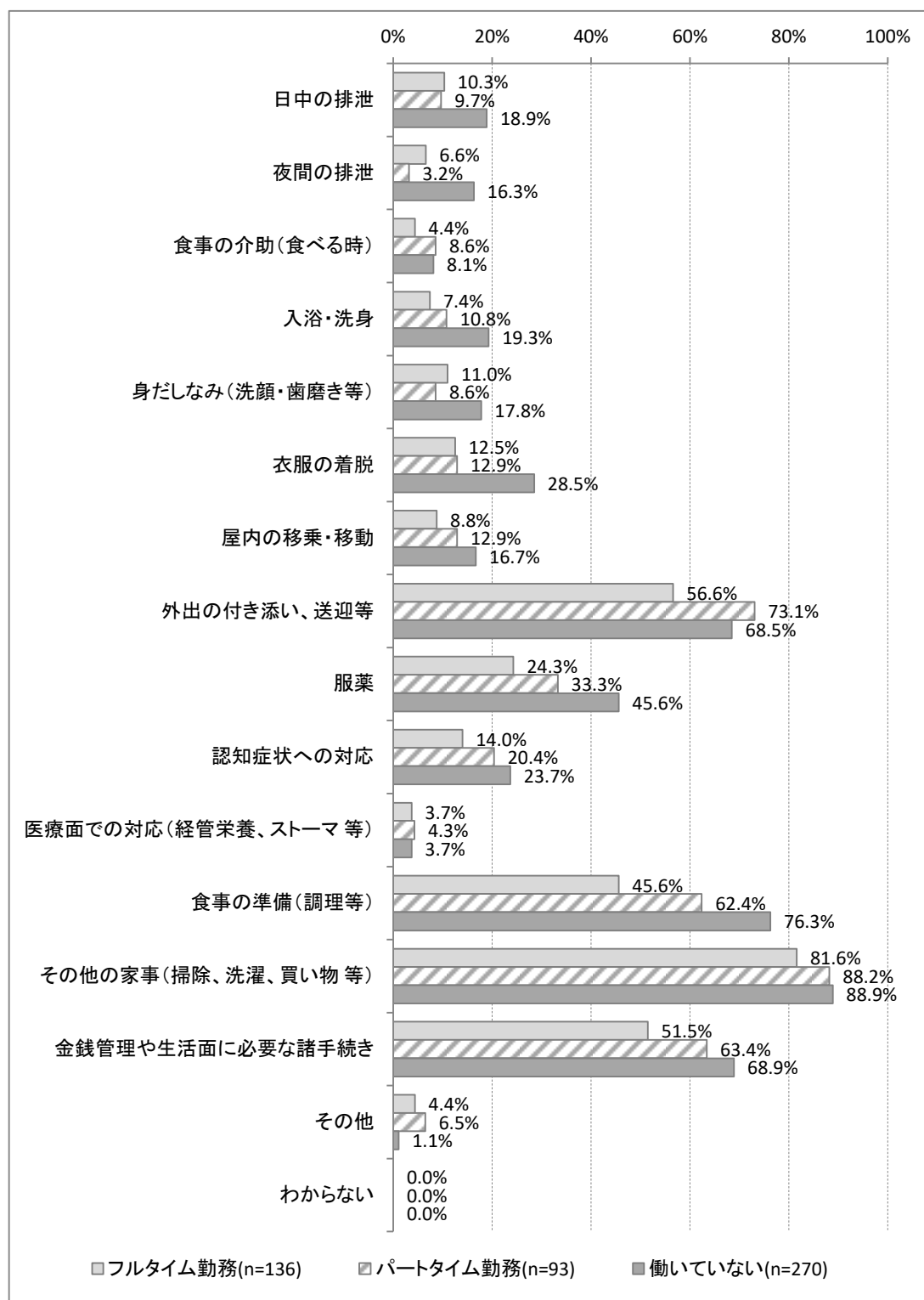
図表 2-7 就労状況別・家族等による介護の頻度



「主な介護者が行っている介護」×「就労状況」クロス集計

“働いていない”では「食事の介助（食べる時）」、「外出の付き添い、送迎等」、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」を除く項目の割合が他の就労状況と比べて高くなっています。

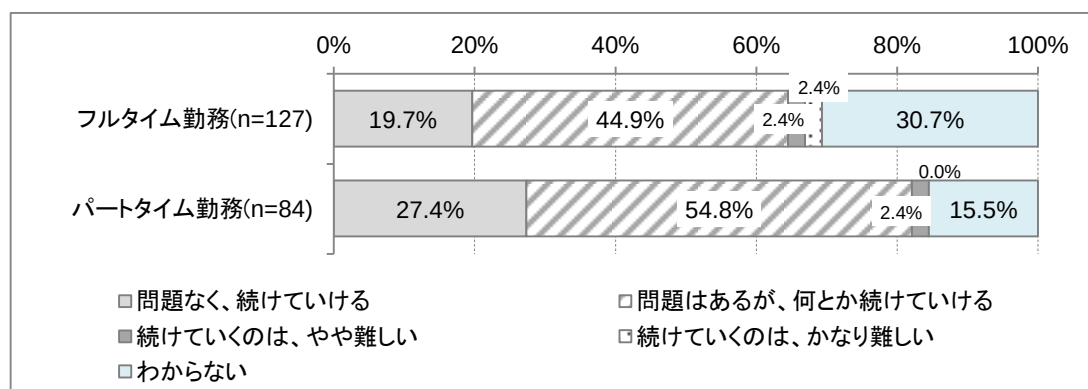
図表 2-8 就労状況別・主な介護者が行っている介護



「就労継続見込み」×「就労状況」クロス集計

“フルタイム勤務”では「問題なく、続けていける」の割合が“パートタイム勤務”と比べて低くなっています。

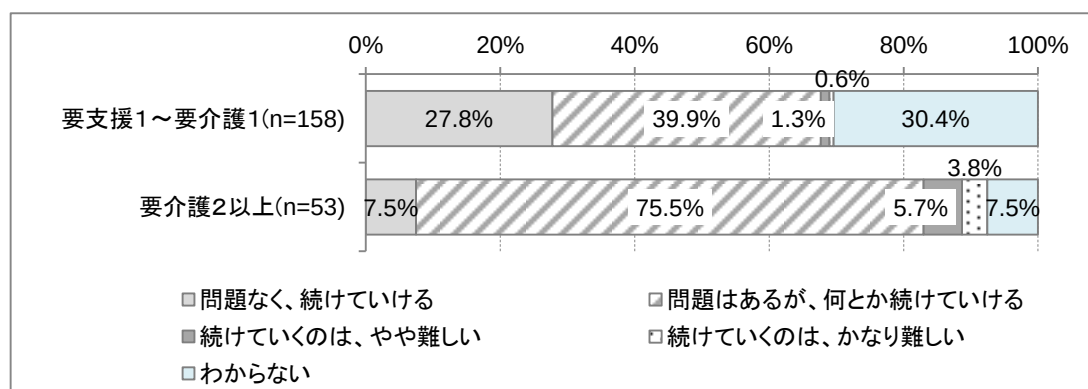
図表 2-9 就労状況別・就労継続見込み



「就労継続見込み」×「要介護度」×「フルタイム勤務+パートタイム勤務」クロス集計

“要支援1～要介護1”では「問題なく、続けていける」の割合が“要介護2以上”と比べて高く、“要介護2以上”では「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が“要支援1～要介護1”と比べて高くなっています。

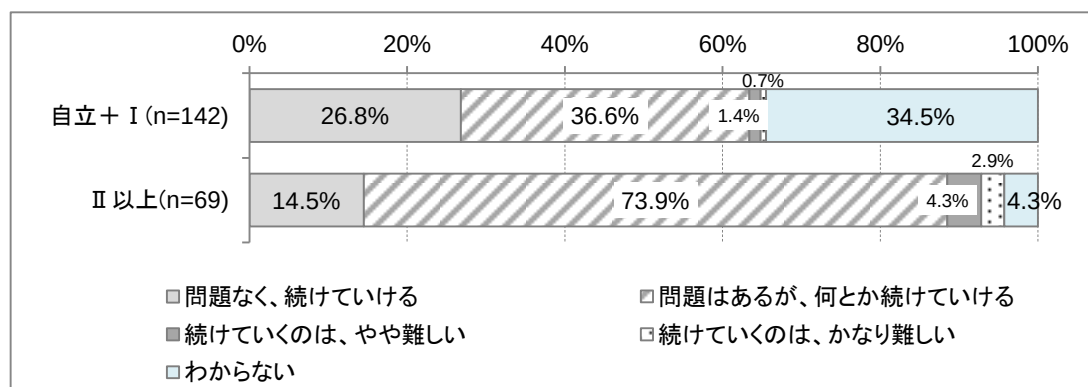
図表 2-10 要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



「就労継続見込み」×「認知症自立度」×「フルタイム勤務＋パートタイム勤務」クロス集計

“自立＋Ⅰ”では「問題なく、続けていける」の割合が“Ⅱ以上”と比べて高く、“Ⅱ以上”では「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が“自立＋Ⅰ”と比べて高くなっています。

図表 2-11 認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係

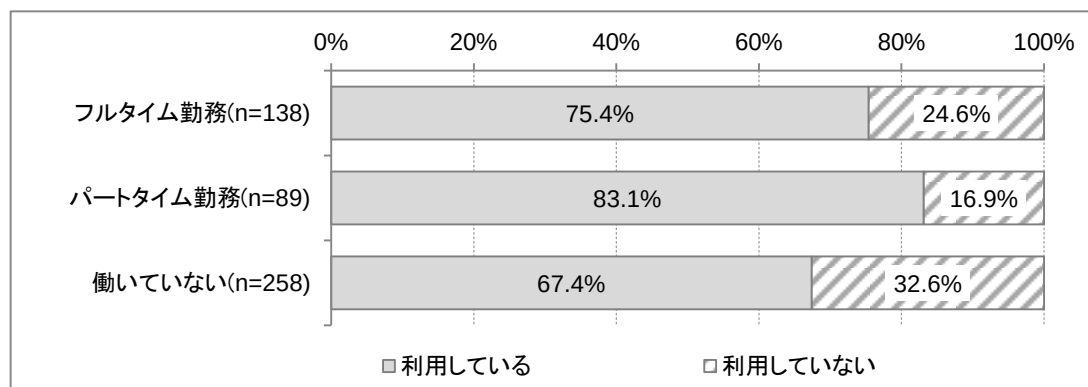
【着目すべきポイント】

- ここでは、「介護保険サービスの利用状況」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています(図表 2-12～図表 2-15)。
- 「介護保険サービスの利用状況」と「就労継続見込み」の関係についての集計分析から、サービス利用による就労継続見込みへの影響を把握することができます。さらに、サービスを利用していない人の「サービス未利用の理由」について、就労継続が困難と考える人が、そうでない人と比較して特徴がみられる理由に着目することで、必要なサービス利用がなされているかどうかを推測することができます。
- 例えば、就労継続が困難と考える人において、サービスを「利用していない」割合が高く、かつサービスを利用していない理由として、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が低い割合にとどまっている場合には、サービス利用の必要性が低くないにも関わらず、サービスの利用がなされていないことになります(図表 2-13、図表 2-14)。
- 「主な介護者が不安に感じる介護」については、就労継続見込みの困難化に伴い、どのような介護等で不安が増加しているかに着目することで、在宅生活を継続しながらの就労継続について、介護者がその可否を判断するポイントとなる可能性がある介護等を把握することができます。

「介護保険サービス利用の有無」×「就労状況」クロス集計

“働いていない”では「利用している」の割合が他の就労状況と比べて低くなっています。

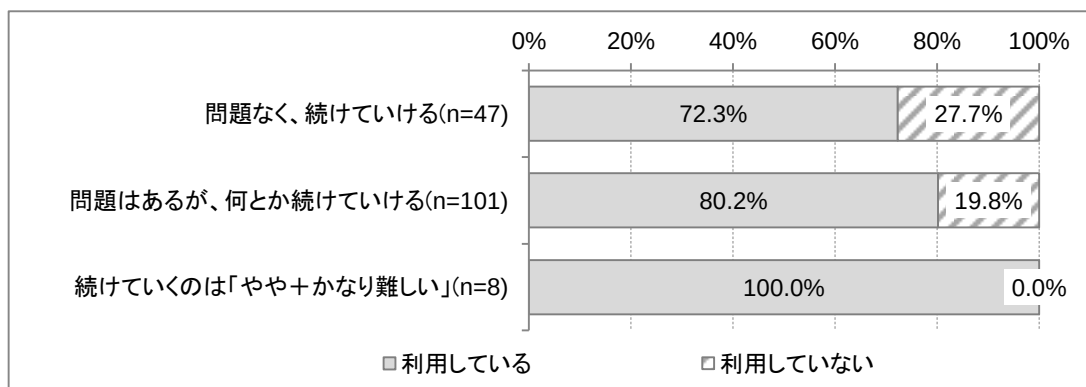
図表 2-12 就労状況別・介護保険サービス利用の有無



「介護保険サービス利用の有無」×「就労継続見込み」×「フルタイム勤務＋パートタイム勤務」クロス集計

“続けていくのは「やや＋かなり難しい」”では「利用している」の割合が他の就労継続見込みと比べて高くなっています。

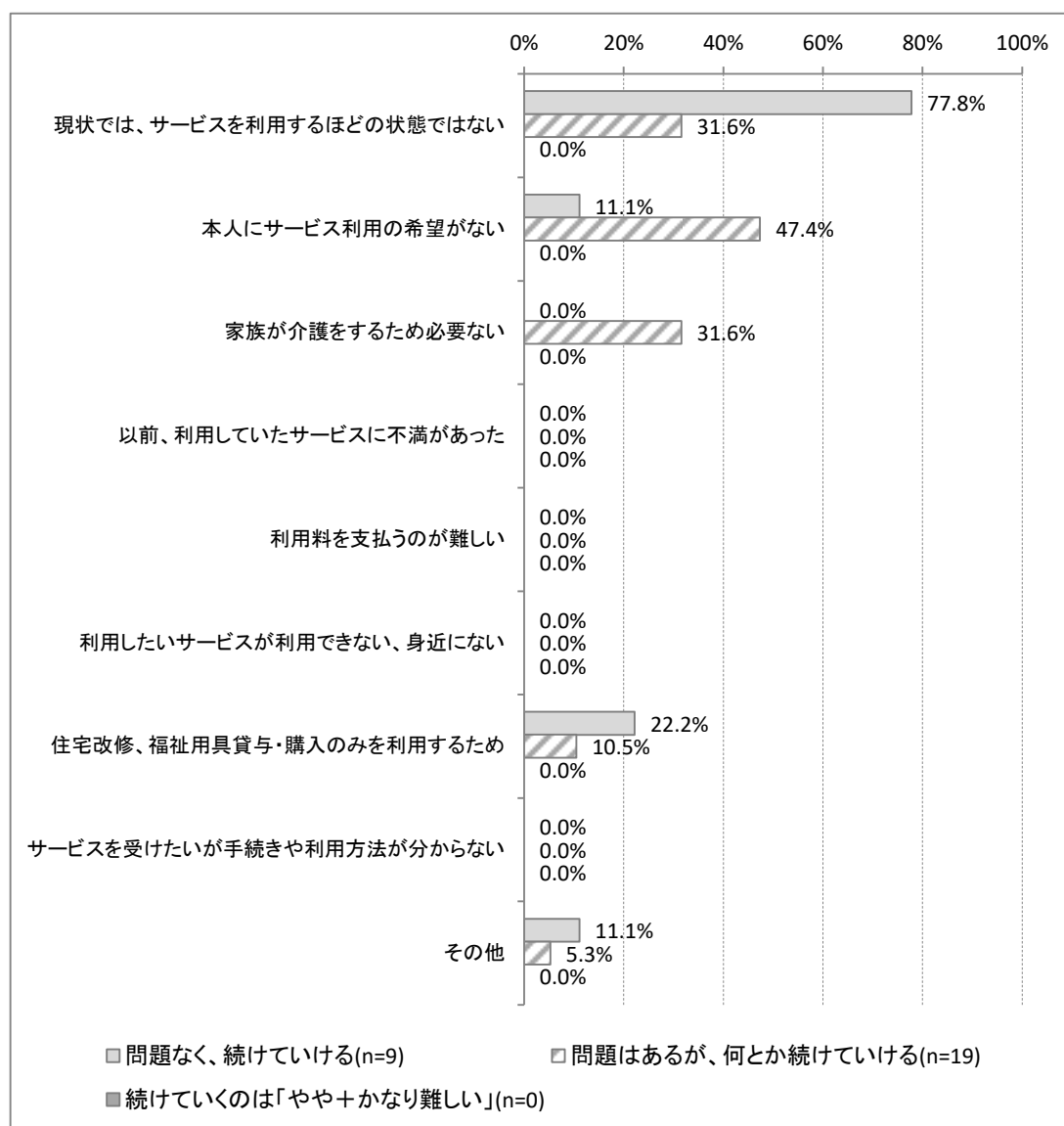
図表 2-13 就労継続見込み別・介護保険サービス利用の有無
(フルタイム勤務＋パートタイム勤務)



「サービス未利用の理由」×「就労継続見込み」×「フルタイム勤務＋パートタイム勤務」クロス集計

“問題なく、続けていける”では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」の割合が他の就労継続見込みと比べて高くなっています。

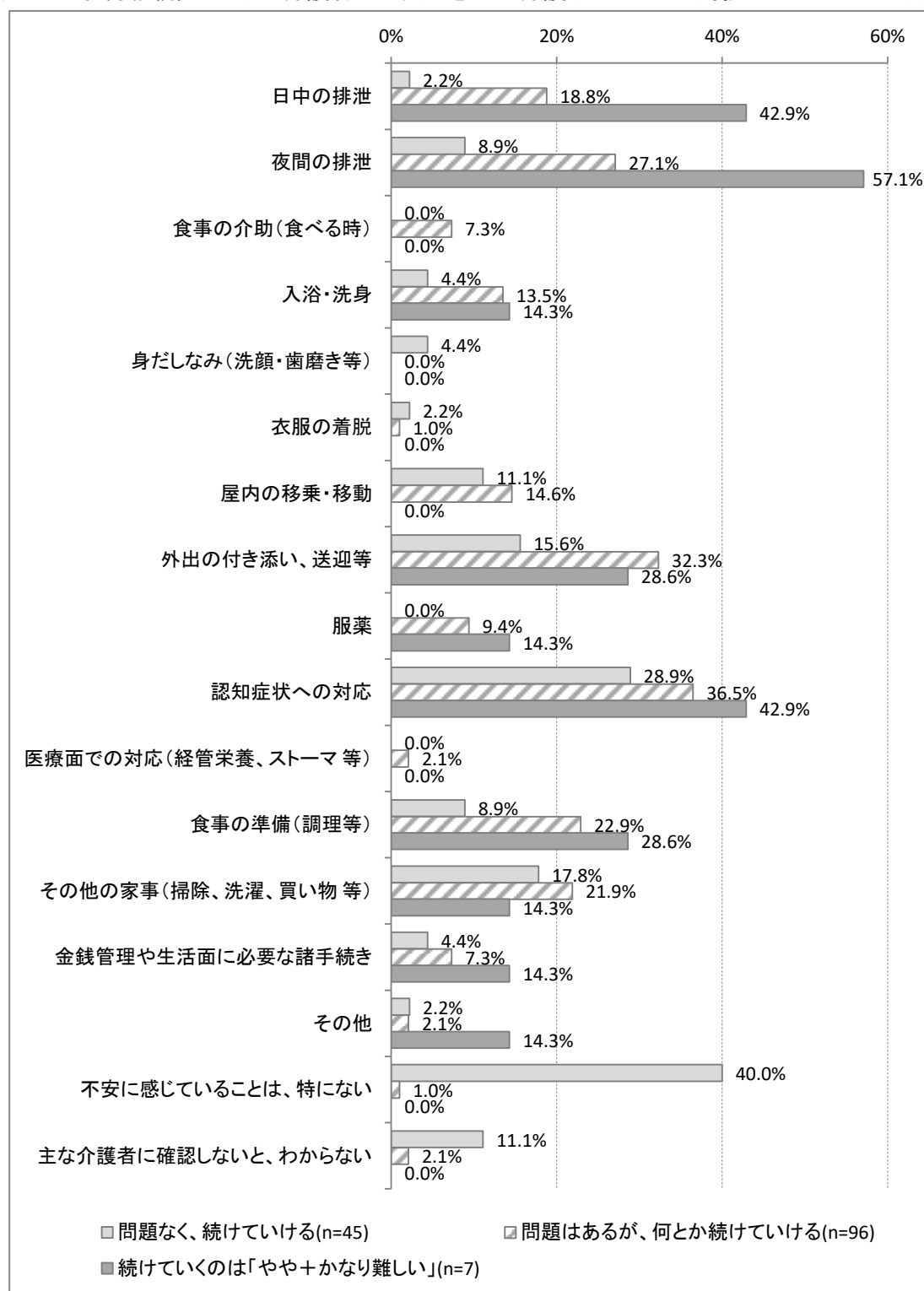
図表 2-14 就労継続見込み別・サービス未利用の理由（フルタイム勤務＋パート勤務）



「介護者が不安に感じる介護」×「就労継続見込み」×「フルタイム勤務＋パートタイム勤務」クロス集計

“続けていくのは「やや＋かなり難しい」”では「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「服薬」、「認知症状への対応」、「食事の準備（調理等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の割合が他の就労継続見込みと比べて高くなっています。

図表 2-15 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

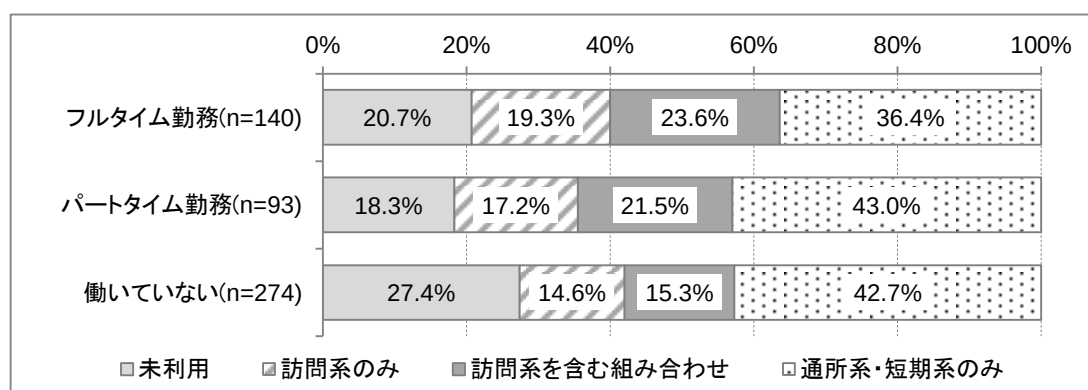
【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化し、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています。さらに、訪問系サービスについては、要介護2以上、認知症自立度Ⅱ以上に分けて集計分析を行っています（図表 2-16～図表 2-18）。
- ここから、主な介護者の就労状況によって、「サービス利用の組み合わせ」に差がみられるかどうかを把握することができます。
- また、「訪問系サービスの利用の有無」と「就労継続見込み」の関係を集計分析することで、訪問系サービスの利用が、就労継続見込みの「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」の割合に影響を与えているかどうかを推測することが可能です。

「サービス利用の組み合わせ」×「就労状況」クロス集計

“フルタイム勤務”では「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」の割合が他の就労状況と比べて高くなっています。

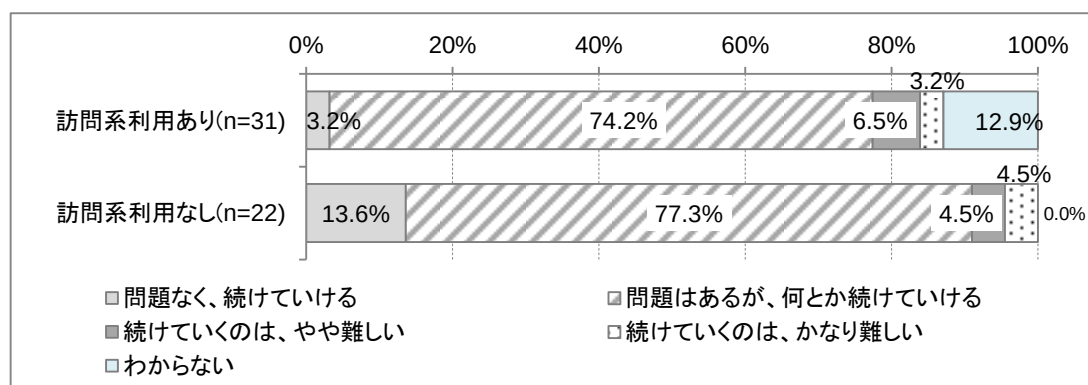
図表 2-16 就労状況別・サービス利用の組み合わせ



「就労継続見込み」×「訪問系サービスの利用」×「要介護２以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務」クロス集計

“訪問系利用なし”では「問題なく、続けていける」の割合が“訪問系利用あり”と比べて高くなっています。

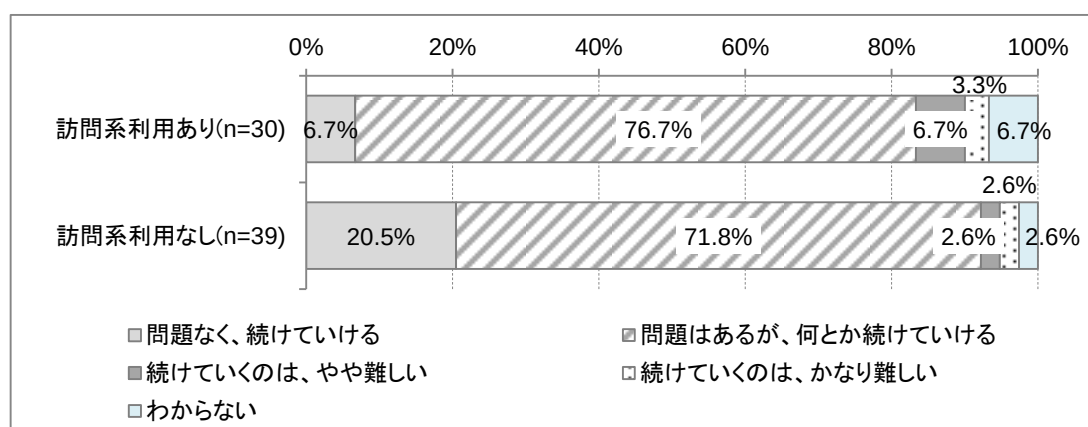
図表 2-17 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み
(要介護２以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務)



「就労継続見込み」×「訪問系サービスの利用」×「認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務」クロス集計

“訪問系利用なし”では「問題なく、続けていける」の割合が“訪問系利用あり”と比べて高くなっています。

図表 2-18 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み
(認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務)



(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

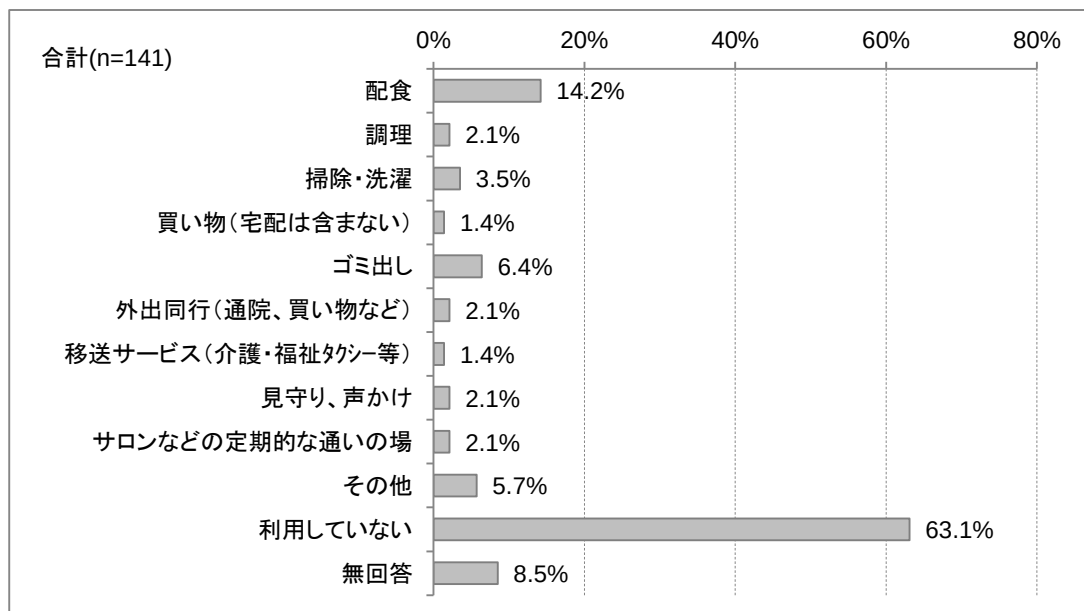
【着目すべきポイント】

- ここでは、「保険外の支援・サービスの利用状況」、「訪問診療の利用の有無」、「施設等検討の状況」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-19～図表 2-22）。
- 「利用している保険外の支援・サービス」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」の差をみることにより、働いている介護者が必要と感じているが、実際には利用されていない生活支援サービスを把握することができます。
- また、「訪問診療の利用の有無」と就労状況との関係を集計分析することで、訪問診療の利用が就労状況により異なるかどうかを把握することができます。
- 「施設等検討の状況」については、働いていない介護者に比べて、働いている介護者では、施設入所を必要と感じているかどうか分析することを目的としています。
- さらに、要介護2以上の中重度者については、就労継続見込みについて「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」と考える人のうち、どの程度の人が施設を検討しているかに着目しています。これにより、在宅での仕事と介護の両立が困難となった場合の対応として、施設対応の必要性和、在宅サービスや働き方の調整による対応の必要性のそれぞれについて、把握することができます。

「利用している保険外の支援・サービス」×「フルタイム勤務」クロス集計

「利用していない」が63.1%で最も高く、次いで「配食」が14.2%が続いています。

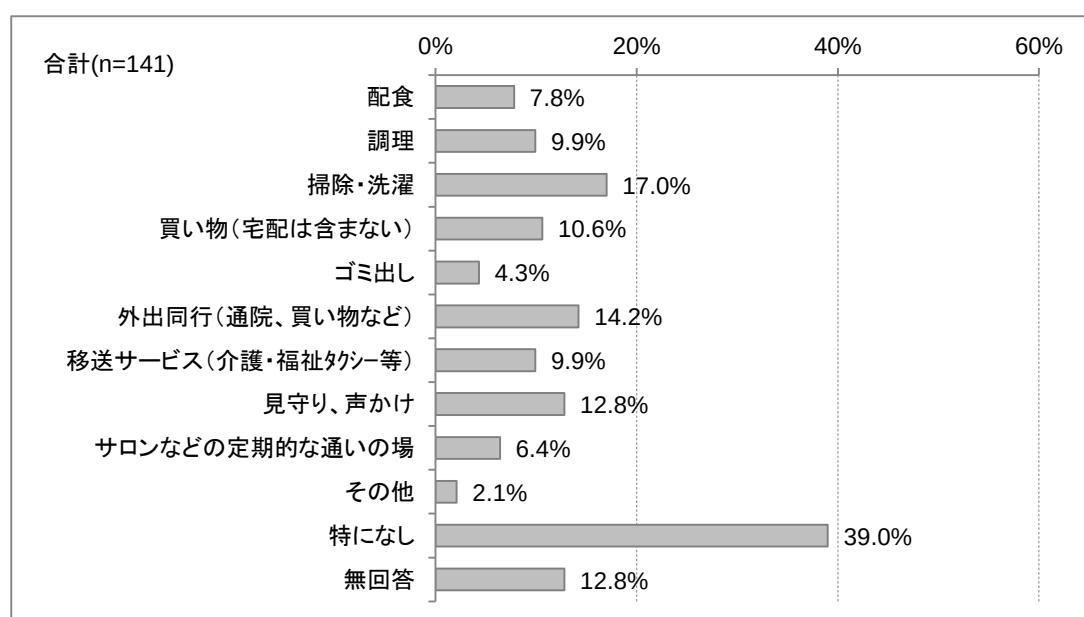
図表 2-19_1 利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）



「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」×「フルタイム勤務」クロス集計

「特になし」が39.0%で最も高いですが、必要と感じる支援・サービスでは「掃除・洗濯」が17.0%で最も高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が14.2%が続いています。

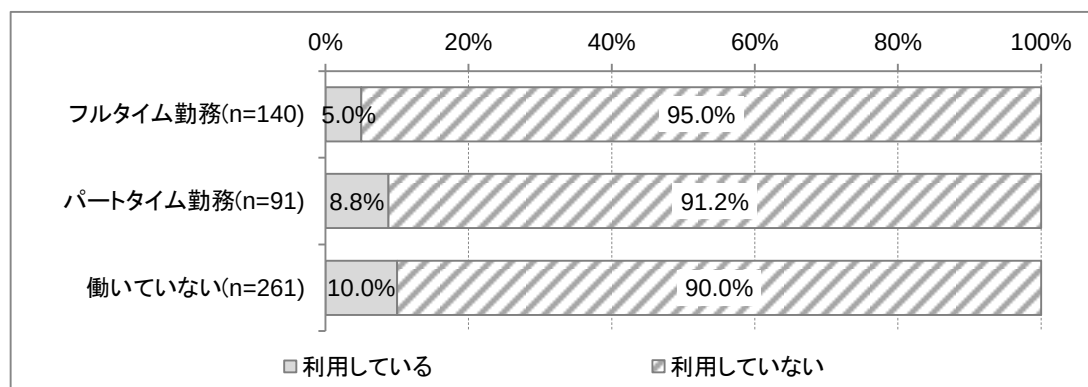
図表 2-19_2 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）



「訪問診療の利用の有無」×「就労状況」クロス集計

“フルタイム勤務”では「利用していない」の割合が他の就労状況と比べて高くなっています。

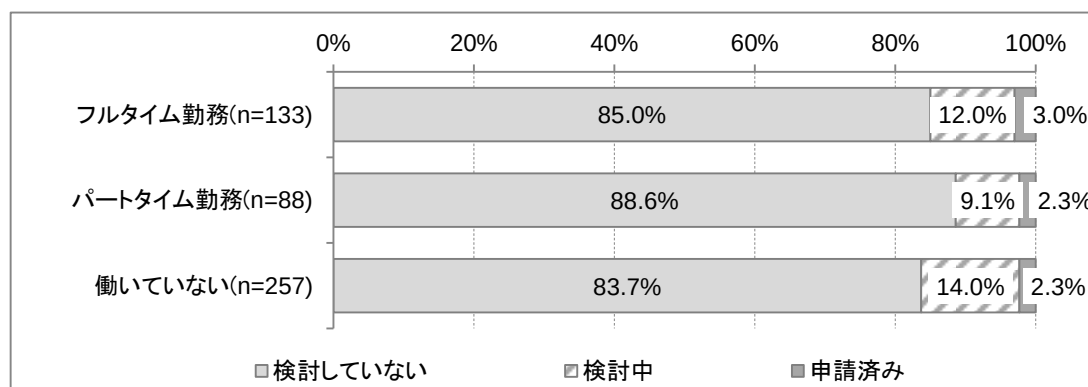
図表 2-20 就労状況別・訪問診療の利用の有無



「施設等検討の状況」×「就労状況」クロス集計

“働いていない”では「検討中」の割合が他の就労状況と比べて高くなっています。
“パートタイム勤務”では「検討していない」の割合が他の就労状況と比べて高くなっています。

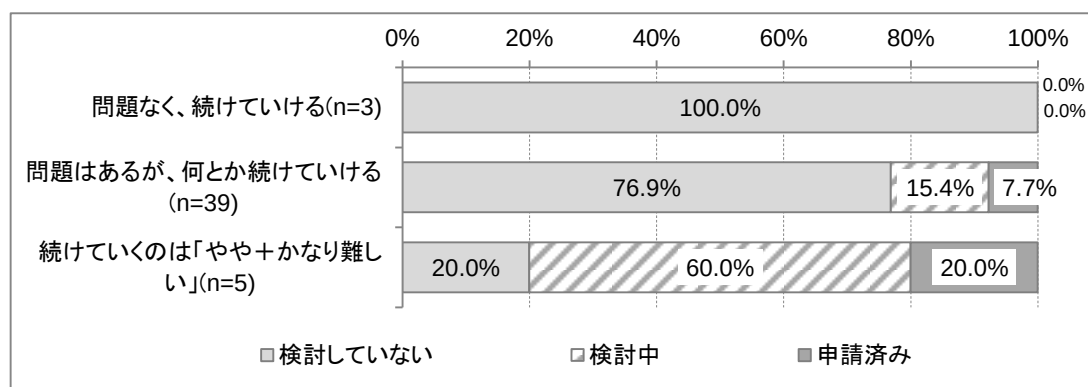
図表 2-21 就労状況別・施設等検討の状況



「施設等検討の状況」×「就労継続見込み」×「要介護２以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務」クロス集計

“続けていくのは「やや＋かなり難しい」”では「検討中」の割合が他の検討状況に比べて高くなっています。

図表 2-22 就労継続見込み別・施設等検討の状況
(要介護２以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務)



(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

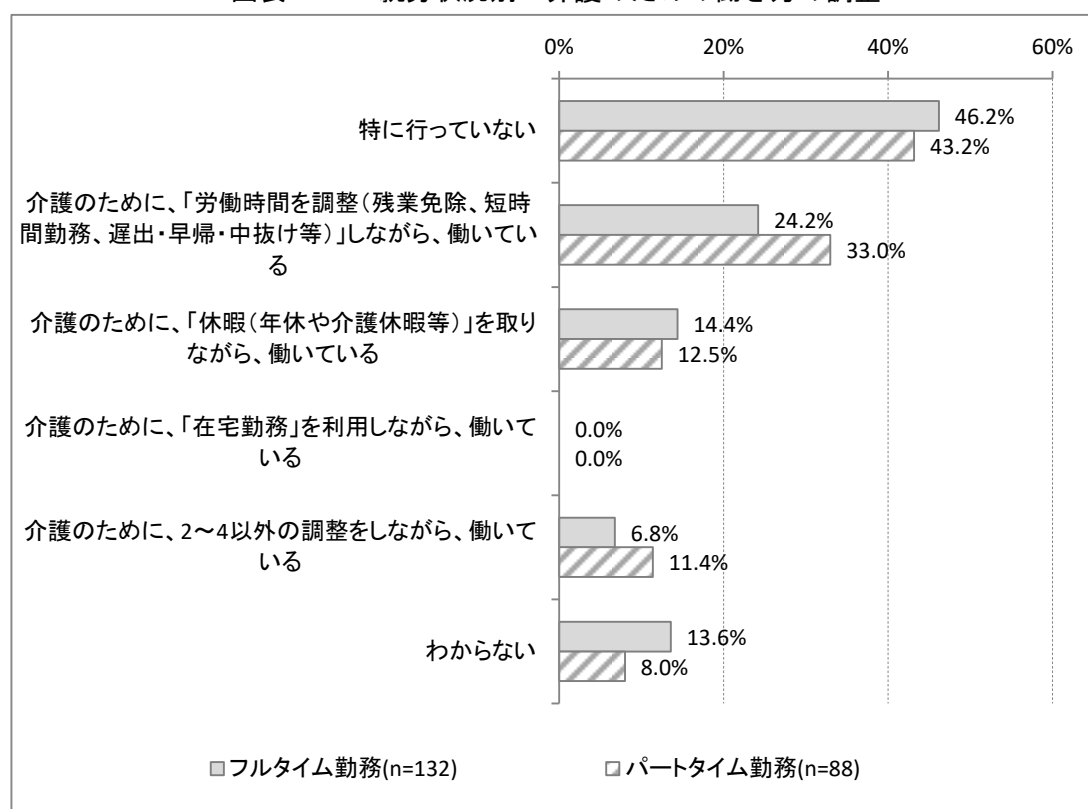
【着目すべきポイント】

- ここでは、「介護のための働き方の調整」と、「効果的な勤め先からの支援」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-23～図表 2-26）。
- 就労継続見込みによって、介護のために働き方を調整している割合や、効果的と考える勤め先の支援内容がどのように変化するかに着目して集計分析をしています。
- ただし、「問題なく、続けていける」とする人において、働き方の調整を「特に行っていない」割合、もしくは効果的な勤め先の支援として「特にない」が高いケースは、職場が恒常的な長時間労働や、休暇取得が困難といった状況にはなく、介護のために特段働き方の調整や勤め先からの支援を行わなくても、両立可能な職場であることが考えられます。
- このように、職場の状況や業務の内容によっても、必要な調整や支援の内容が異なることに留意することが必要です。

「介護のための働き方の調整」×「就労状況」クロス集計

“フルタイム勤務”では「特に行っていない」、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」の割合が“パートタイム勤務”と比べて高くなっています。

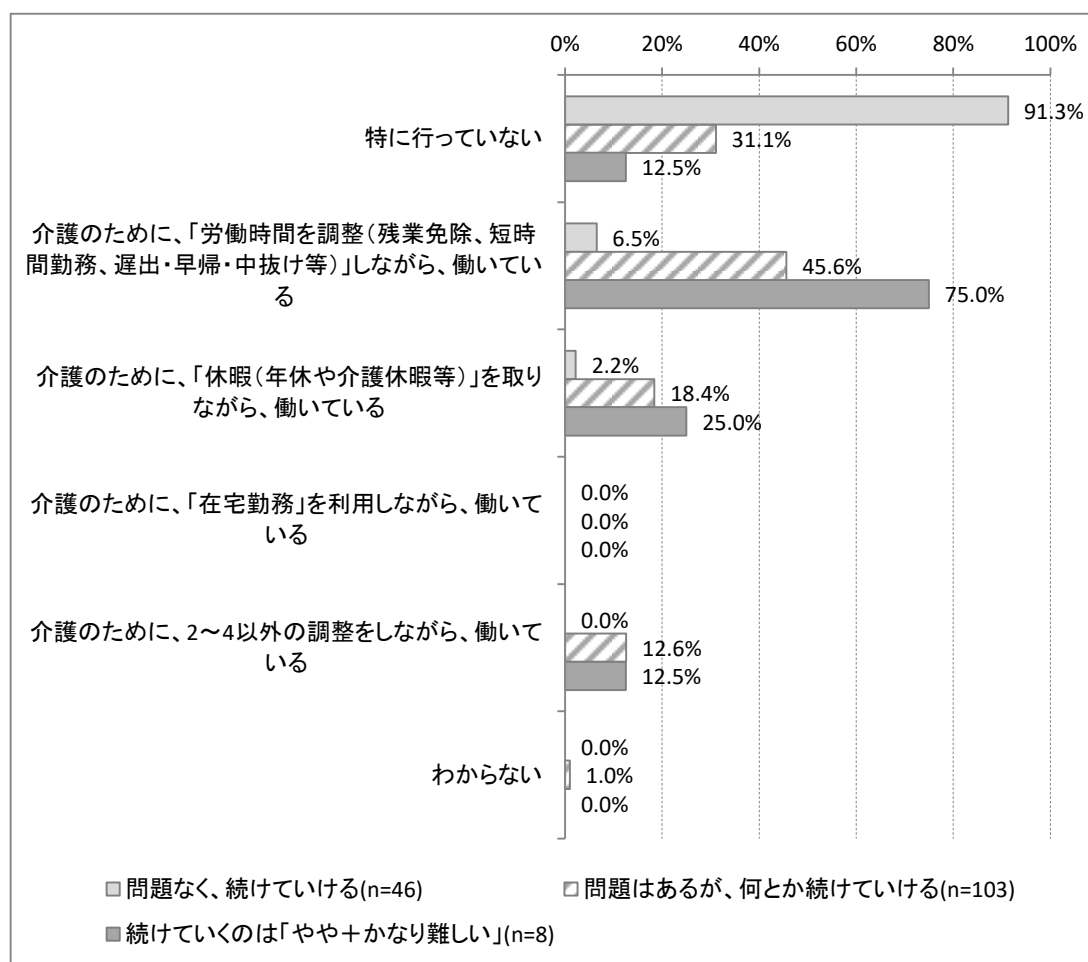
図表 2-23 就労状況別・介護のための働き方の調整



「介護のための働き方の調整」×「就労継続見込み」×「フルタイム勤務＋パートタイム勤務」クロス集計

“問題なく、続けていける”では「特に行っていない」が91.3%と高く、“続けていくのは「やや＋かなり難しい」”では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」と「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」の割合が他の就労継続見込みと比べて高くなっています。

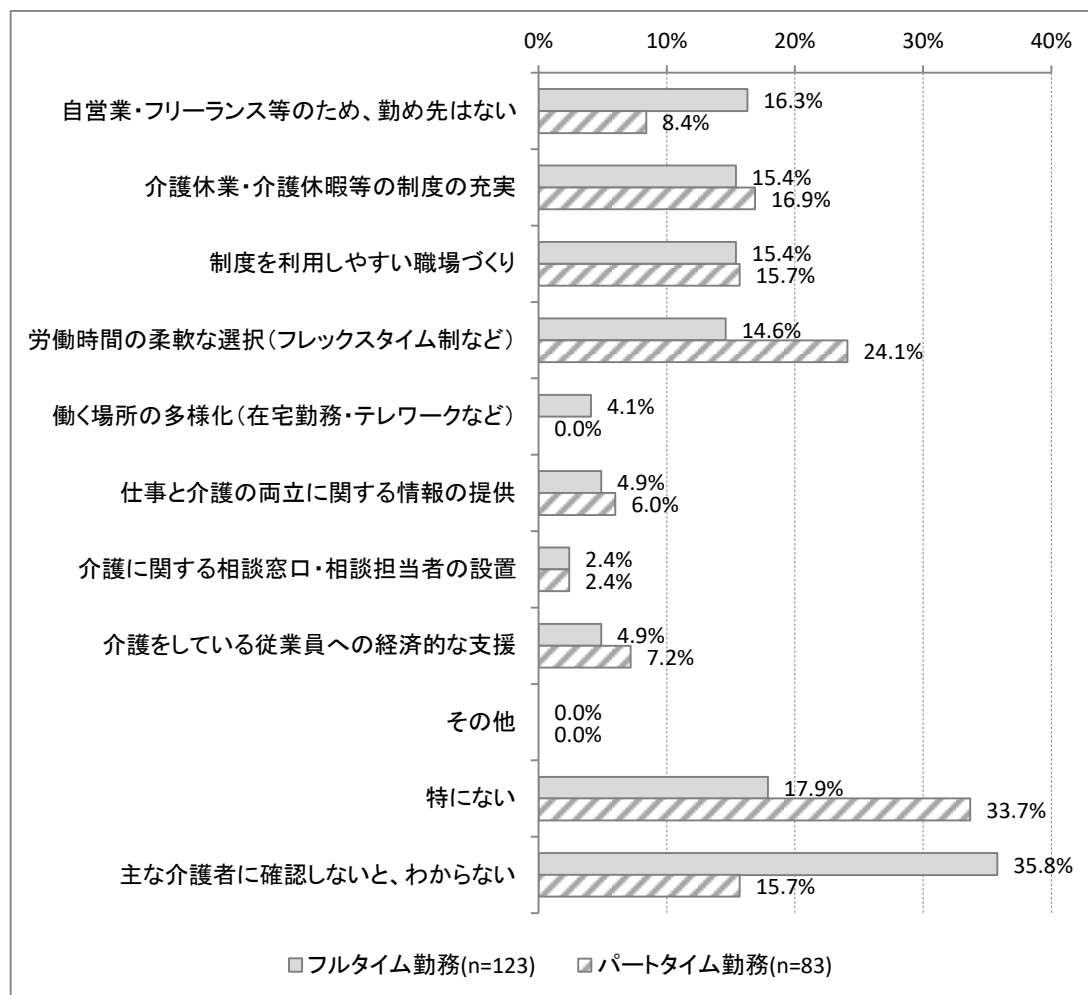
図表 2-24 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整(フルタイム勤務＋パートタイム勤務)



「効果的な勤め先からの支援」×「就労状況」クロス集計

“フルタイム勤務”では「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」、「働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）」の割合が“パートタイム勤務”と比べて高くなっています。

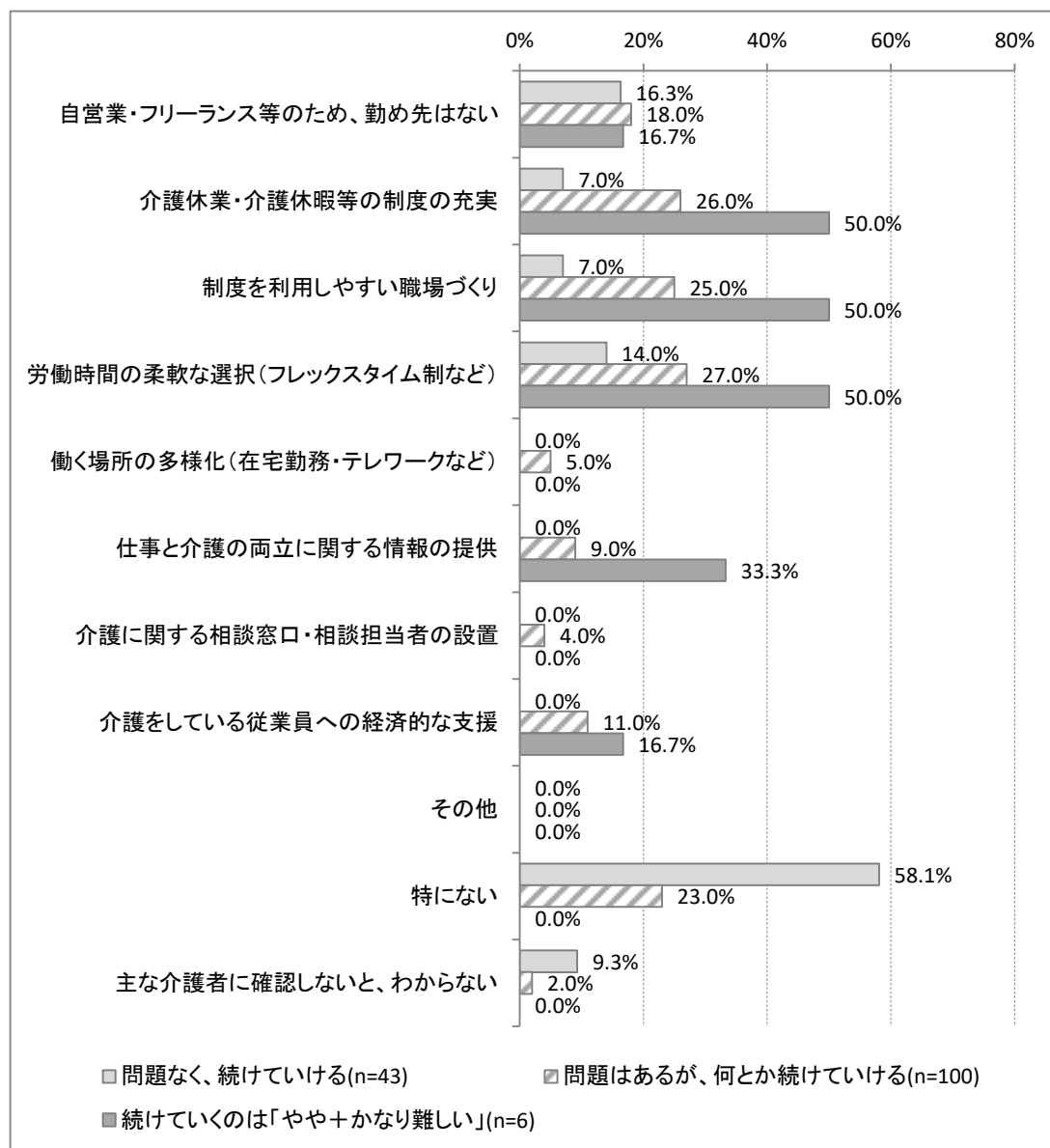
図表 2-25 就労状況別・効果的な勤め先からの支援



「効果的な勤め先からの支援」×「就労継続見込み」×「フルタイム勤務＋パートタイム勤務」クロス集計

“続けていくのは「やや＋かなり難しい」”では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「制度を利用しやすい職場づくり」、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」、「仕事と介護の両立に関する情報の提供」、「介護をしている従業員への経済的な支援」の割合が他の就労継続見込みと比べて高くなっています。

図表 2-26 就労継続見込み別・効果的な勤め先からの支援（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

■集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、特に「保険外の支援・サービス」に焦点を当てた集計を行っています。ここで把握された現状やニーズは、生活支援体制整備事業の推進のために活用していくことなどが考えられます。
- 具体的には、「現在利用している保険外の支援・サービス」と「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）」について、要介護度別や世帯類型別のクロス集計を行い、現在の利用状況の把握と今後さらに充実が必要となる支援・サービスについての分析を行います。
- なお、調査の中では、総合事業に基づく支援・サービスは介護保険サービスに含めるとともに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、介護保険サービスか保険外の支援・サービスであるかは区別していません。

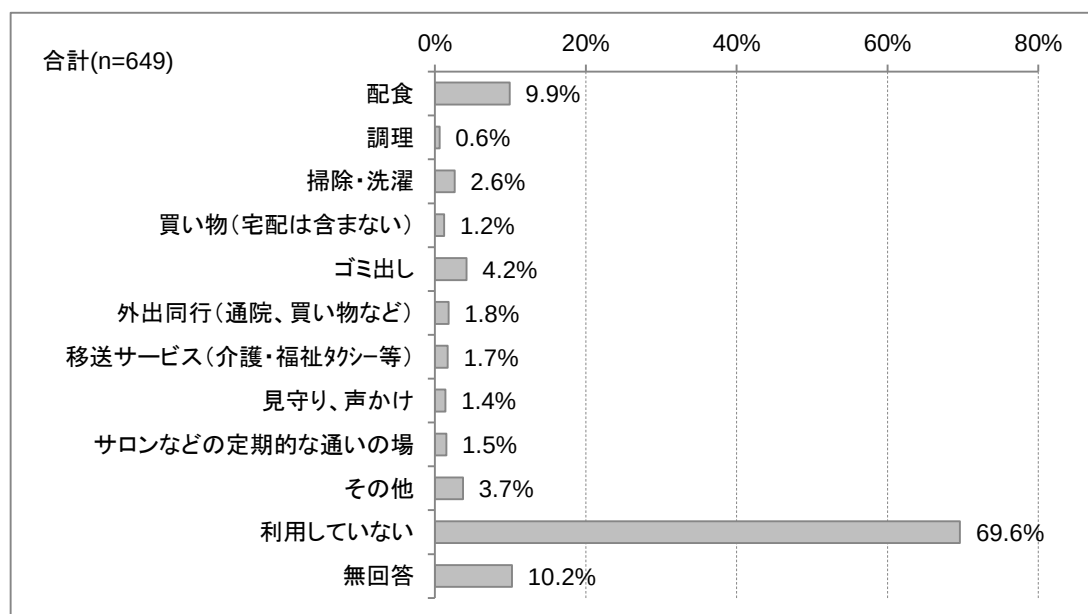
(1) 基礎集計

【着目すべきポイント】

- 「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-1、図表 3-2）。
- 例えば、「保険外の支援・サービスの利用状況」については、現状の把握のみでなく、保険外の支援・サービスの利用促進の取組に係るアウトプットとして、その「利用割合」を設定することで、経年的にその成果をモニタリングしていくことも可能になると考えられます。
- さらに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」からは、在宅限界点の向上という地域目標の達成に向けて、その地域において特に重要となる支援・サービスの種類を把握することができます。

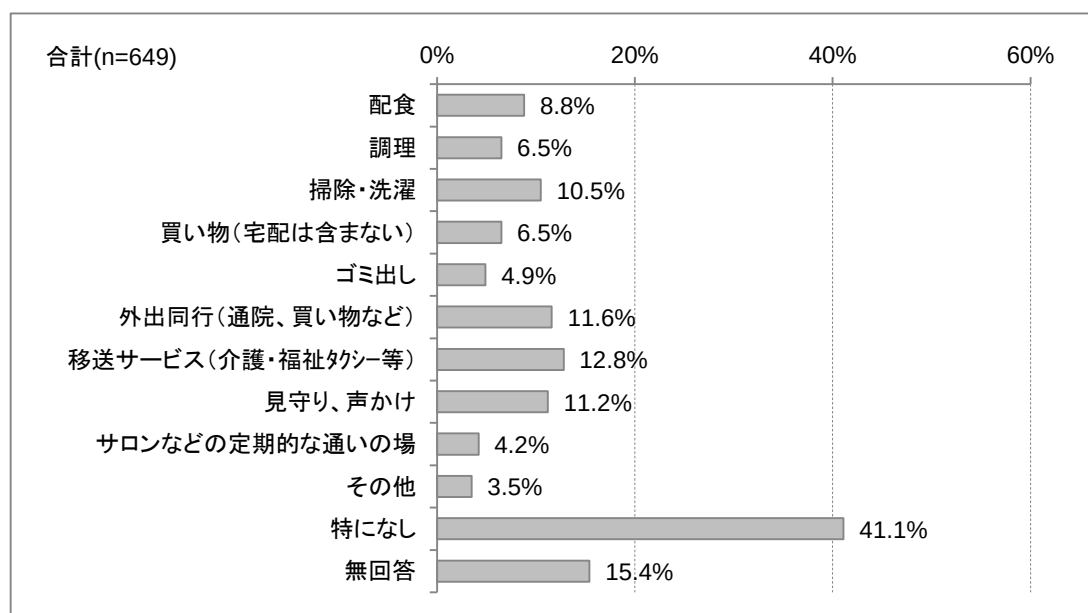
「保険外の支援・サービスの利用状況」単純集計

図表 3-1 保険外の支援・サービスの利用状況



「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」単純集計

図表 3-2 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



(2) 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

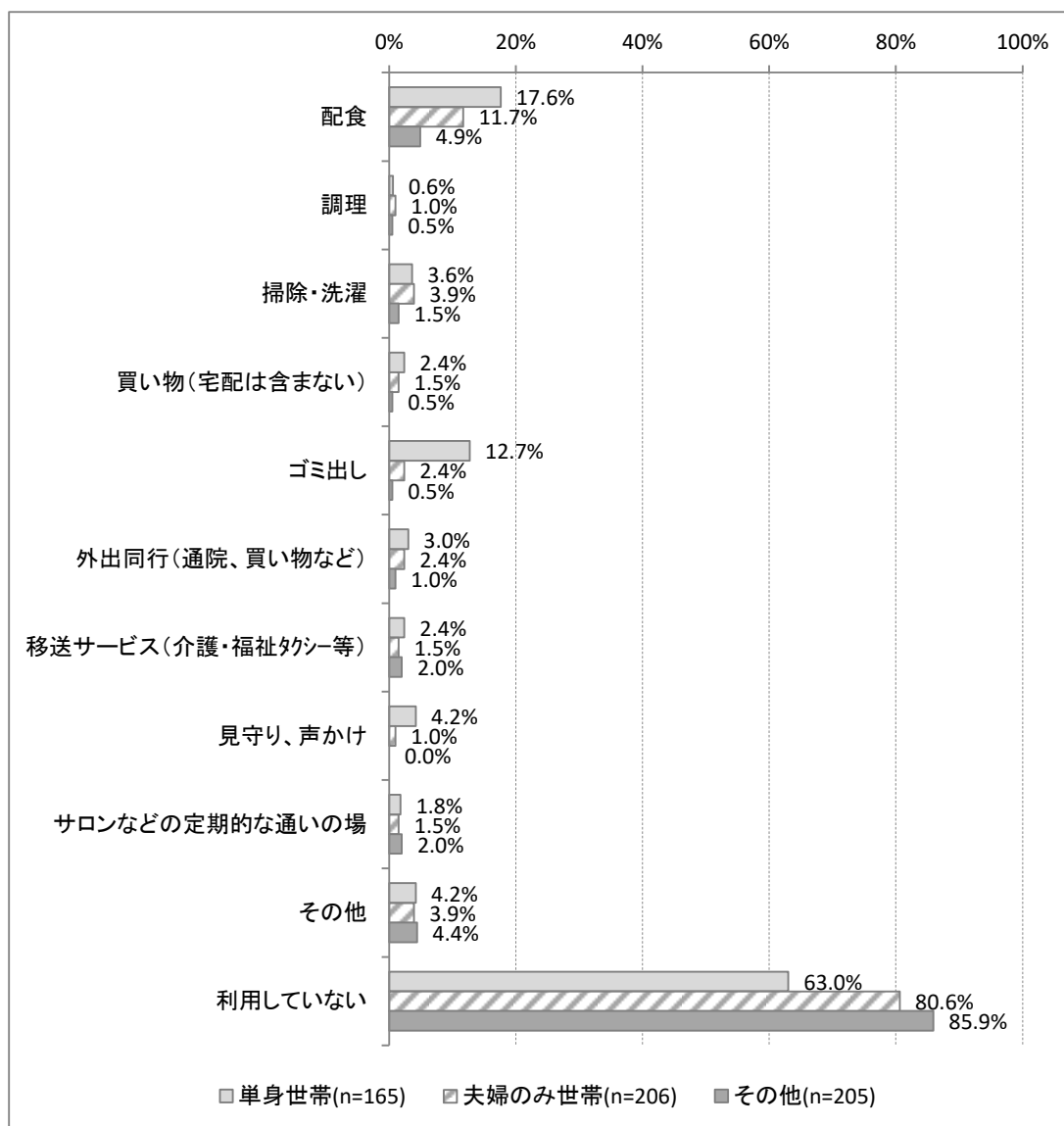
【着目すべきポイント】

- 世帯類型別に「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-3、図表 3-4）。
- 「保険外の支援・サービスの利用割合」については、世帯類型別の割合をアウトプット指標としてモニタリングしていくことも重要と考えられます。
- また、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、世帯類型別に異なる傾向がみられた場合は、世帯類型に応じたアプローチを検討していくことが重要になると考えられます。

「保険外の支援・サービスの利用状況」×「世帯類型」クロス集計

“単身世帯”では「配食」、「ゴミ出し」、「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」の割合が他の世帯類型と比べて高くなっています。

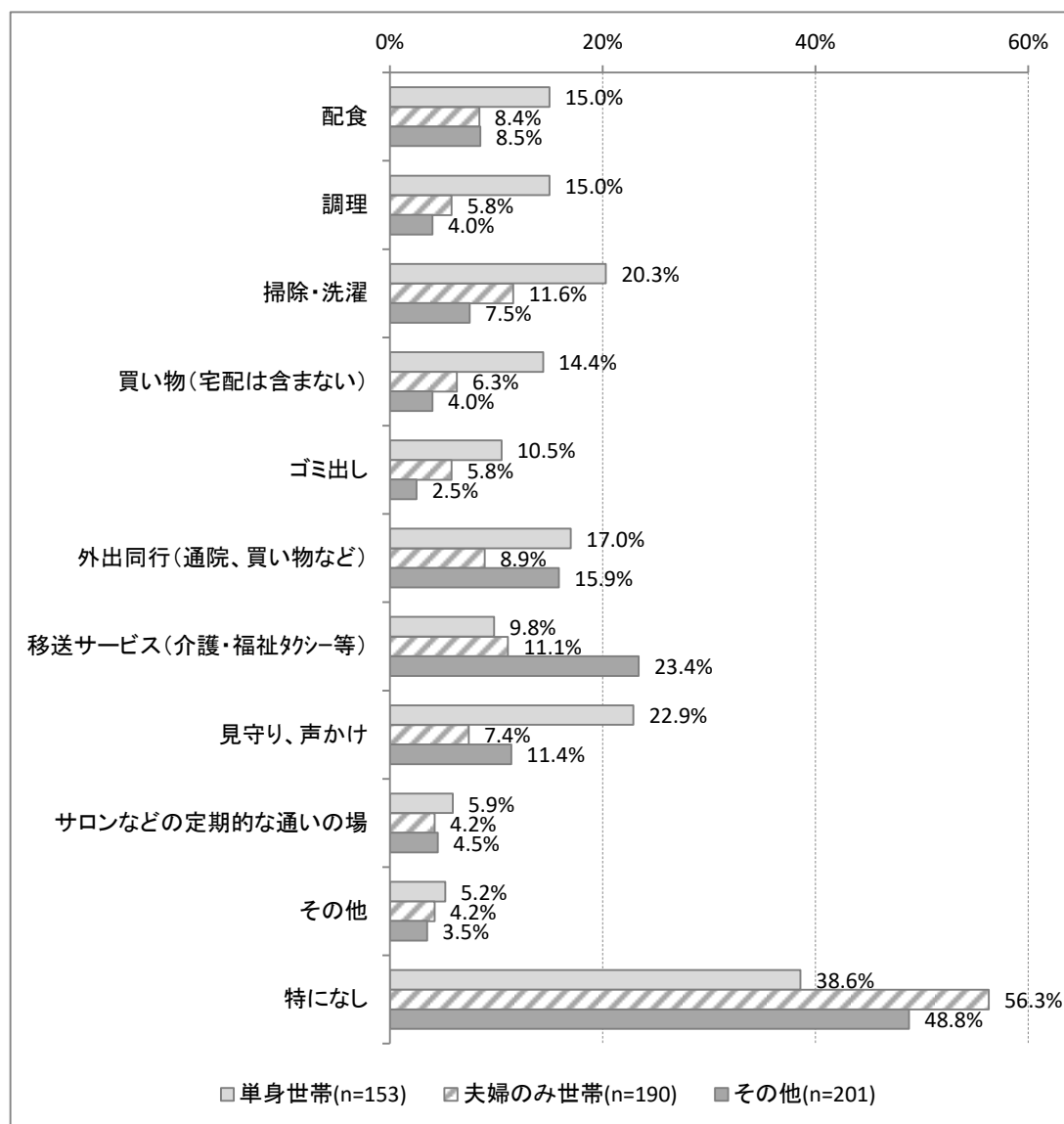
図表 3-3 世帯類型別・保険外の支援・サービスの利用状況



「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」×「世帯類型」クロス集計

“単身世帯”では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」を除く項目の割合が他の世帯類型と比べて高くなっています。

図表 3-4 世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



(3) 「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」

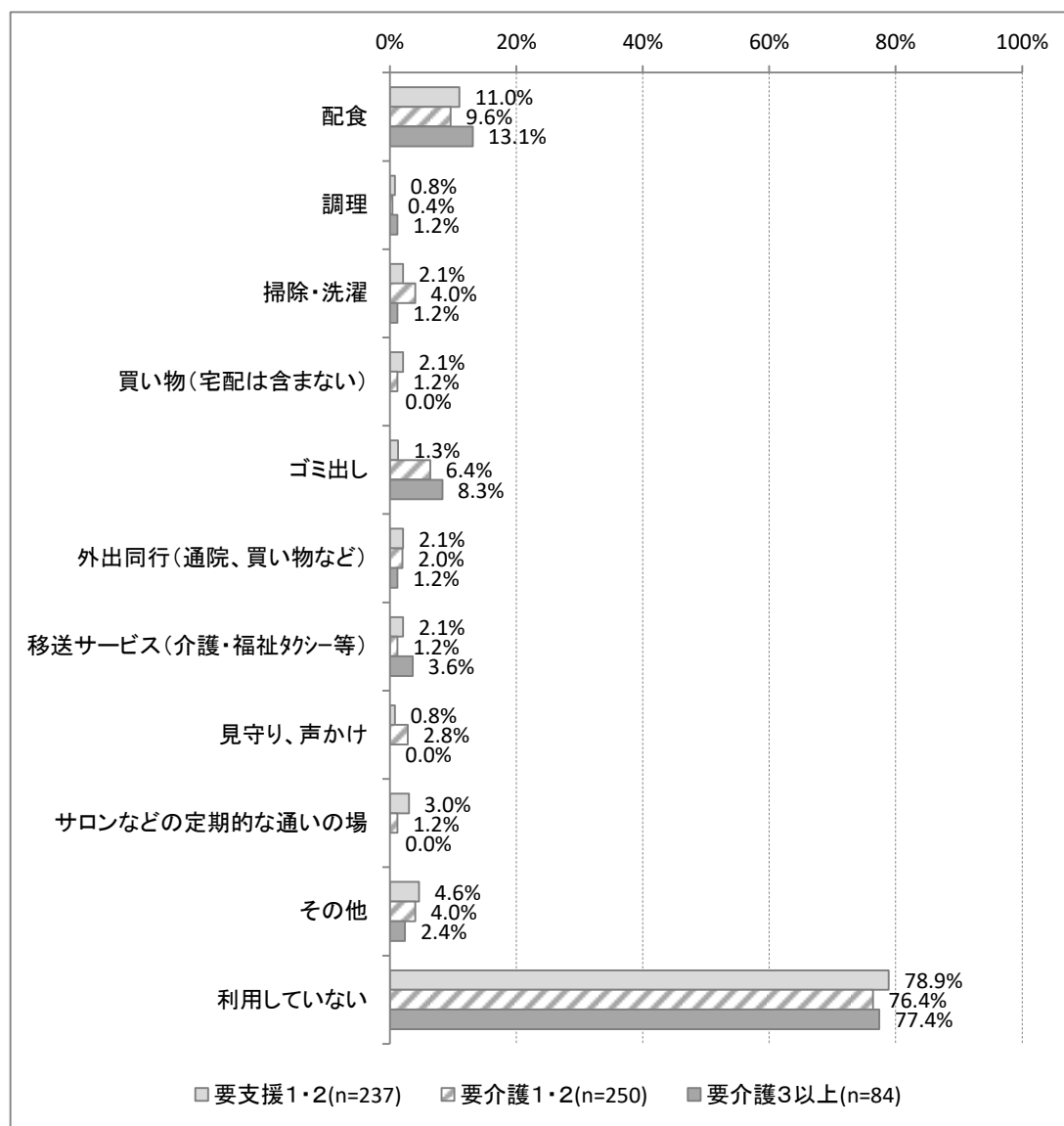
【着目すべきポイント】

- 世帯類型別・要介護度別に「保険外の支援・サービスの利用状況」について、集計分析をしています（図表 3-5～図表 3-8）。
- 利用割合の低い世帯類型であっても、要介護度の重度化に伴い利用割合が増加している支援・サービスがあることも考えられます。
- 介護保険サービスと同様、重度化に伴い、どのような支援・サービスの利用割合が増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような支援・サービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。

「保険外の支援・サービスの利用状況」×「要介護度」クロス集計

“要介護3以上”では「配食」、「調理」、「ゴミ出し」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が他の要介護度と比べて高くなっています。

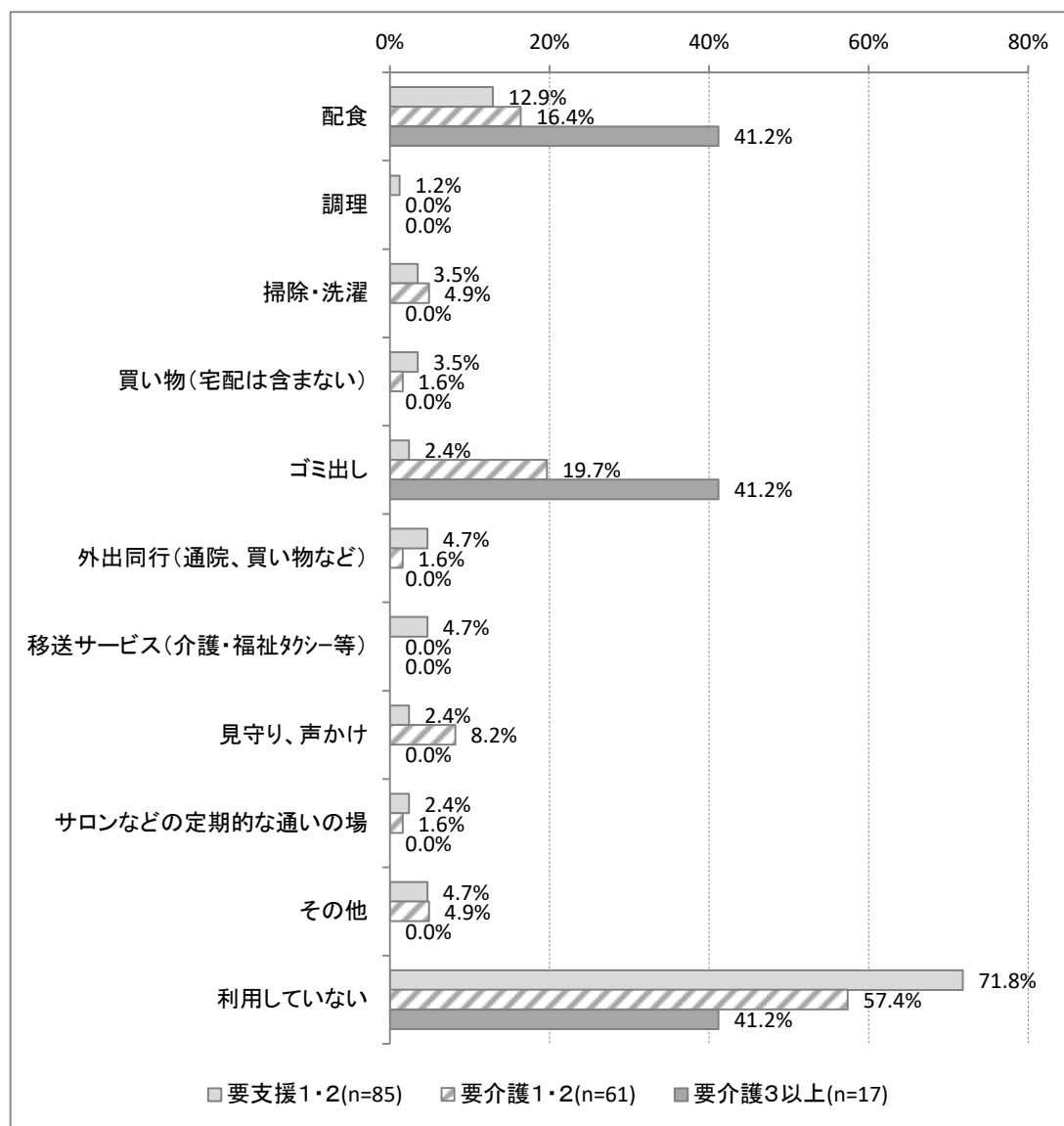
図表 3-5 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況



「保険外の支援・サービスの利用状況」×「要介護度」×「単身世帯」クロス集計

“要介護3以上”では「配食」、「ゴミ出し」の割合が他の要介護度と比べて高く、2倍以上となっています。

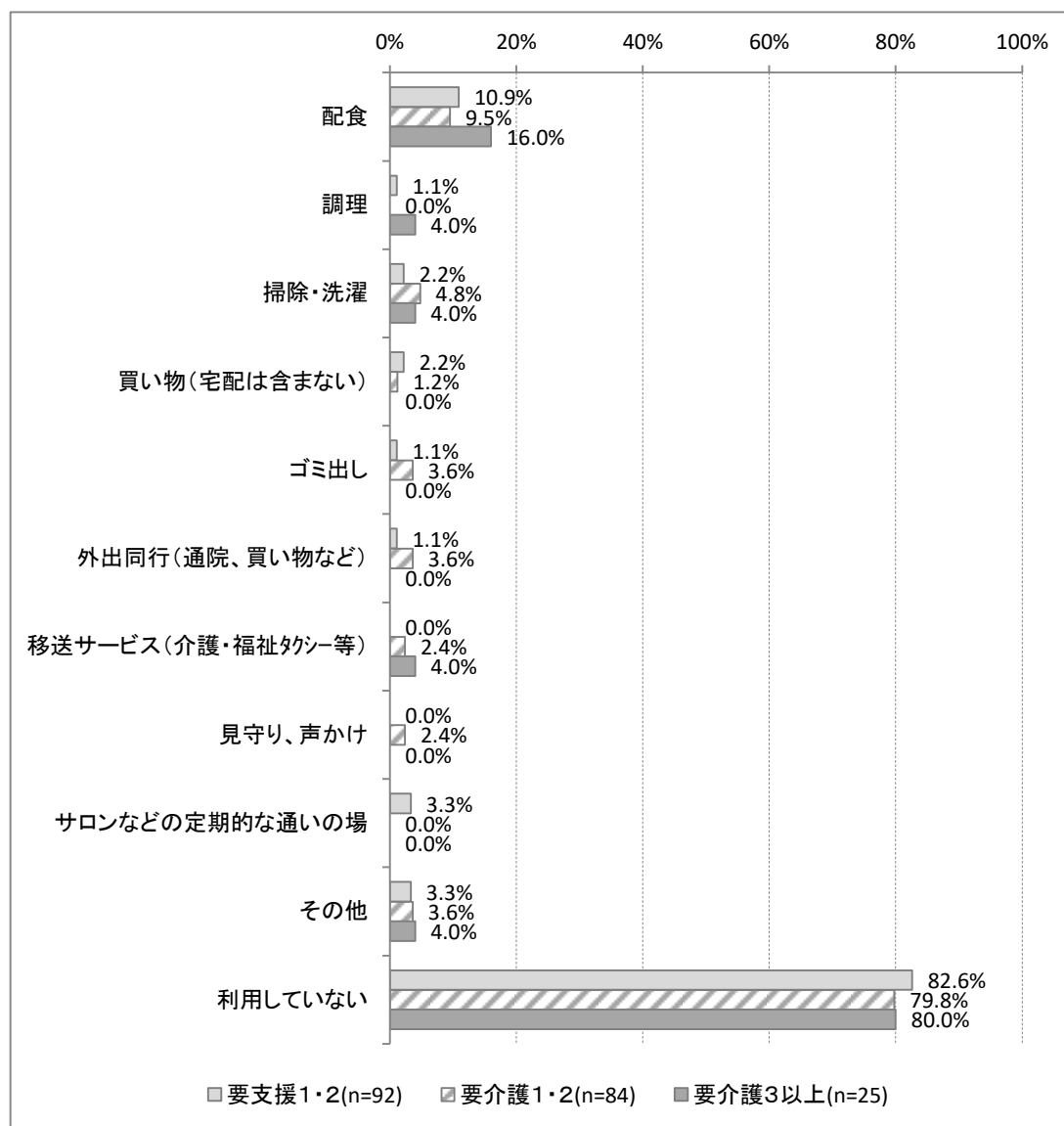
図表 3-6 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（単身世帯）



「保険外の支援・サービスの利用状況」×「要介護度」×「夫婦のみ世帯」クロス集計

“要介護3以上”では「配食」、「調理」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が他の要介護度と比べて高くなっています。

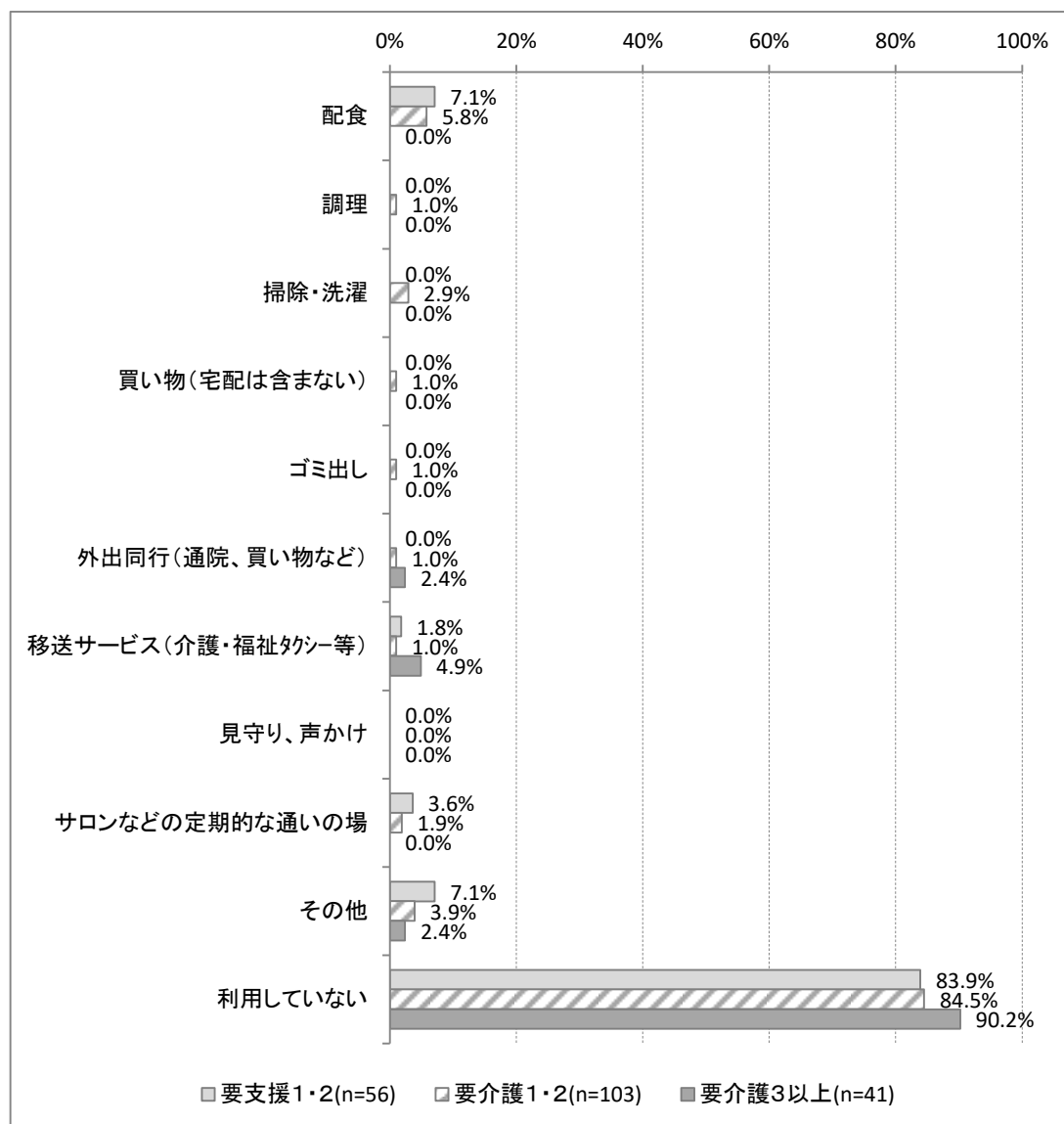
図表 3-7 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（夫婦のみ世帯）



「保険外の支援・サービスの利用状況」×「要介護度」×「その他世帯」クロス集計

“要支援1・2”では「配食」、「サロンなどの定期的な通いの場」の割合が他の要介護度と比べて高くなっています。“要介護3以上”では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が他の要介護度と比べて高くなっています。

図表 3-8 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（その他世帯）



(4) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」

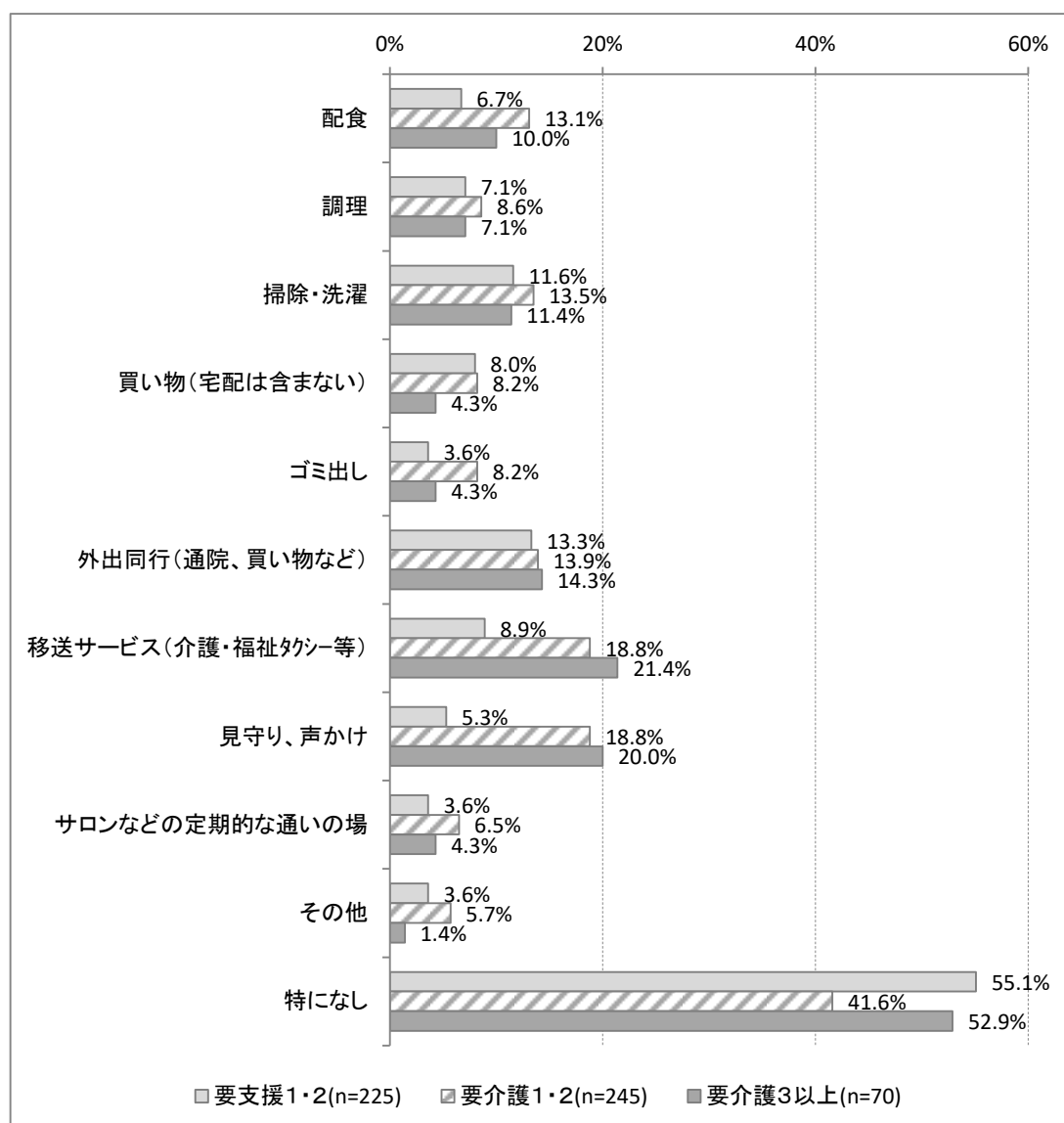
【着目すべきポイント】

- 世帯類型別・要介護度別に「必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-9～図表 3-12）。
- 特に、各世帯類型の要介護度別のニーズに着目しながら、各地域の実情に応じた取組を推進していく必要があります。

「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」×「要介護度」クロス集計

“要介護 1・2”では「配食」、「調理」、「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」、「ゴミ出し」、「サロンなどの定期的な通いの場」の割合が他の要介護度と比べて高くなっています。

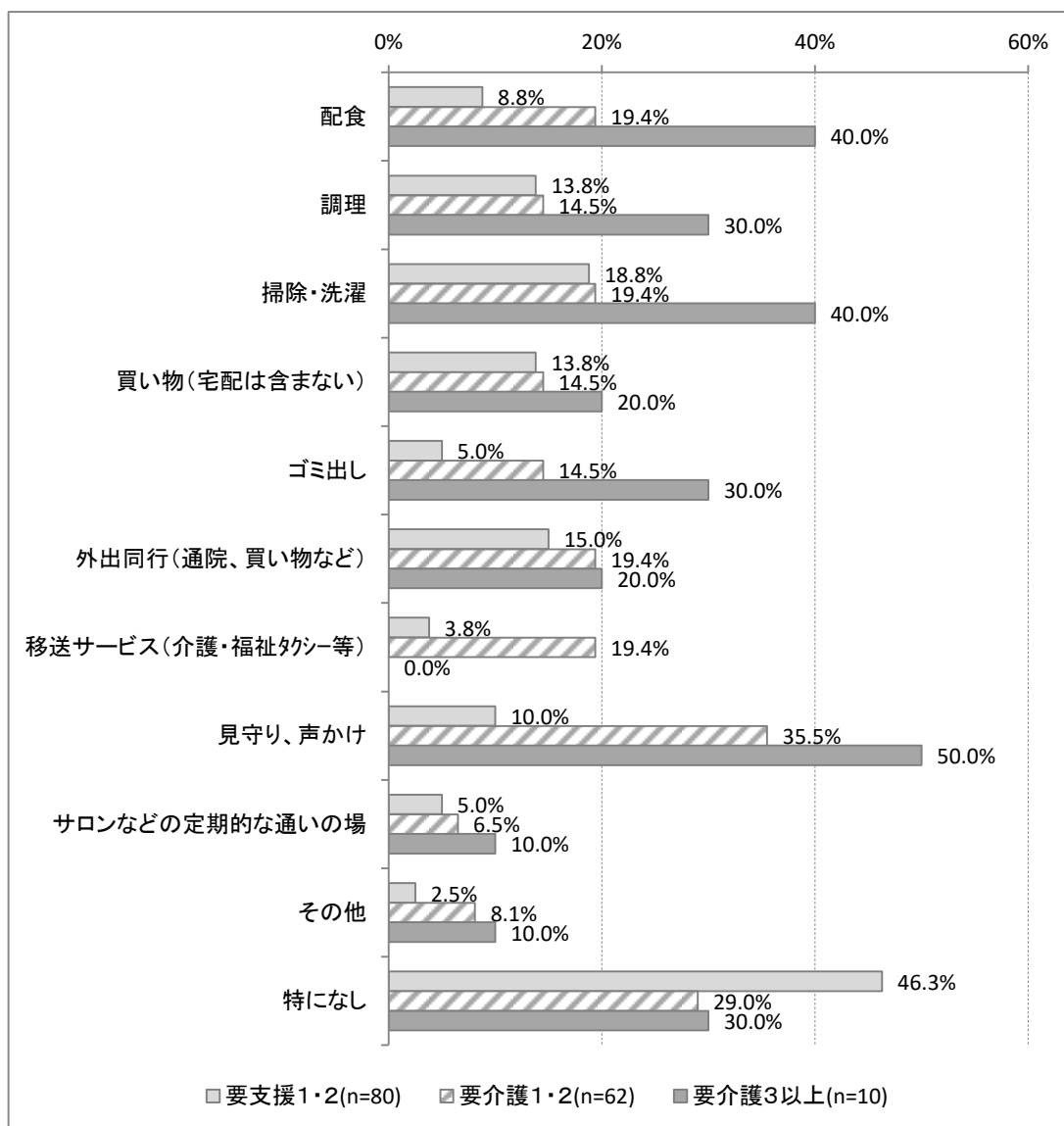
図表 3-9 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」×「要介護度」×「単身世帯」クロス集計

“要介護1・2”では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が他の要介護度と比べて高くなっています。

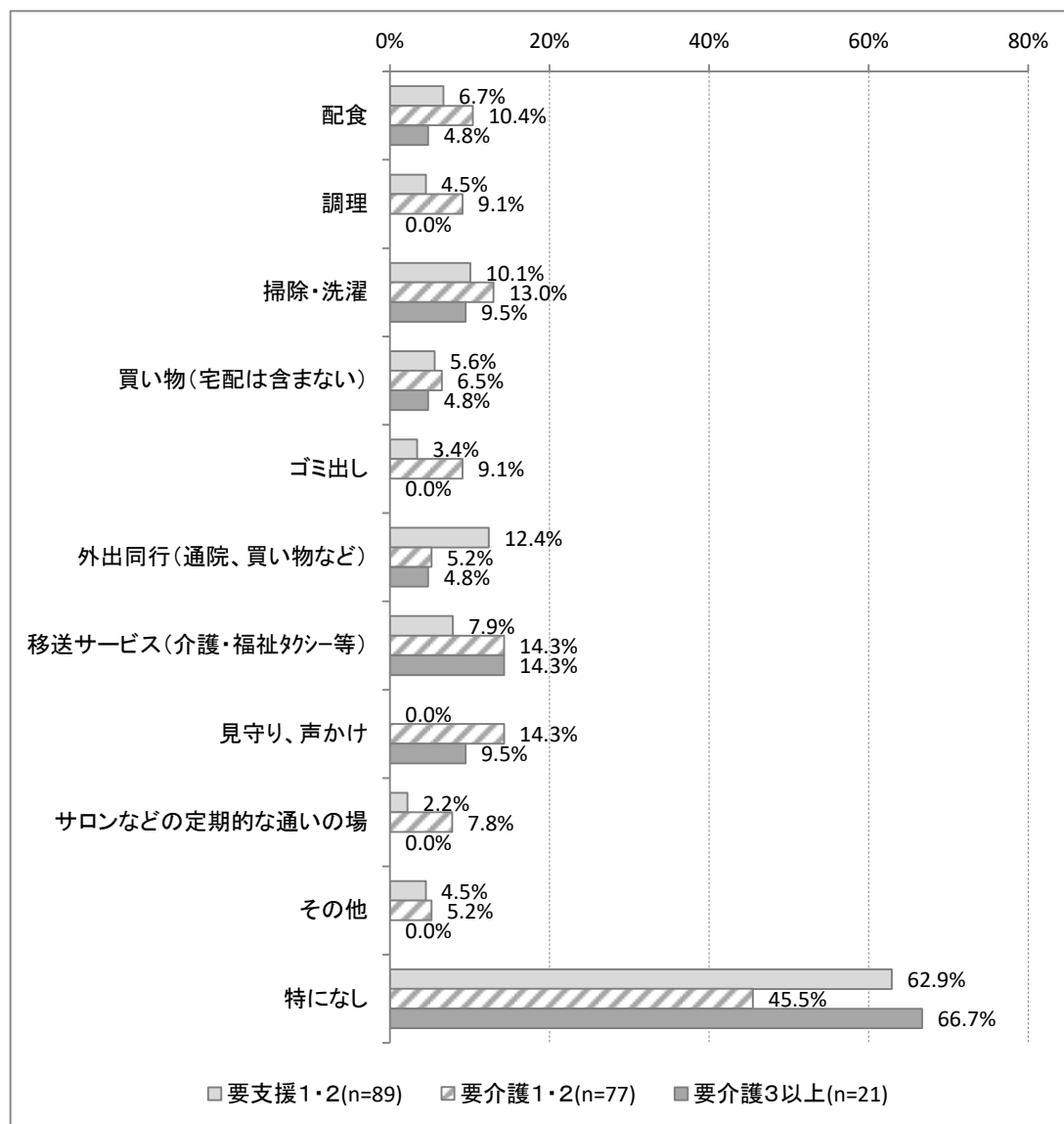
図表 3-10 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」×「要介護度」×「夫婦のみ世帯」
クロス集計

“要支援1・2”では「外出同行（通院、買い物など）」の割合が他の要介護度と比べて高くなっています。“要介護1・2”では「配食」、「調理」、「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」、「ゴミ出し」、「見守り・声かけ」、「サロンなどの定期的な通いの場」の割合が他の要介護度と比べて高くなっています。

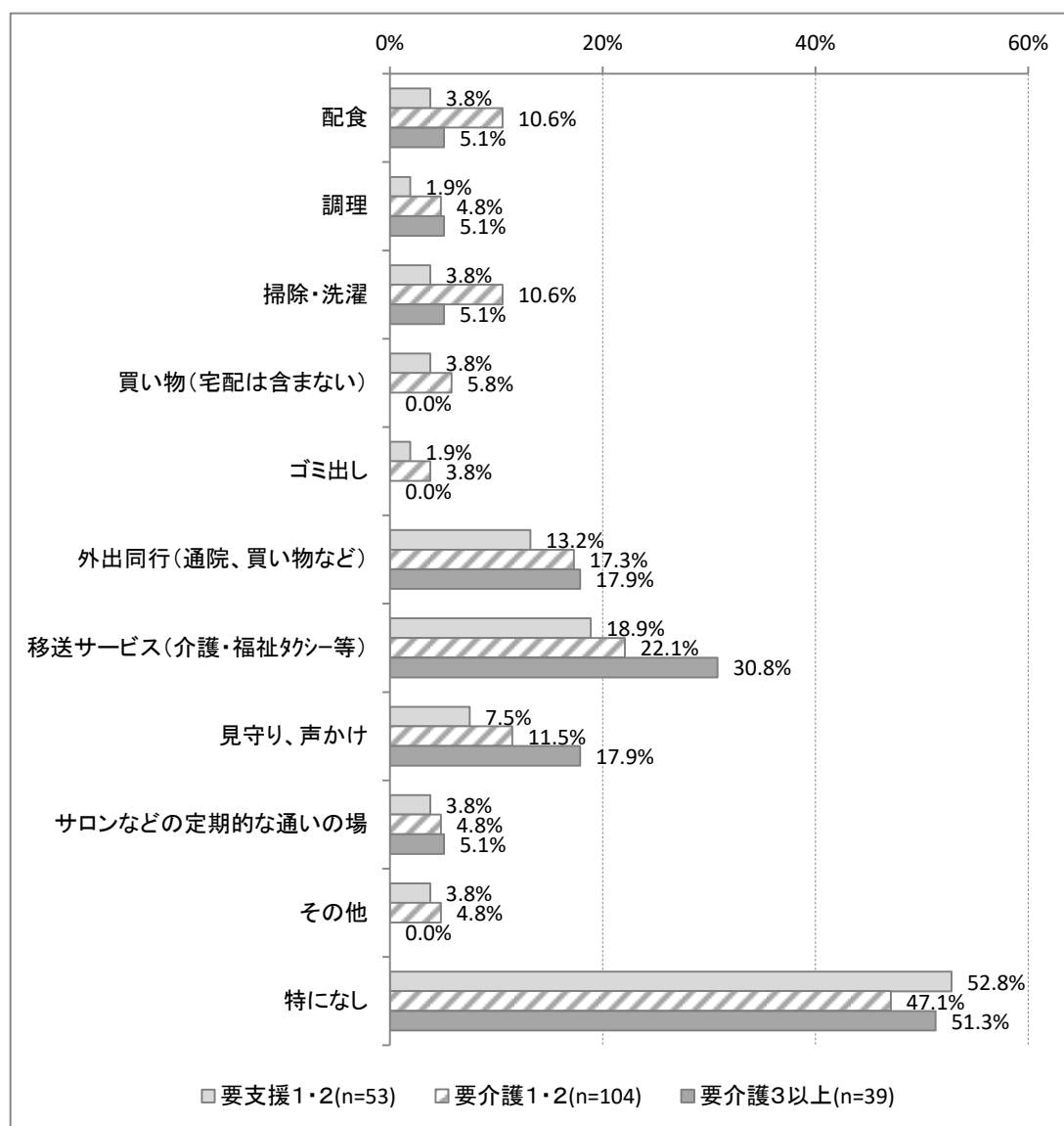
図表 3-11 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」×「要介護度」×「その他世帯」クロス集計

“要介護1・2”では「配食」、「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」、「ゴミ出し」の割合が他の要介護度と比べて高くなっています。それ以外の項目は、“要介護3以上”が他の要介護度と比べて高くなっています。

図表 3-12 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）



4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

■集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上のための、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討につなげるため、特に世帯類型別の「サービス利用の特徴」や「施設等検討の状況」に焦点を当てた集計を行っています。
- 具体的には、世帯類型別の「家族等による介護の頻度」、「サービス利用の組み合わせ」、「施設等検討の状況」などの分析を行います。
- 将来の高齢世帯の世帯タイプの構成は、地域ごとに異なりますので、それぞれ地域の実情に応じた支援・サービスの検討につなげていくことが重要となります。

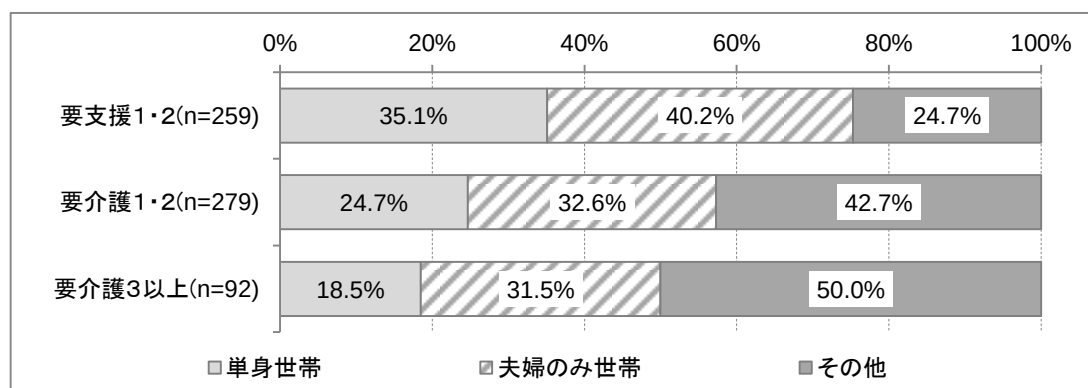
(1) 基礎集計

- 「要介護度別の世帯タイプの割合」および「世帯類型別の要介護度の割合」を集計しています（図表 4-1、図表 4-2）。
- 要介護度の重度化に伴う、世帯タイプの変化などを確認してください。

「世帯類型」×「要介護度」クロス集計

要介護度が高くなるにつれて「単身世帯」、「夫婦のみ世帯」の割合が低くなり、「その他」の割合が高くなっています。

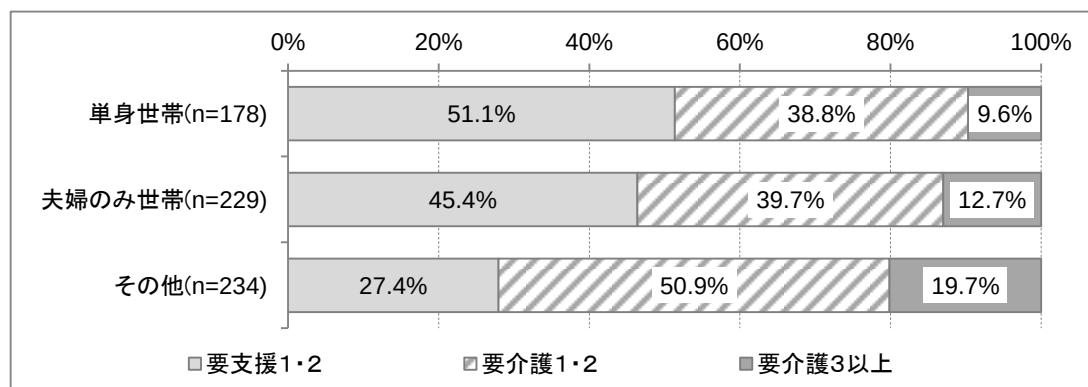
図表 4-1 要介護度別・世帯類型



「要介護度」×「世帯類型」クロス集計

“単身世帯”では「要支援1・2」の割合が他の世帯類型と比べて高く、“その他”では「要介護1・2」、「要介護3以上」の割合が他の世帯類型と比べて高くなっています。

図表 4-2 世帯類型別・要介護度



(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

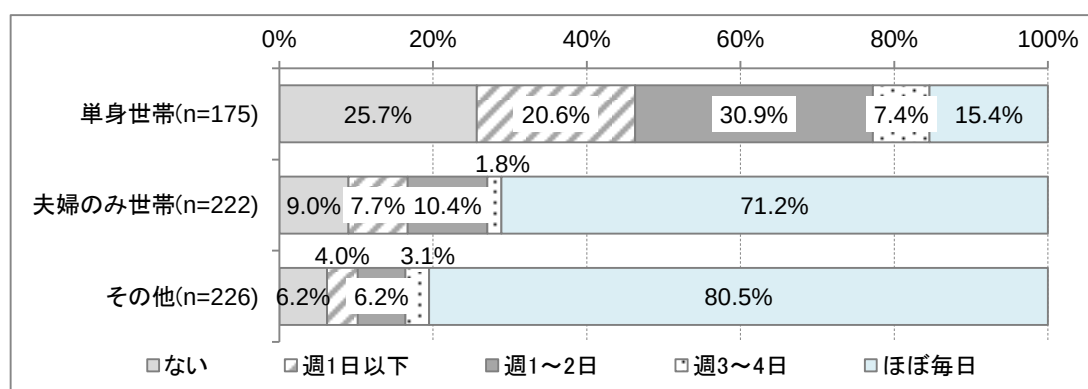
【着目すべきポイント】

- 図表 4-3 では、「世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」の割合を集計しています。また、図表 4-4～図表 4-6 では、世帯類型別に「要介護度別」の「家族等による介護の頻度」を集計しています。
- 「単身世帯」については、同居の家族等はいなくても、近居の家族等による介護が行われているケースも多いと考えられます。中重度の単身世帯のうち、家族等の介護がない中で在宅生活を送っているケースがどの程度あるかなど、現状についてご確認ください。

「家族等による介護の頻度」×「世帯類型」クロス集計

“単身世帯”では「週3～4日」以下の割合が他の世帯類型と比べて高く、“その他”では「ほぼ毎日」の割合が他の世帯類型と比べて高くなっています。

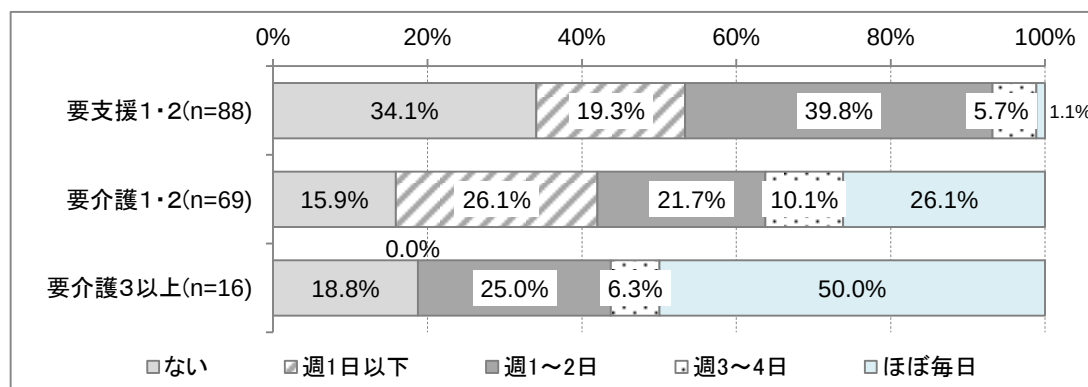
図表 4-3 世帯類型別・家族等による介護の頻度



「家族等による介護の頻度」×「要介護度」×「単身世帯」クロス集計

“要介護3以上”では「ほぼ毎日」の割合が他の要介護度と比べて高くなっています。

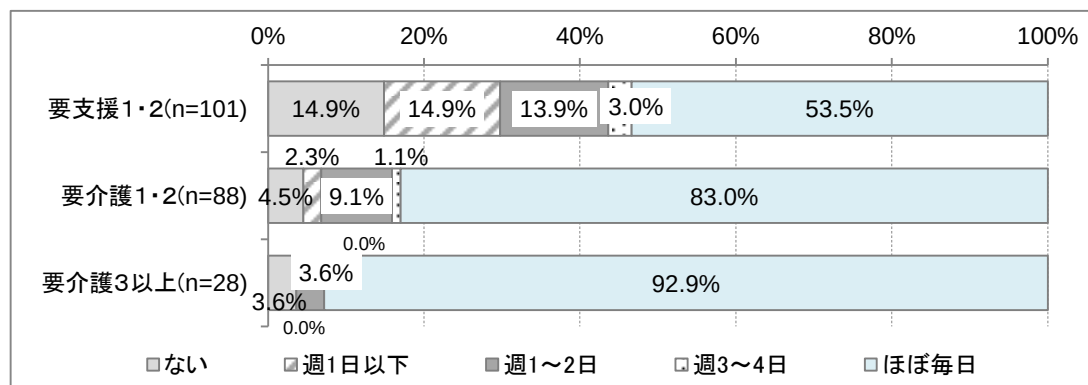
図表 4-4 要介護度別・家族等による介護の頻度（単身世帯）



「家族等による介護の頻度」×「要介護度」×「夫婦のみ世帯」クロス集計

“要支援1・2”では「ない」の割合が他の要介護度と比べて高く、“要介護3以上”では「ほぼ毎日」の割合が他の要介護度と比べて高くなっています。

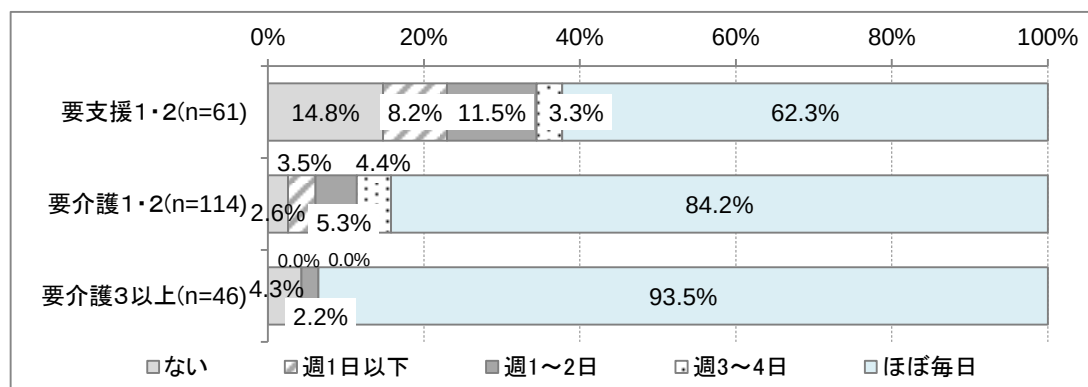
図表 4-5 要介護度別・家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯）



「家族等による介護の頻度」×「要介護度」×「その他世帯」クロス集計

“要支援１・２”では「ない」の割合が他の要介護度と比べて高く、“要介護３以上”では「ほぼ毎日」の割合が他の要介護度と比べて高くなっています。

図表 4-6 要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）



(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

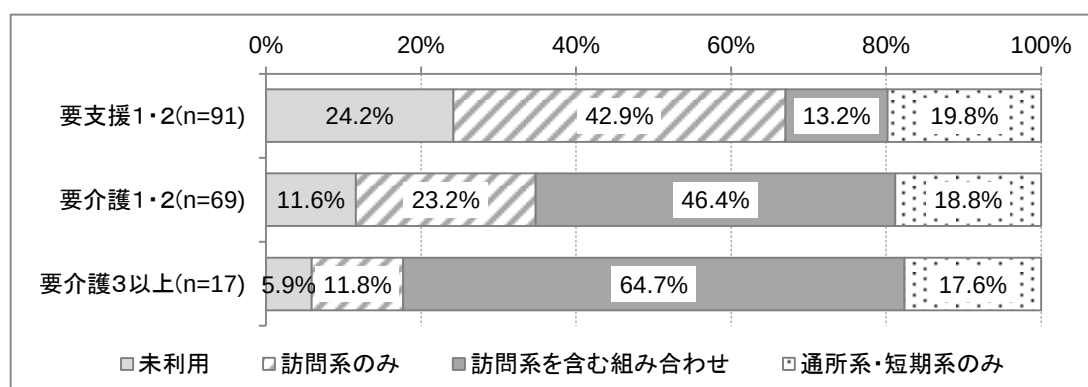
【着目すべきポイント】

- 要介護度別・認知症自立度別の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています（図表 4-7～図表 4-12）。
- サービス利用の組み合わせは、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に簡略化したものを使用しています。
- 重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを、世帯類型別に把握することができます。
- また、世帯類型別の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。
- 例えば、特に今後「要介護度が中重度の単身世帯」が増加すると見込まれる場合は、単身世帯の要介護者が要介護度の重度化に伴いどのようなサービス利用の組み合わせを増加させているかに着目し、推測することなどが考えられます。

「サービス利用の組み合わせ」×「要介護度」×「単身世帯」クロス集計

“要介護3以上”では「訪問系を含む組み合わせ」の割合が他の要介護度と比べて高くなっています。

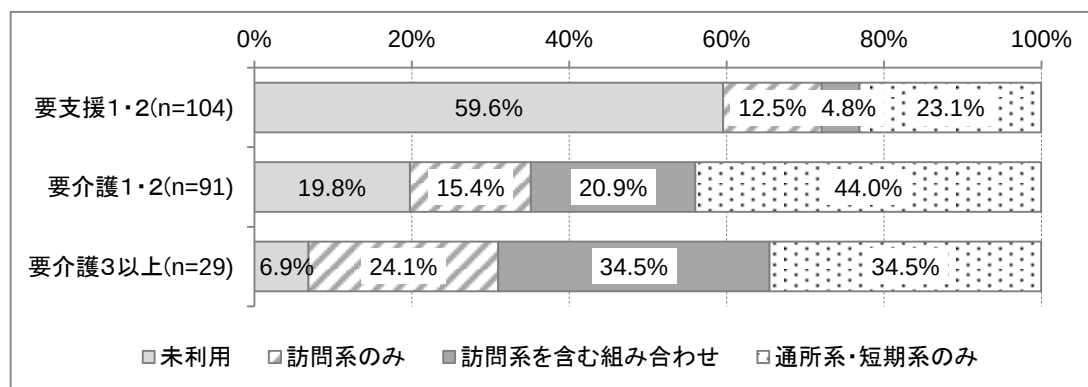
図表 4-7 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



「サービス利用の組み合わせ」×「要介護度」×「夫婦のみ世帯」クロス集計

“要介護3以上”では、「訪問系を含む組み合わせ」の割合が他の要介護度と比べて高くなっています。

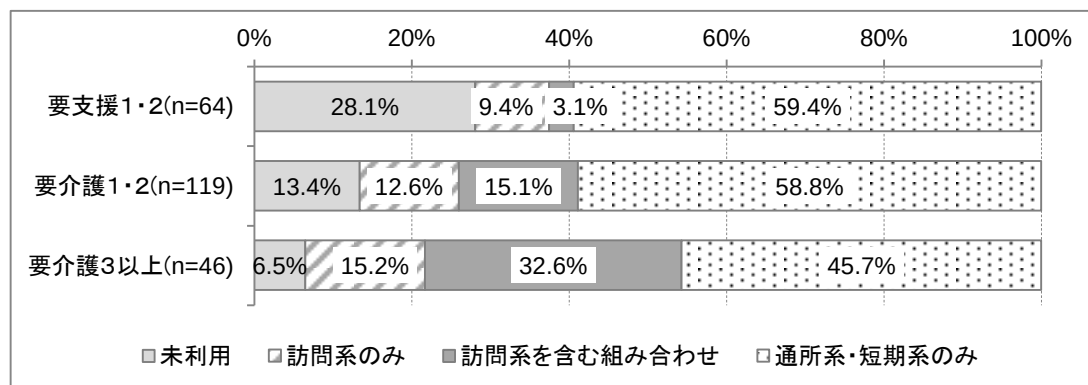
図表 4-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



「サービス利用の組み合わせ」×「要介護度」×「その他世帯」クロス集計

“要介護3以上”では「訪問系を含む組み合わせ」の割合が他の要介護度と比べて高くなっています。

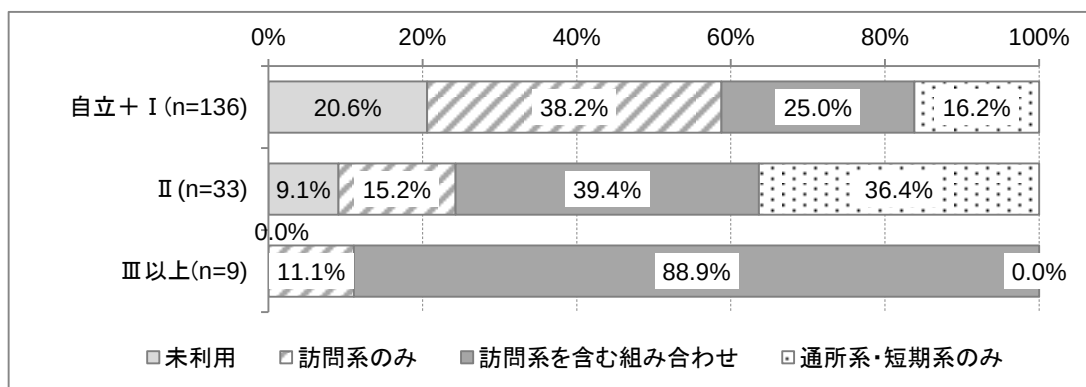
図表 4-9 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



「サービス利用の組み合わせ」×「認知症自立度」×「単身世帯」クロス集計

“Ⅲ以上”では「訪問系を含む組み合わせ」の割合が他の認知症自立度と比べて高くなっています。

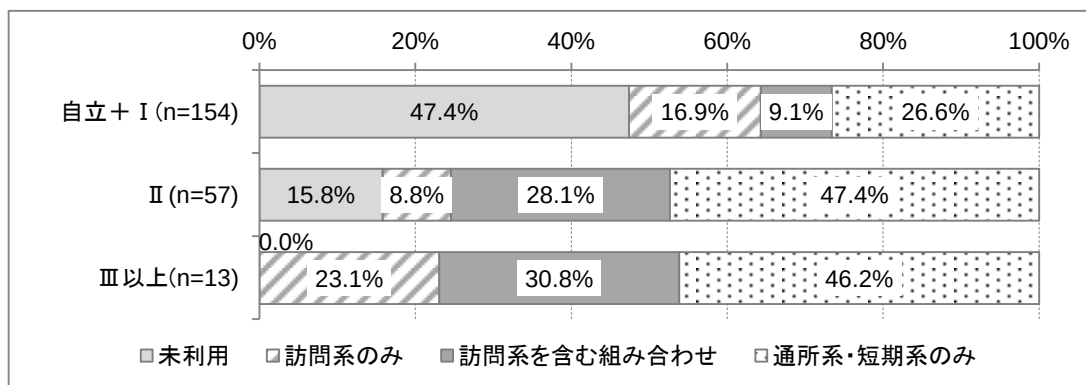
図表 4-10 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



「サービス利用の組み合わせ」×「認知症自立度」×「夫婦のみ世帯」クロス集計

“Ⅲ以上”では「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」の割合が他の認知症自立度と比べて高くなっています。

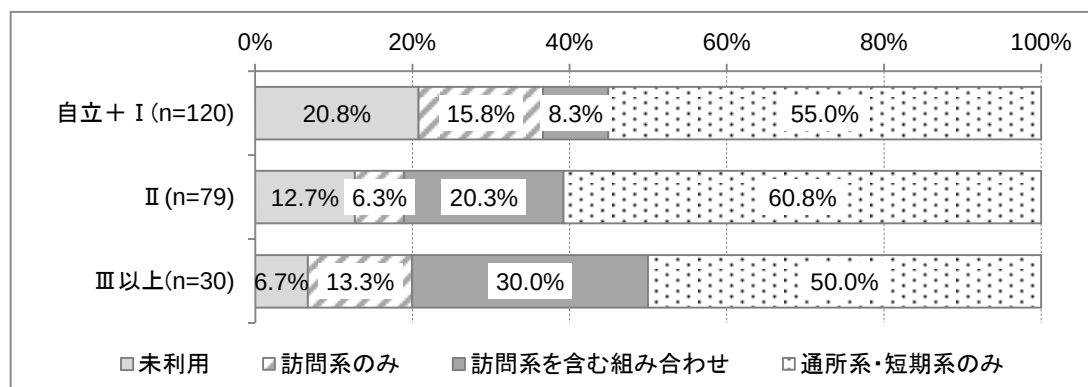
図表 4-11 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



「サービス利用の組み合わせ」×「認知症自立度」×「その他世帯」クロス集計

“Ⅲ以上”では「訪問系を含む組み合わせ」の割合が他の認知症自立度と比べて高くなっています。

図表 4-12 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

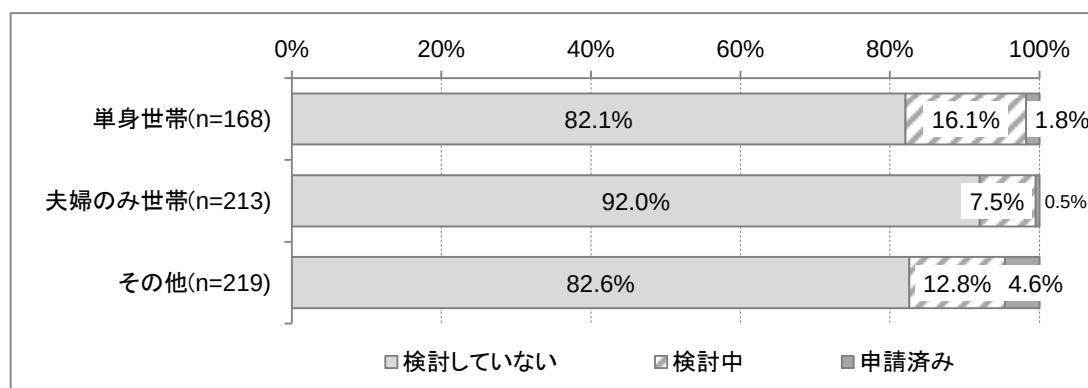
【着目すべきポイント】

- ここでは、「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」について、集計分析をしています（図表 4-13～図表 4-19）。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「世帯類型」ごとの特徴を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。

「施設等検討の状況」×「世帯類型」×「全要介護度」クロス集計

“単身世帯”では「検討中」の割合が他の世帯類型と比べて高くなっています。

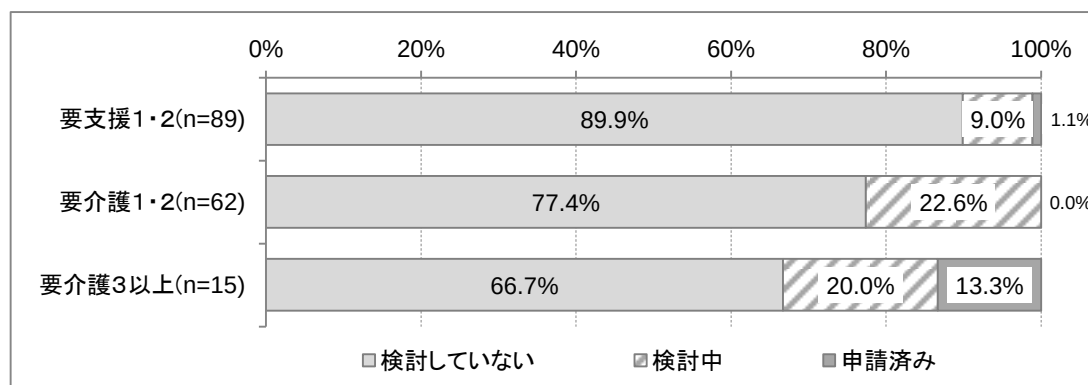
図表 4-13 世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）



「施設等検討の状況」×「要介護度」×「単身世帯」クロス集計

“要支援1・2”では「検討していない」の割合が他の要介護度と比べて高くなっています。

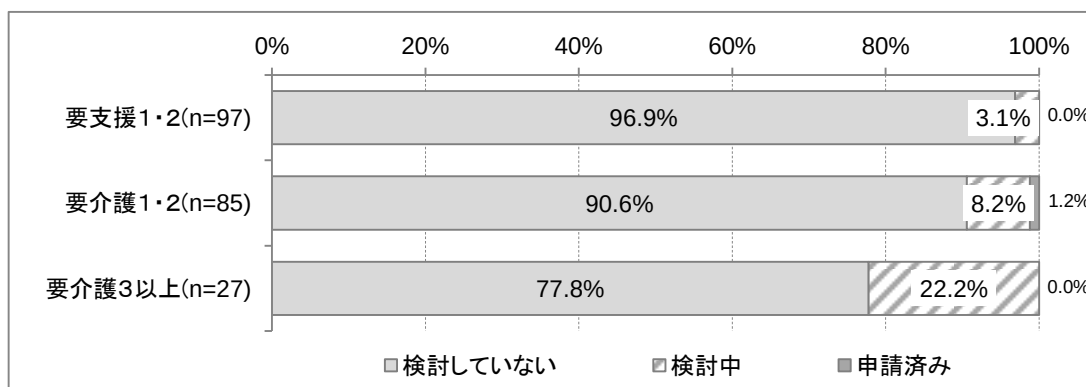
図表 4-14 要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）



「施設等検討の状況」×「要介護度」×「夫婦のみ世帯」クロス集計

“要支援1・2”では「検討していない」の割合が他の要介護度と比べて高く、要介護度が上がるにつれて「検討中」の割合が高くなっています。

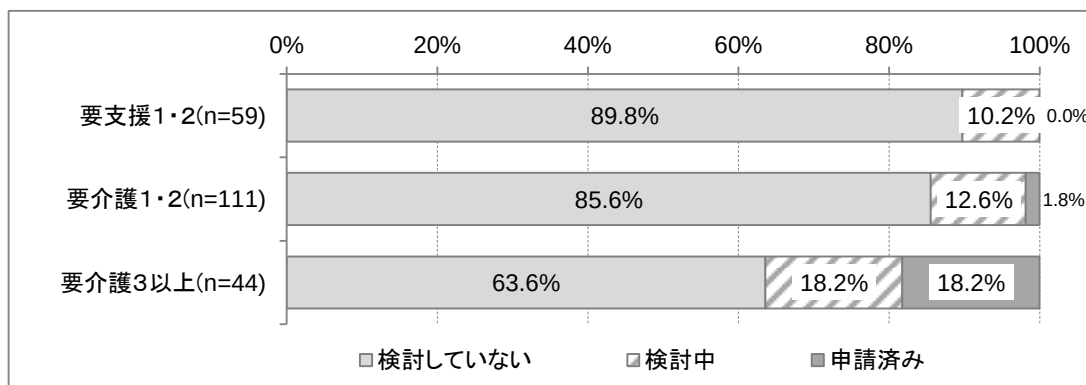
図表 4-15 要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



「施設等検討の状況」×「要介護度」×「その他世帯」クロス集計

“要支援1・2”では「検討していない」の割合が他の要介護度と比べて高く、要介護度が上がるにつれて「検討中」、「申請済み」の割合が高くなっています。

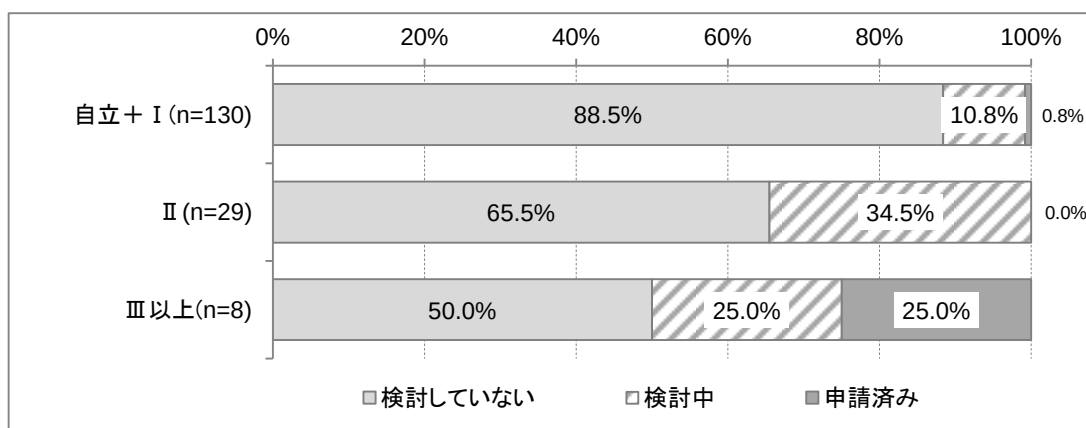
図表 4-16 要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）



「施設等検討の状況」×「認知症自立度」×「単身世帯」クロス集計

“自立＋Ⅰ”では「検討していない」の割合が他の認知症自立度と比べて高く、“Ⅲ以上”では「申請済み」の割合が他の認知症自立度と比べて高くなっています。

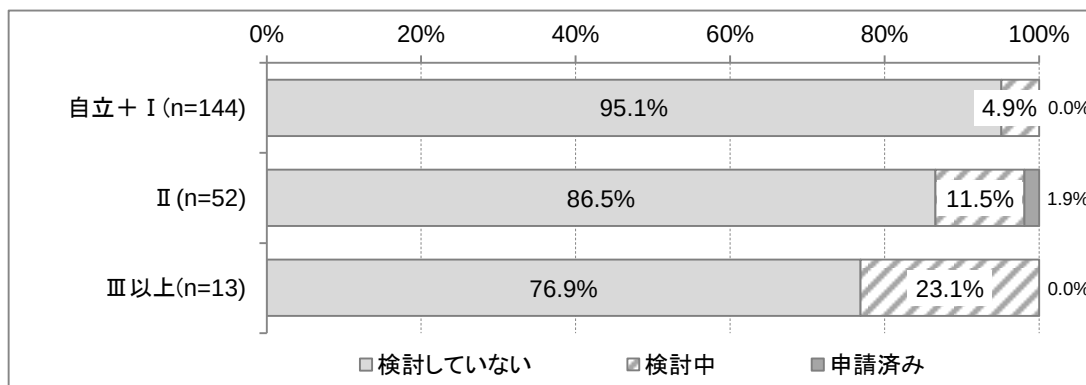
図表 4-17 認知症自立度別・施設等検討の状況（単身世帯）



「施設等検討の状況」×「認知症自立度」×「夫婦のみ世帯」クロス集計

“自立＋Ⅰ”では「検討していない」の割合が他の認知症自立度と比べて高く、認知症自立度が上がるにつれて「検討中」の割合が高くなっています。

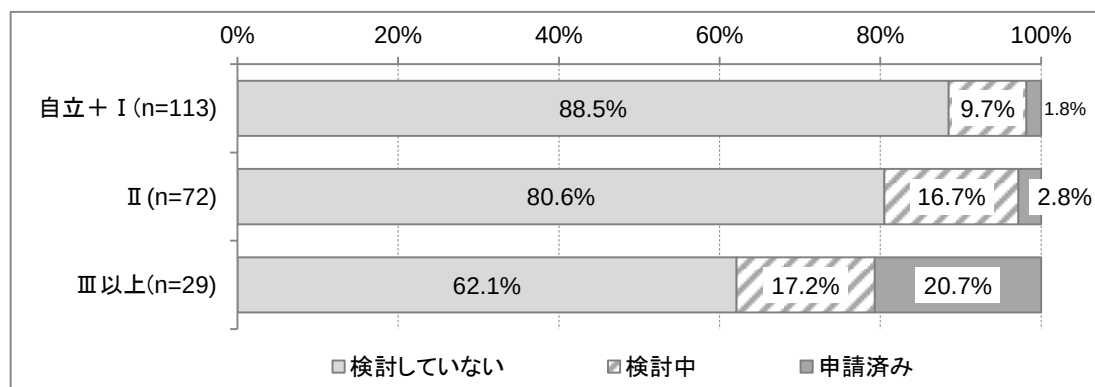
図表 4-18 認知症自立度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



「施設等検討の状況」×「認知症自立度」×「その他世帯」クロス集計

“自立＋Ⅰ”では「検討していない」の割合が他の認知症自立度と比べて高く、認知症自立度が上がるにつれて「検討中」、「申請済み」の割合が高くなっています。

図表 4-19 認知症自立度別・施設等検討の状況（その他の世帯）



5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

■集計・分析の狙い

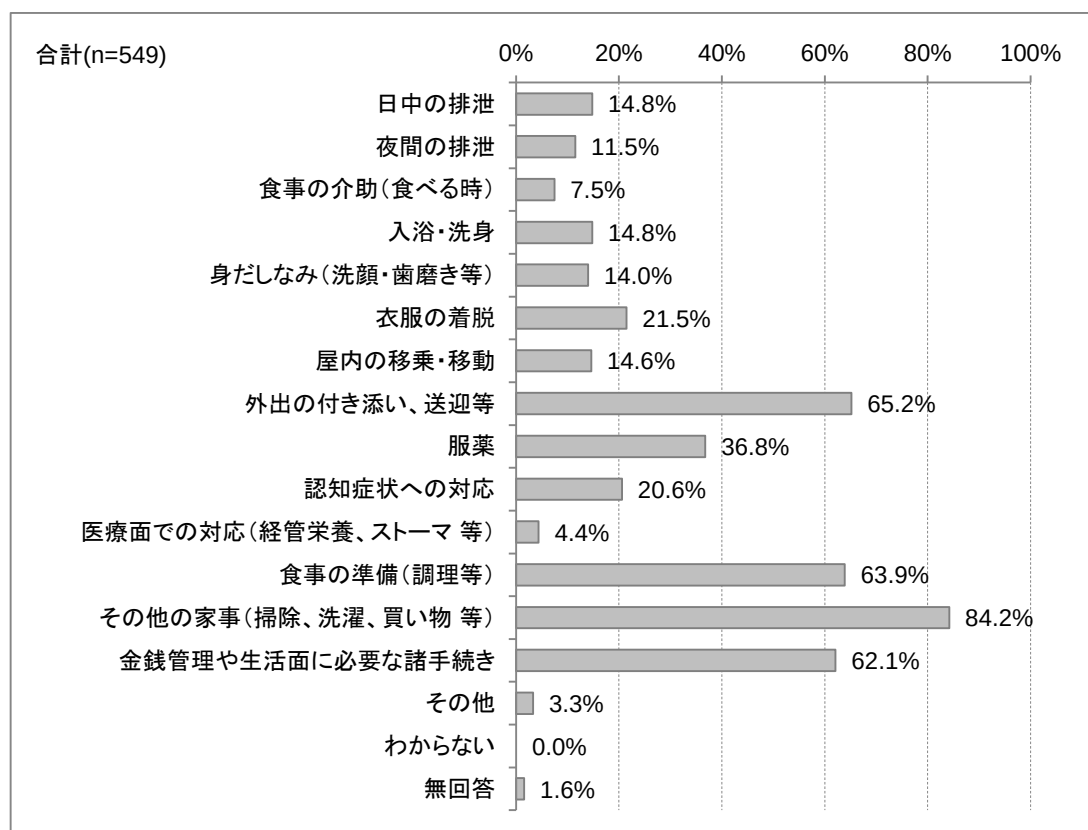
- ここでは、医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの検討につなげるための集計を行います。
- 具体的には、世帯類型別・要介護度別の「主な介護者が行っている介護」や「訪問診療の利用の有無」、「訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ」などの分析を行います。

(1) 基礎集計

- 「主な介護者が行っている介護」について、要介護度別・世帯類型別の集計を行っています（図表 5-1～図表 5-3）。
- ここでは、特に「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」に着目し、家族等の主な介護者が「医療面での対応」を行っている割合を把握することができます。

「主な介護者が行っている介護」単純集計

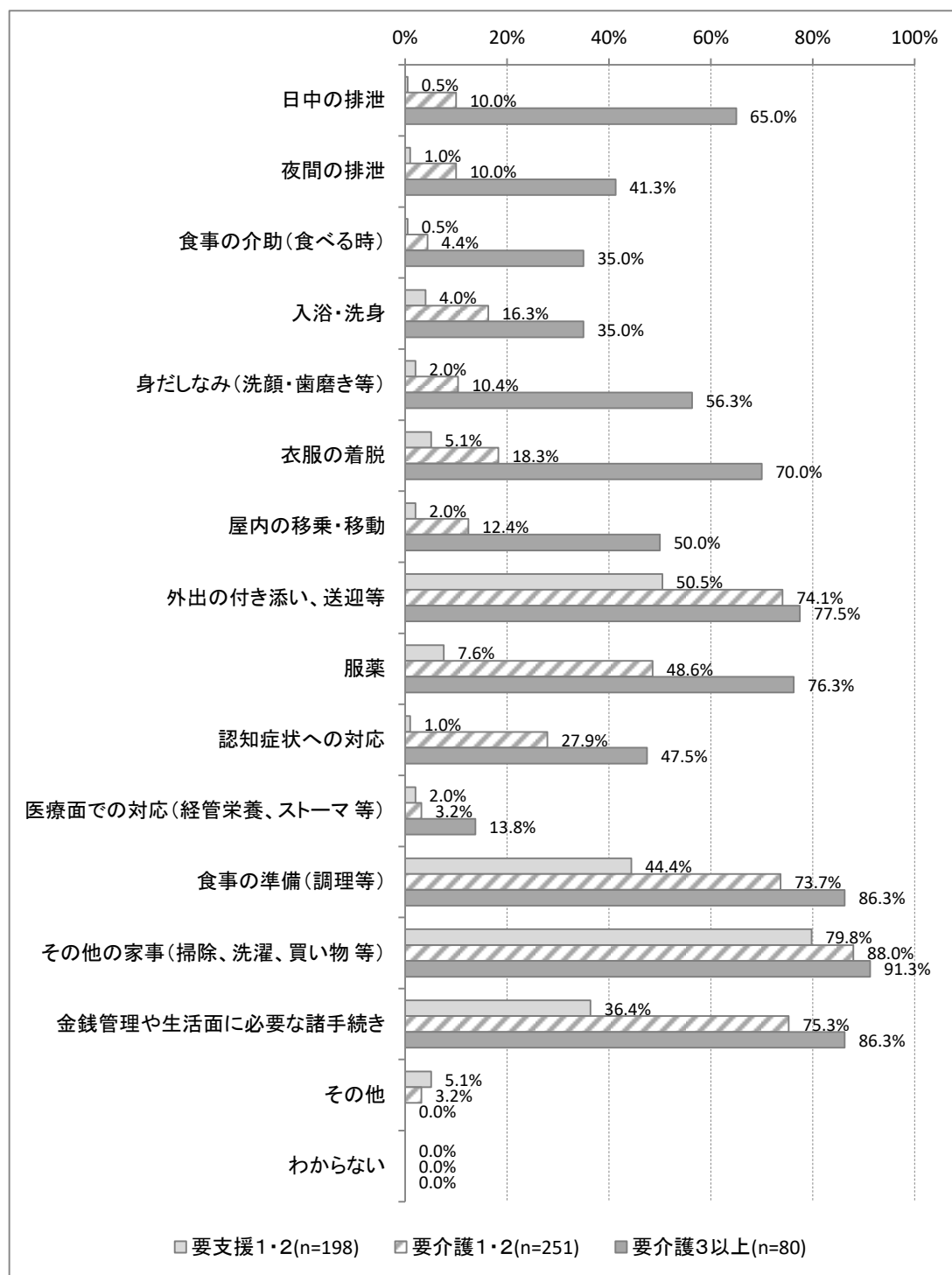
図表 5-1 主な介護者が行っている介護



「主な介護者が行っている介護」×「要介護度」クロス集計

“要介護3以上”ではすべての項目の割合で、他の要介護度と比べて高くなっています。

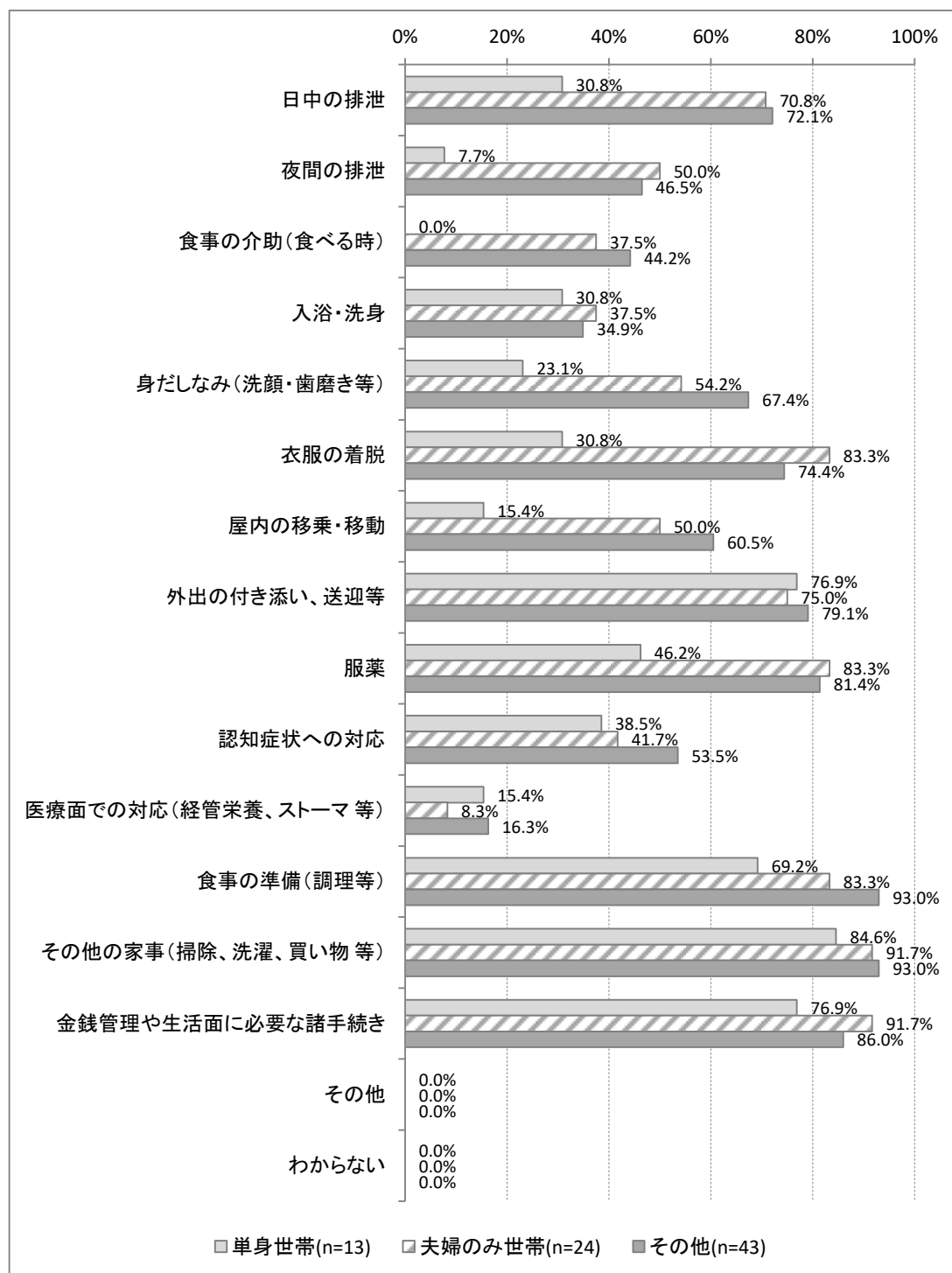
図表 5-2 要介護度別・主な介護者が行っている介護



「主な介護者が行っている介護」×「世帯類型」×「要介護3以上」クロス集計

“夫婦のみ世帯”では「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「衣服の着脱」、「服薬」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の割合が他の世帯類型と比べて高くなっています。

図表 5-3 世帯類型別・主な介護者が行っている介護（要介護3以上）



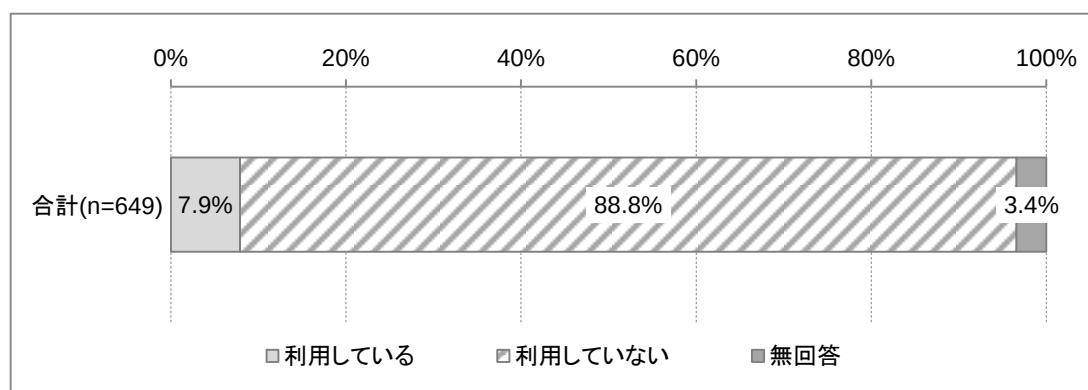
(2) 訪問診療の利用割合

【着目すべきポイント】

- 「訪問診療の利用の有無」について、世帯類型別・要介護度別の集計を行っています（図表 5-4～図表 5-6）。
- 特に、「要介護度別の訪問診療の利用割合」を「将来の要介護度別の在宅療養者数」に乗じることで、「将来の在宅における訪問診療の利用者数」の粗推計を行うことも可能です。

「訪問診療の利用の有無」単純集計

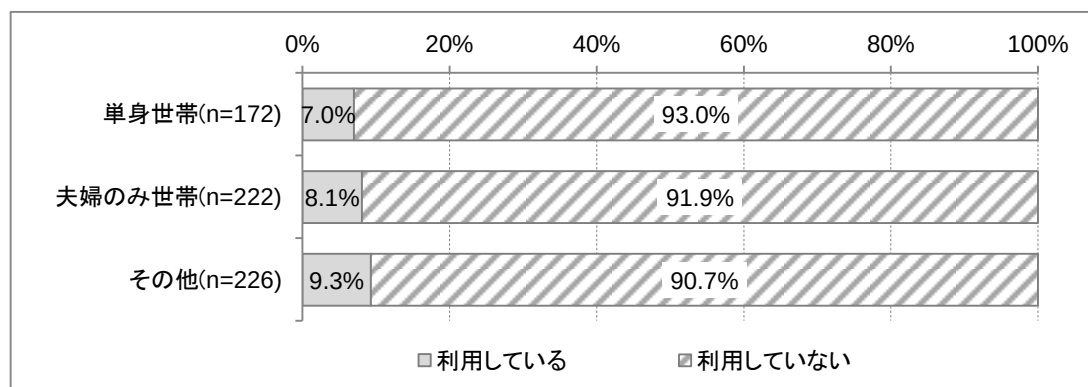
図表 5-4 訪問診療の利用の有無



「訪問診療の利用の有無」×「世帯類型」クロス集計

“その他”では「利用している」の割合が他の世帯類型と比べて若干高くなっています。

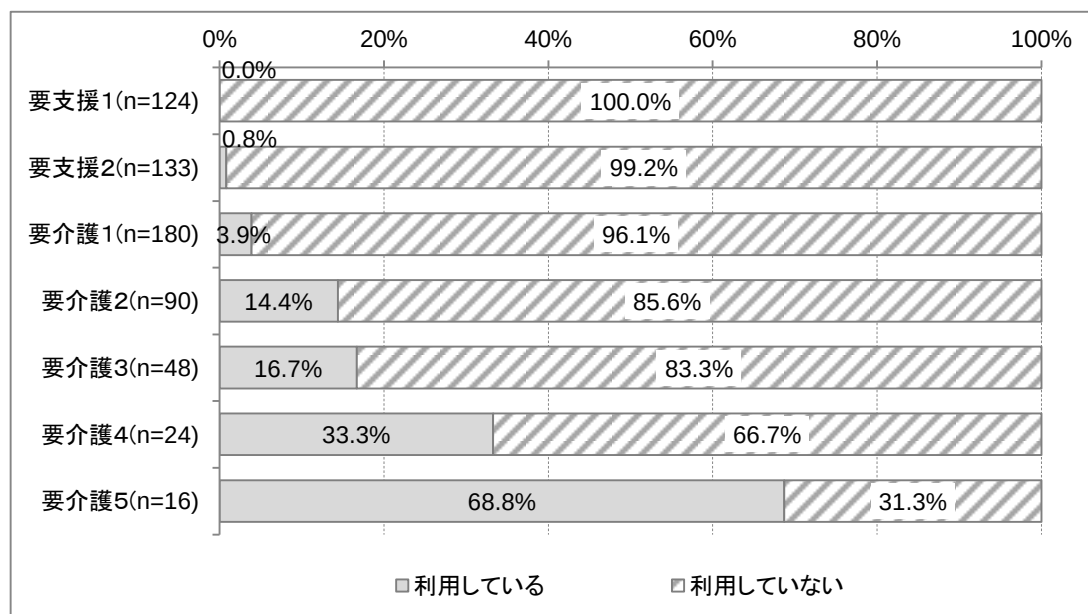
図表 5-5 世帯類型別・訪問診療の利用割合



「訪問診療の利用の有無」×「要介護度」クロス集計

「利用している」の割合は要介護度が上がるにつれて高くなっています。

図表 5-6 要介護度別・訪問診療の利用割合



(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ

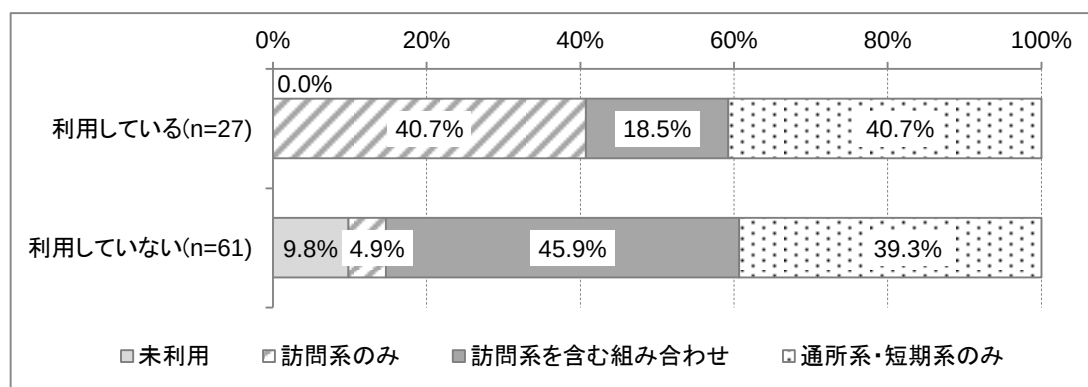
【着目すべきポイント】

- 訪問診療の利用の有無別に、要介護3以上の「サービス利用の組み合わせ」を集計しています（図表5-7）。
- 特に、今後在宅で療養生活を送る医療ニーズの高い中重度の要介護者の増加が見込まれる地域では、今後どのようなサービスに対する利用ニーズが高まるかを予測することにもつながります。

「サービス利用の組み合わせ」×「訪問診療の利用の有無」×「要介護3以上」クロス集計

“利用している”では「訪問系のみ」、「通所系・短期系のみ」の割合が“利用していない”と比べて高くなっています。

図表5-7 訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）



(4) 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無

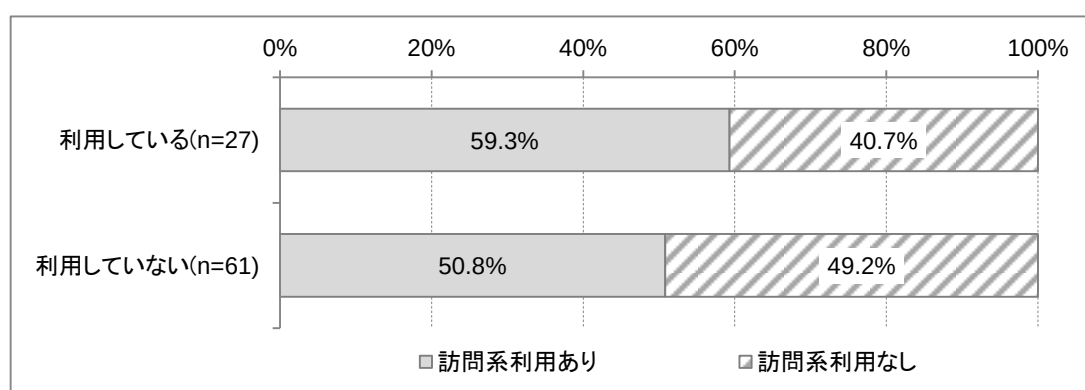
【着目すべきポイント】

- 訪問診療の利用の有無別に、要介護3以上について、訪問系・通所系・短期系のそれぞれのサービス利用の有無を集計しています（図表5-8～図表5-10）。
- 地域によっては、例えば「医療ニーズの高い要介護者」の受け入れが可能なショートステイが十分に整っていない場合に、訪問診療の利用の有無で短期系の利用割合が大きく異なることも想定されます。

「訪問系サービスの利用」×「訪問診療の利用の有無」×「要介護3以上」クロス集計

“利用している”では「訪問系利用あり」の割合が“利用していない”と比べて高くなっています。

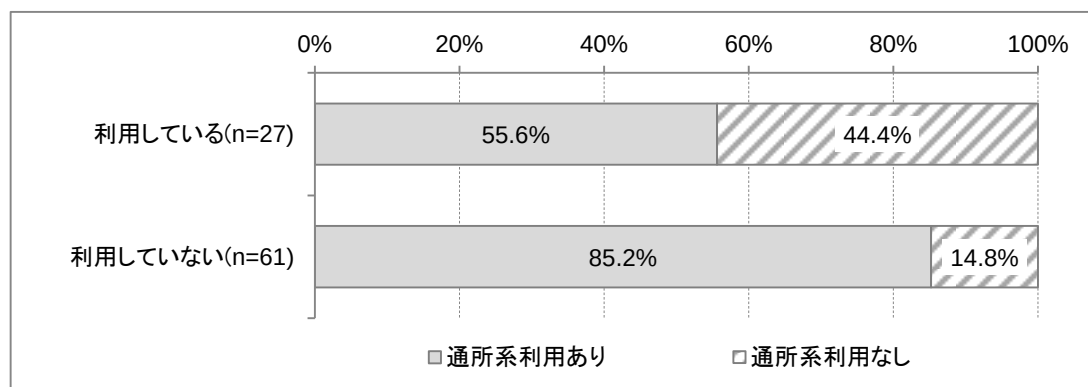
図表 5-8 訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）



「通所系サービスの利用」×「訪問診療の利用の有無」×「要介護3以上」クロス集計

“利用していない”では「通所系利用あり」の割合が“利用している”と比べて高くなっています。

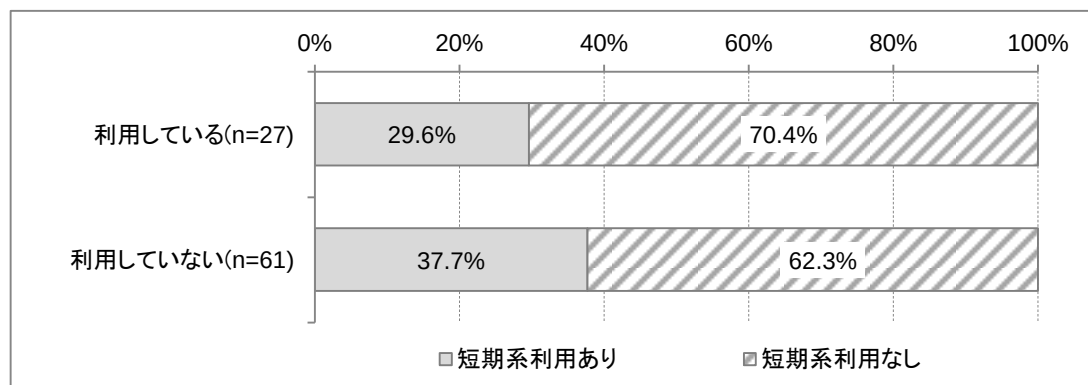
図表 5-9 訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系、要介護3以上）



「短期系サービスの利用」×「訪問診療の利用の有無」×「要介護3以上」クロス集計

“利用していない”では「短期系利用あり」の割合が“利用している”と比べて高くなっています。

図表 5-10 訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系、要介護3以上）



6 その他サービス未利用の理由など

■集計・分析の狙い

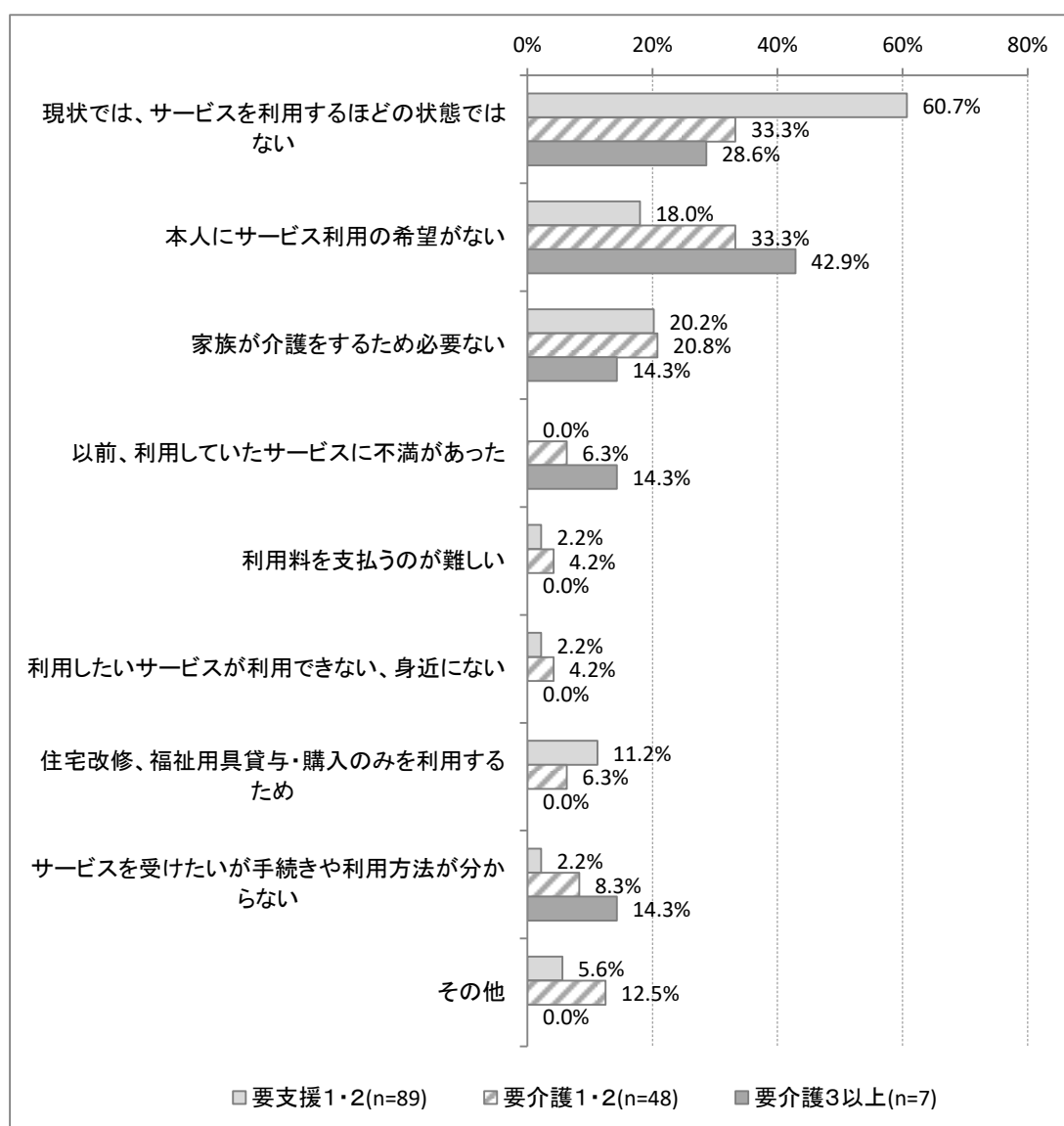
- ここでは、各地域において支援・サービスの提供体制の構築を含む各種の取組を検討する際に、参考になると考えられるいくつかの集計結果を整理しています。

(1) 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

「サービス未利用の理由」×「要介護度」クロス集計

“要支援1・2”では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」の割合が他の要介護度と比べて高くなっています。

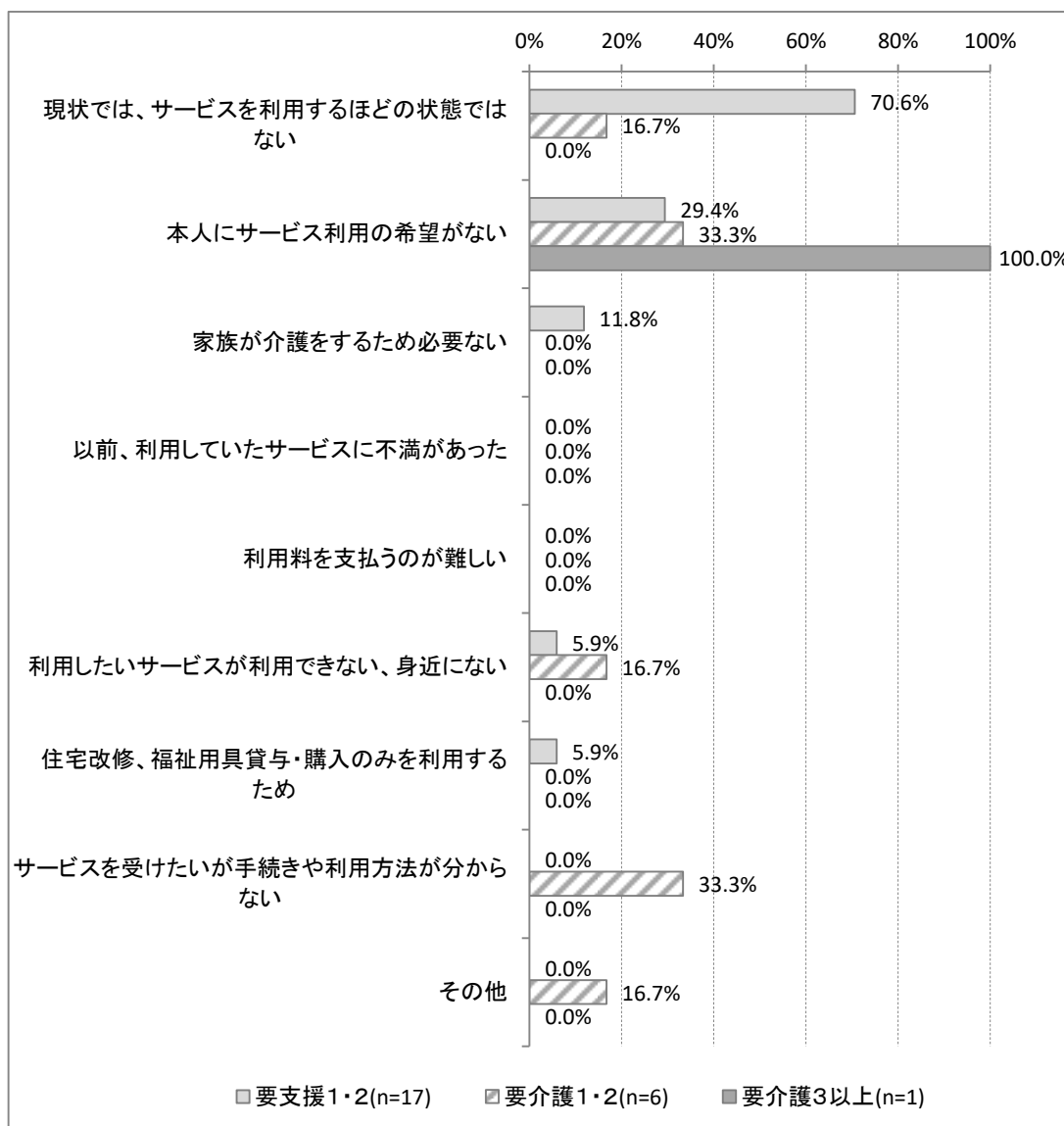
図表 6-1 要介護度別のサービス未利用の理由



「サービス未利用の理由」×「要介護度」×「単身世帯」クロス集計

“要支援1・2”（回答件数：17件）では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「家族が介護をするため必要ない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」の割合が他の要介護度と比べて高くなっています。

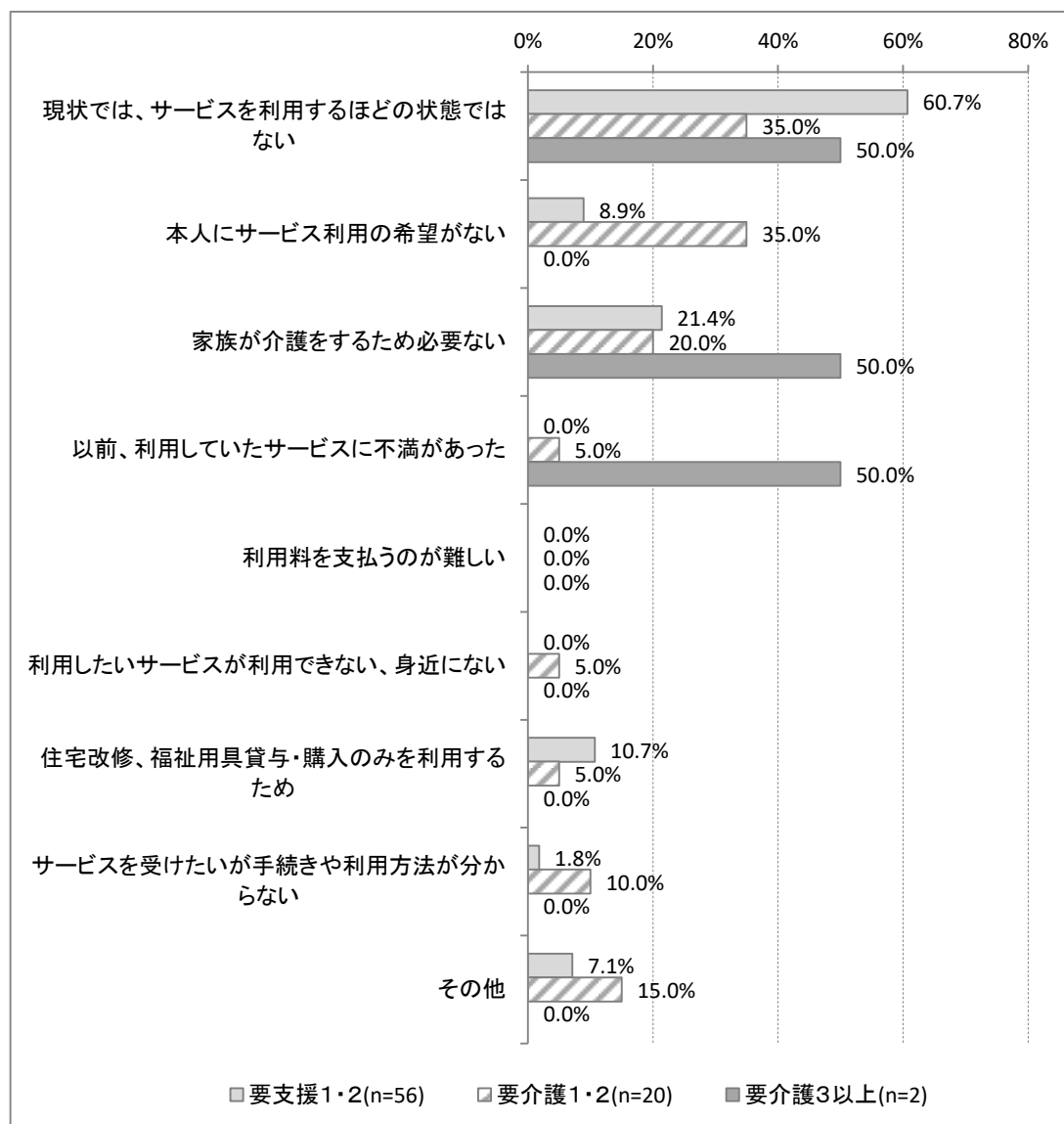
図表 6-2 要介護度別のサービス未利用の理由（単身世帯）



「サービス未利用の理由」×「要介護度」×「夫婦のみ世帯」クロス集計

“要支援1・2”では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」の割合が他の要介護度と比べて高くなっています。

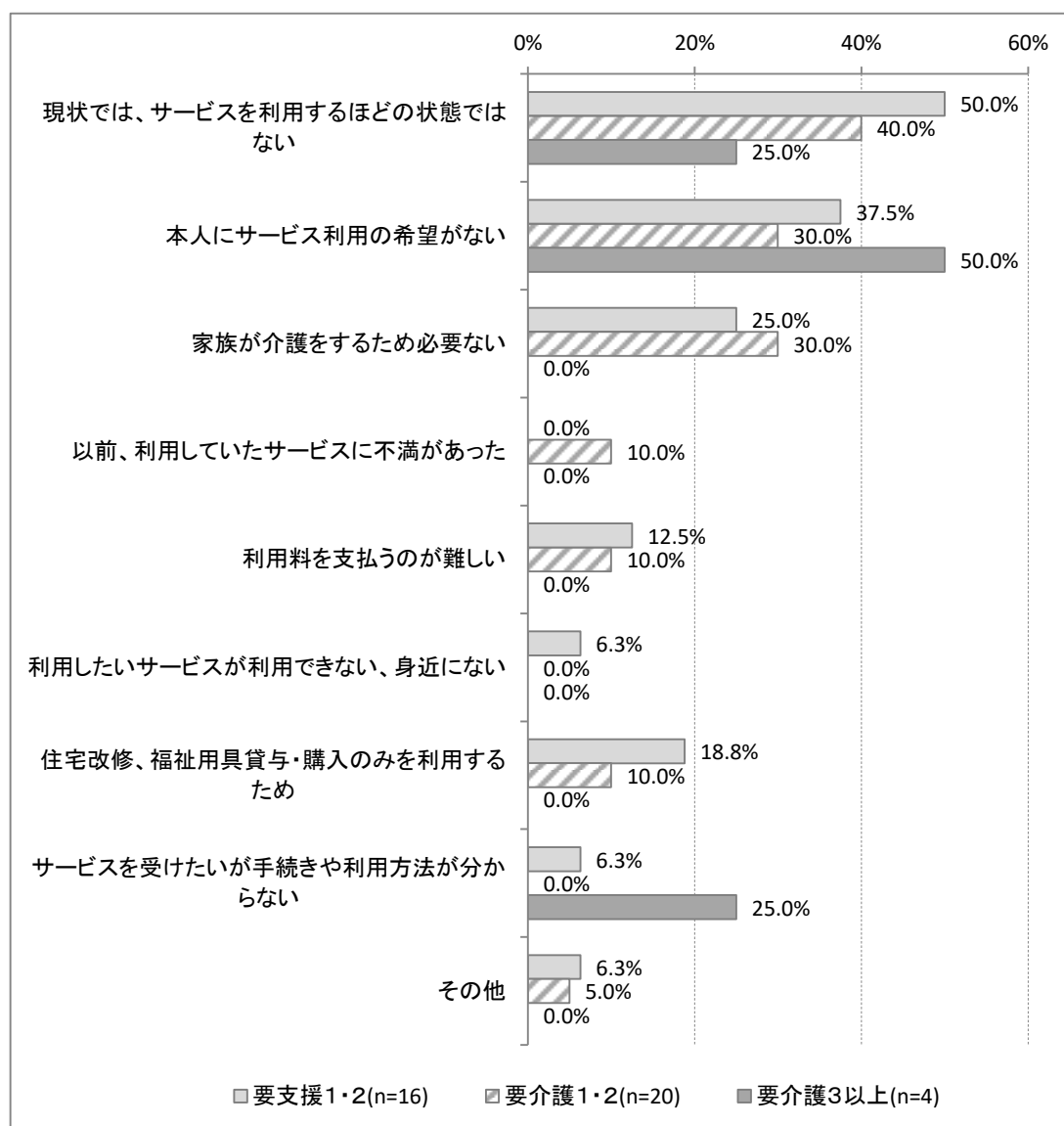
図表 6-3 要介護度別のサービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）



「サービス未利用の理由」×「要介護度」×「その他世帯」クロス集計

“要支援1・2”では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「利用料を支払うのが難しい」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」の割合が他の要介護度と比べて高くなっています。

図表 6-4 要介護度別のサービス未利用の理由（その他世帯）

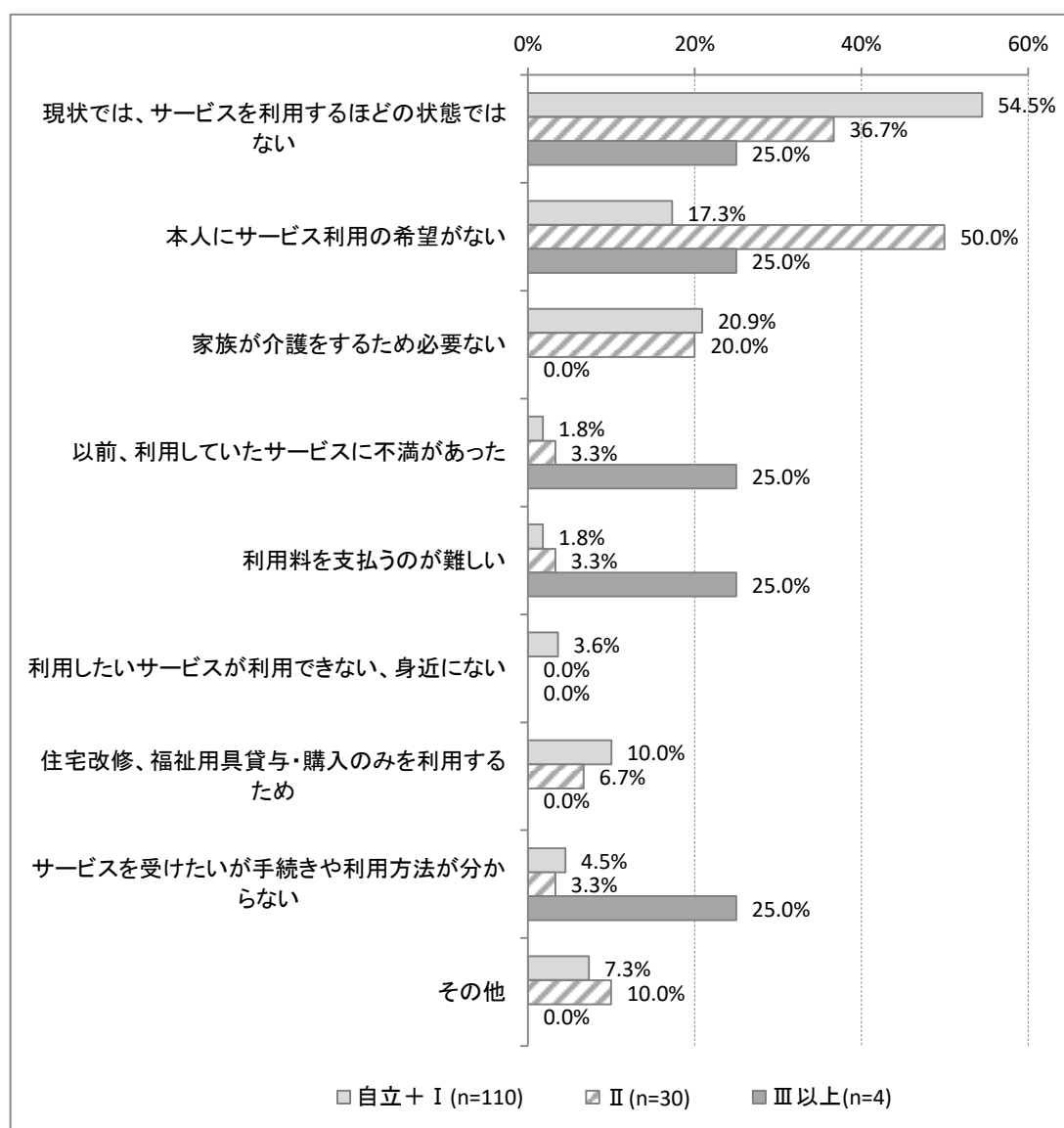


(2) 認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

「サービス未利用の理由」×「認知症自立度」クロス集計

“自立＋Ⅰ”では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「家族が介護をするため必要ない」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」の割合が他の認知症自立度と比べて高くなっています。

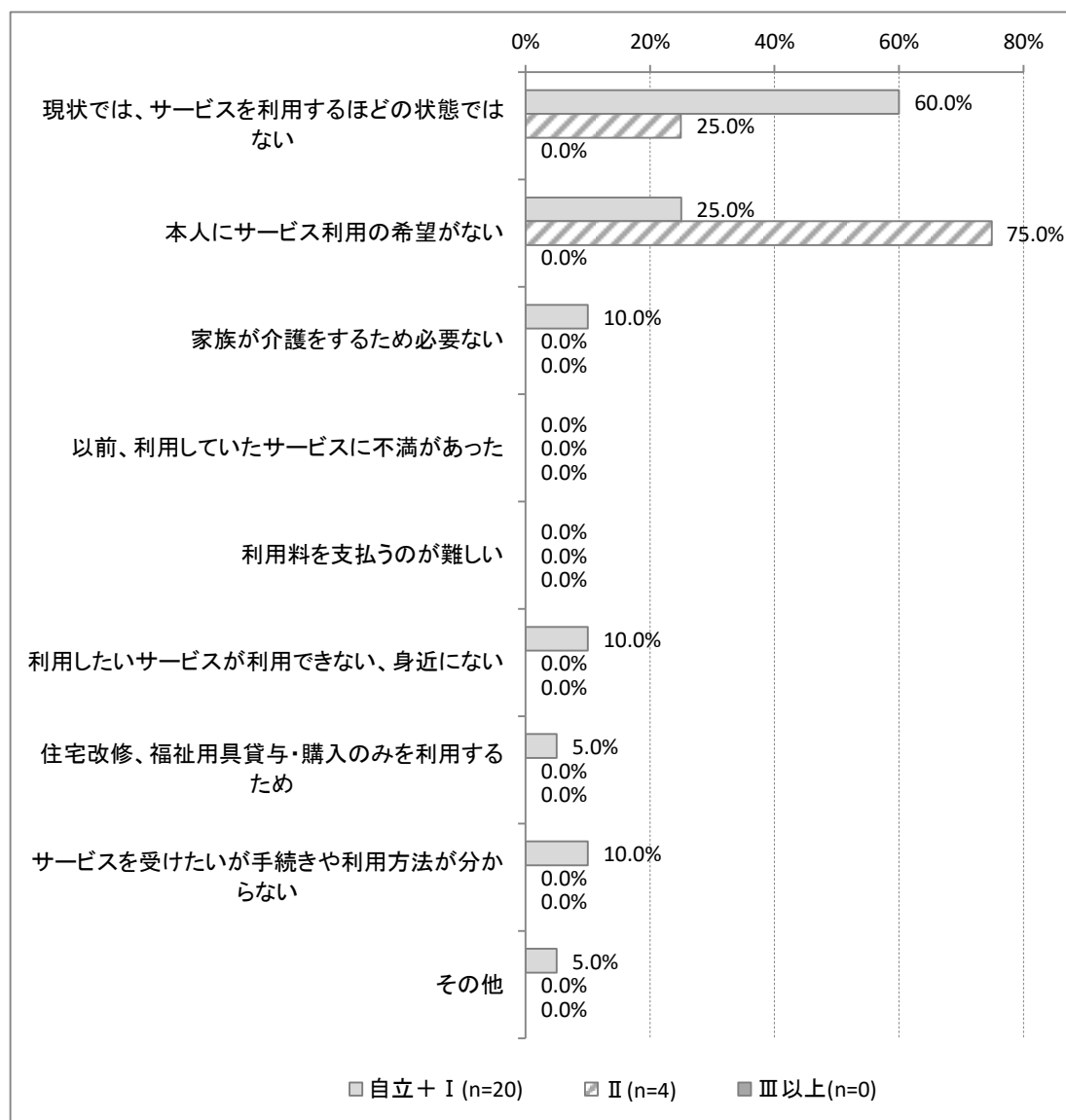
図表 6-5 認知症自立度別のサービス未利用の理由



「サービス未利用の理由」×「認知症自立度」×「単身世帯」クロス集計

“自立＋Ⅰ”では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が60.0%と最も高くなっています。

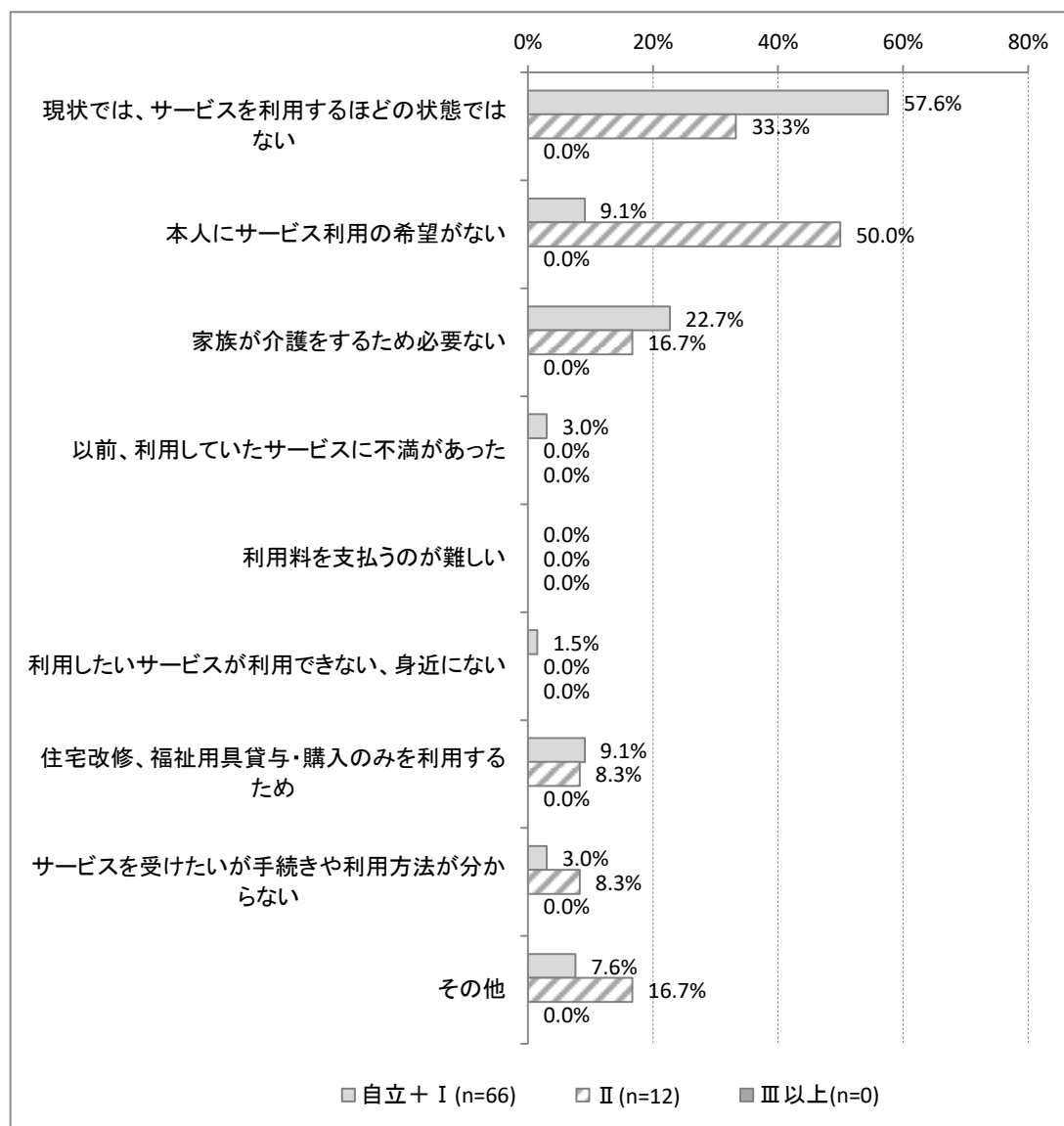
図表 6-6 認知症自立度別のサービス未利用の理由（単身世帯）



「サービス未利用の理由」×「認知症自立度」×「夫婦のみ世帯」クロス集計

“自立＋Ⅰ”では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「家族が介護をするため必要ない」の割合が高くなっています。

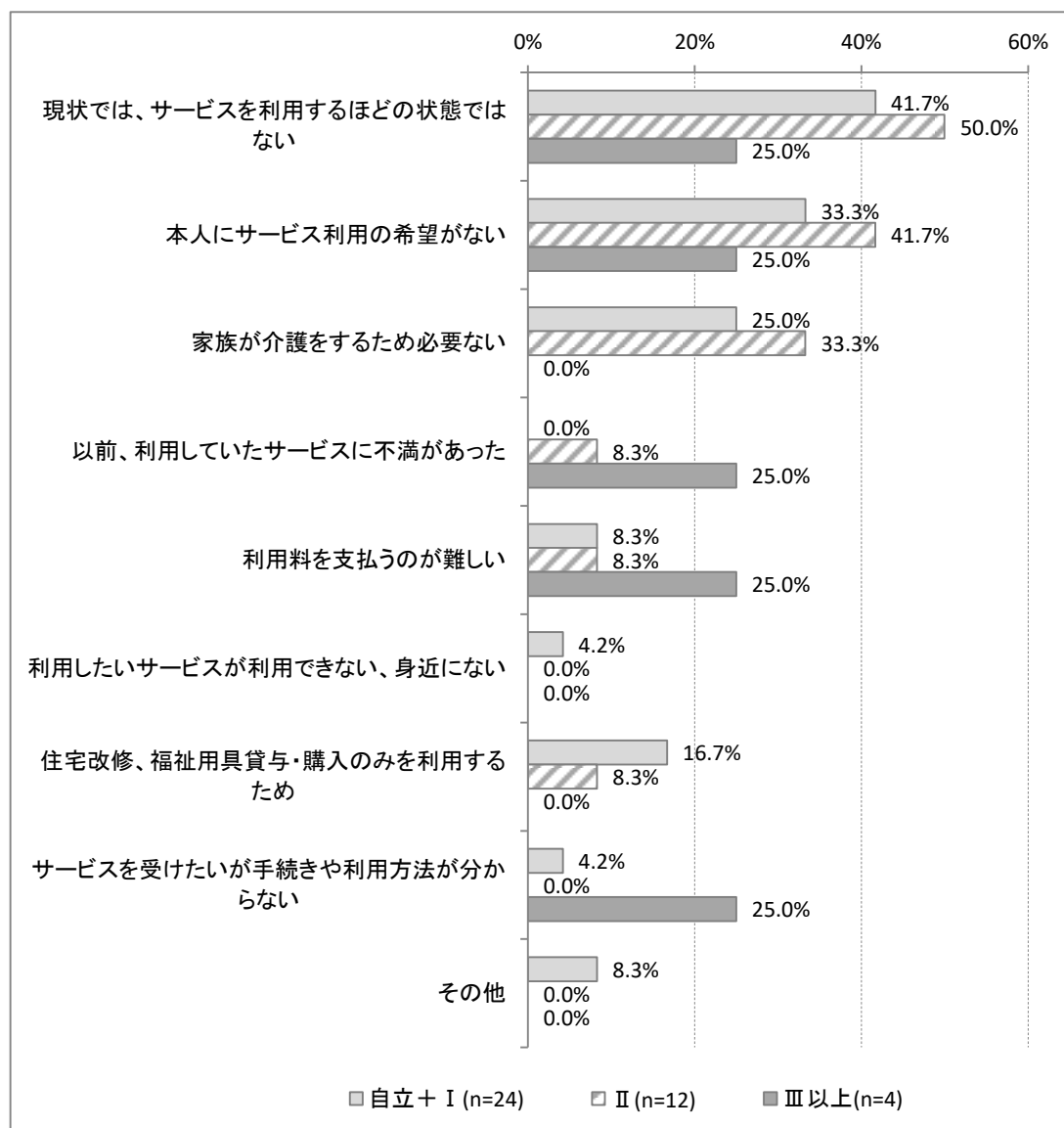
図表 6-7 認知症自立度別のサービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）



「サービス未利用の理由」×「認知症自立度」×「その他世帯」クロス集計

“自立＋Ⅰ”では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が最も高くなっています。

図表 6-8 認知症自立度別のサービス未利用の理由（その他世帯）

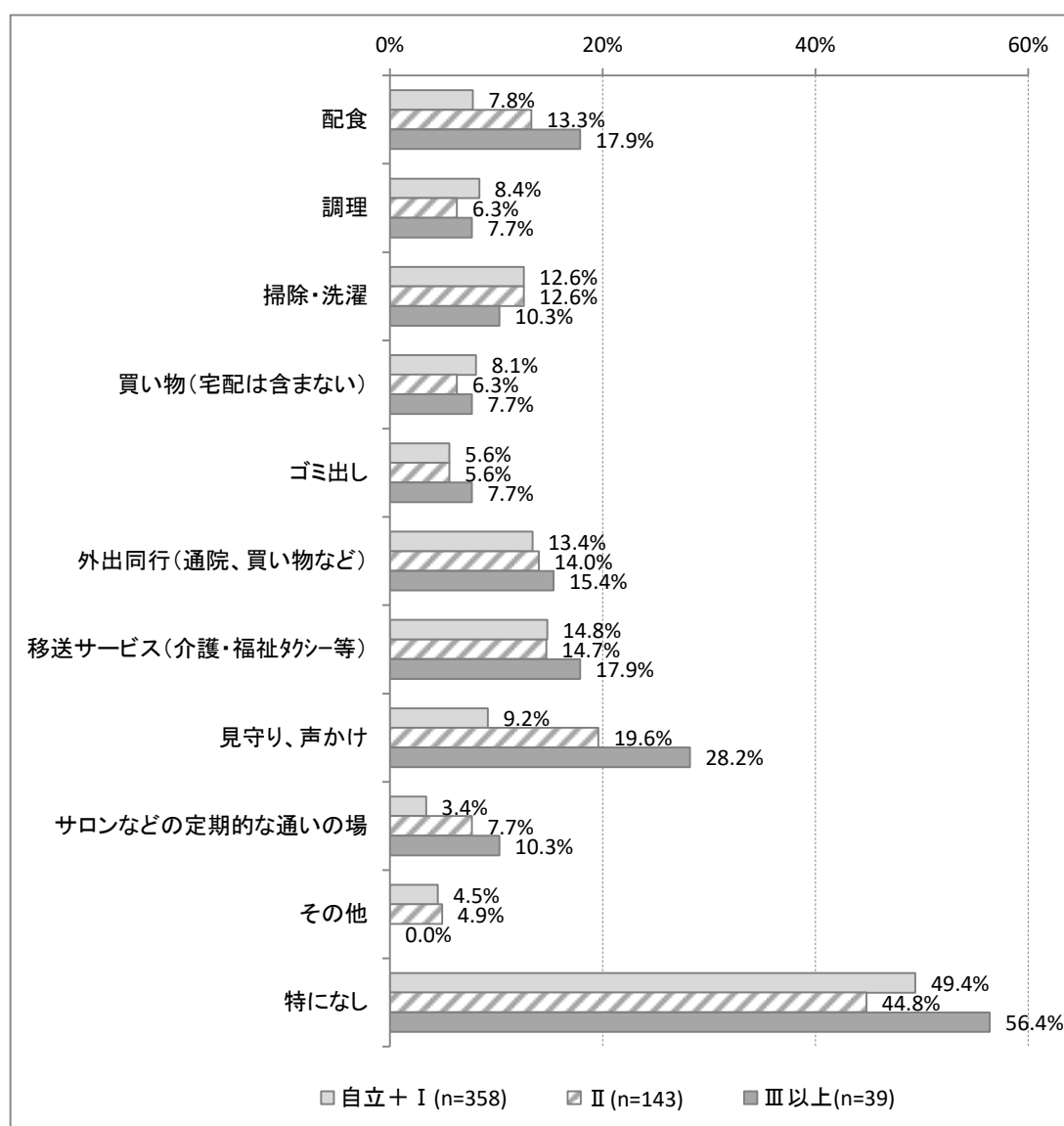


(3) 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービス

「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」×「認知症自立度」クロス集計

“自立＋Ⅰ”では「調理」、「買い物（宅配は含まない）」の割合が他の認知症自立度と比べて高くなっています。

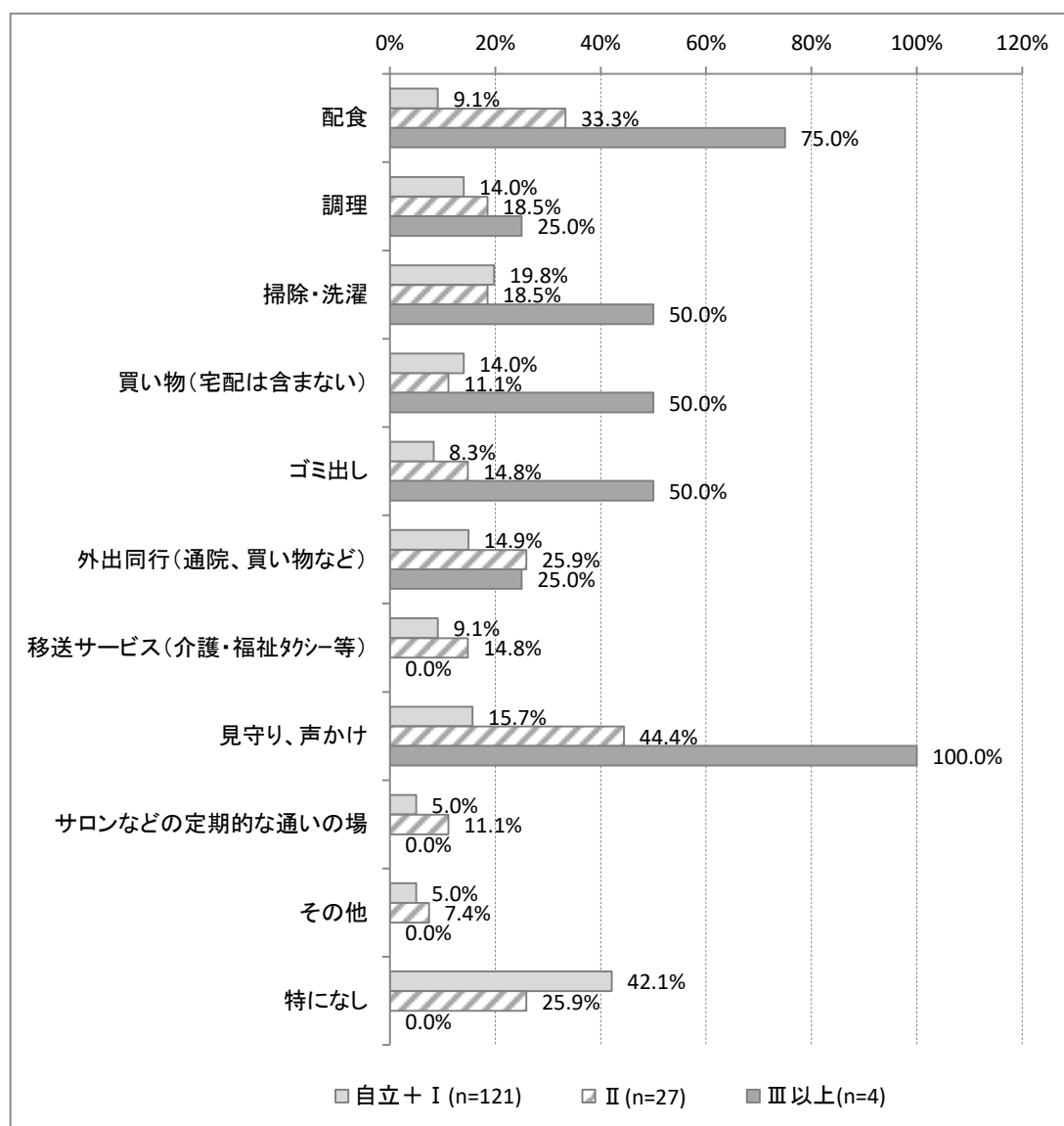
図表 6-9 認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」×「認知症自立度」×「単身世帯」
クロス集計

“Ⅱ”では「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「サロンなどの定期的な通いの場」の割合が他の認知症自立度と比べて高くなっています。

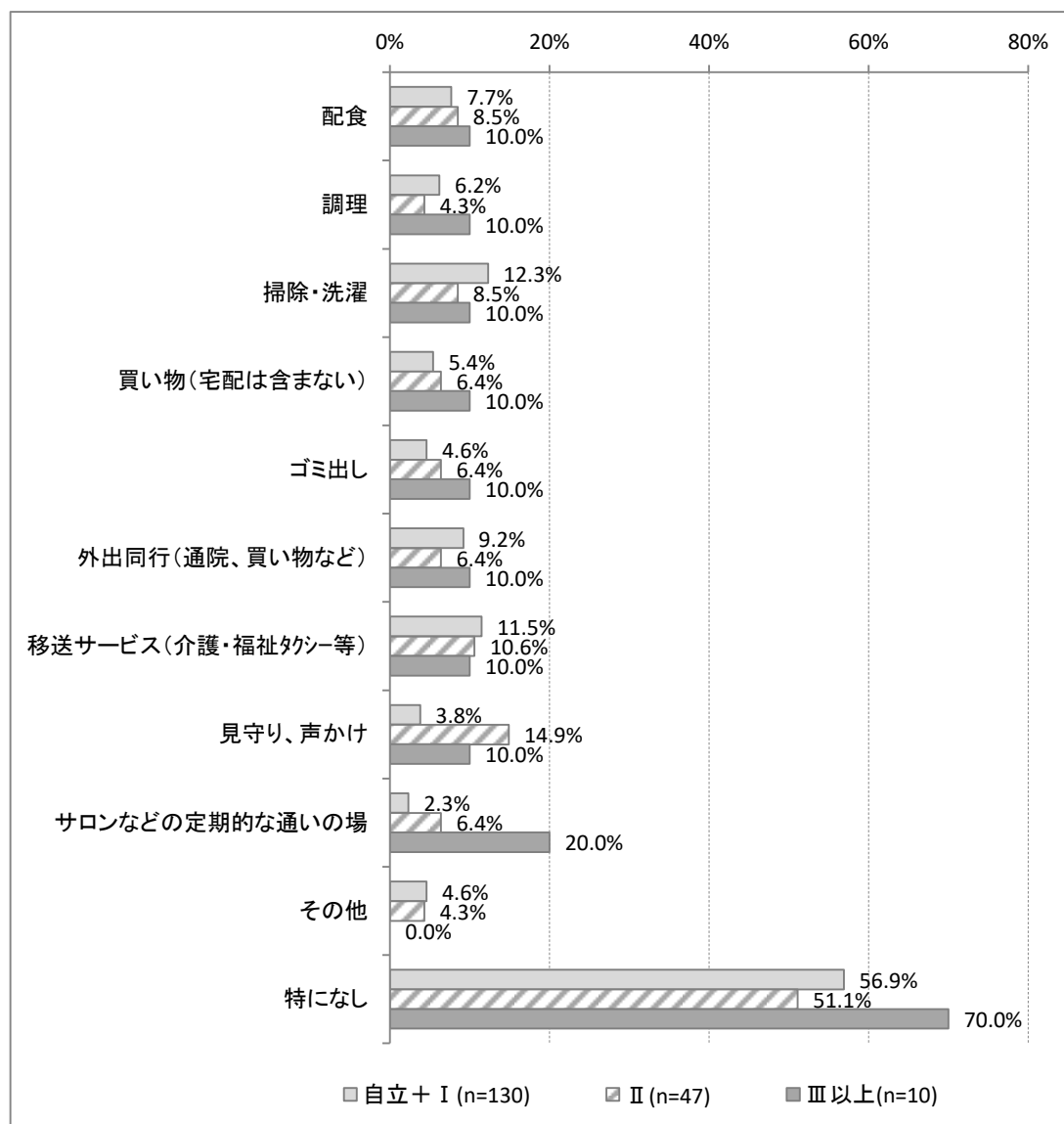
図表 6-10 認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」×「認知症自立度」×「夫婦のみ世帯」クロス集計

“Ⅱ”では「見守り、声かけ」の割合が他の認知症自立度と比べて特に高くなっています。

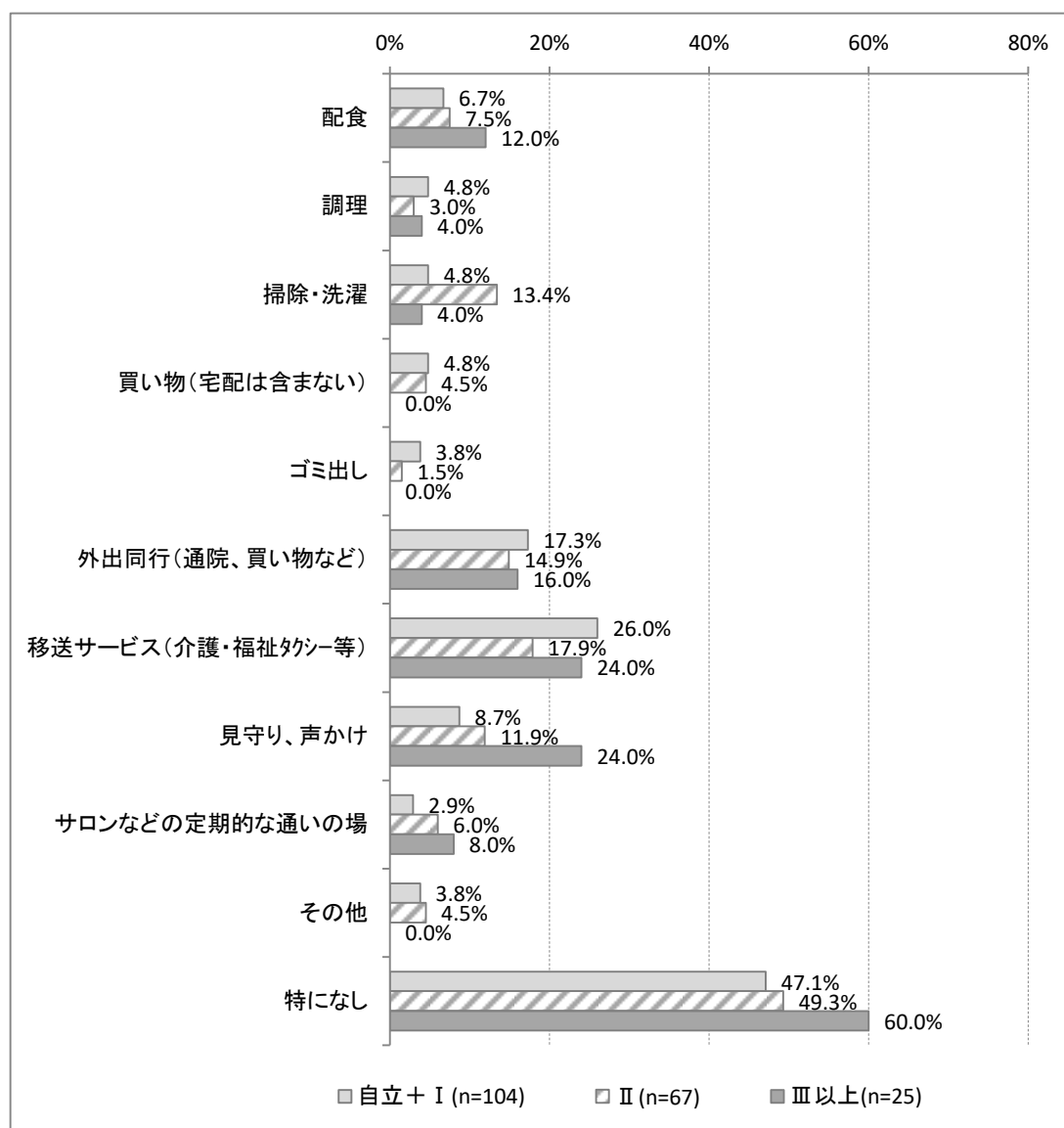
図表 6-11 認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」×「認知症自立度」×「その他世帯」
クロス集計

“自立＋Ⅰ”では「調理」、「買い物（宅配は含まない）」、「ゴミ出し」、「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が他の認知症自立度と比べて高く高くなっています。

図表 6-12 認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）

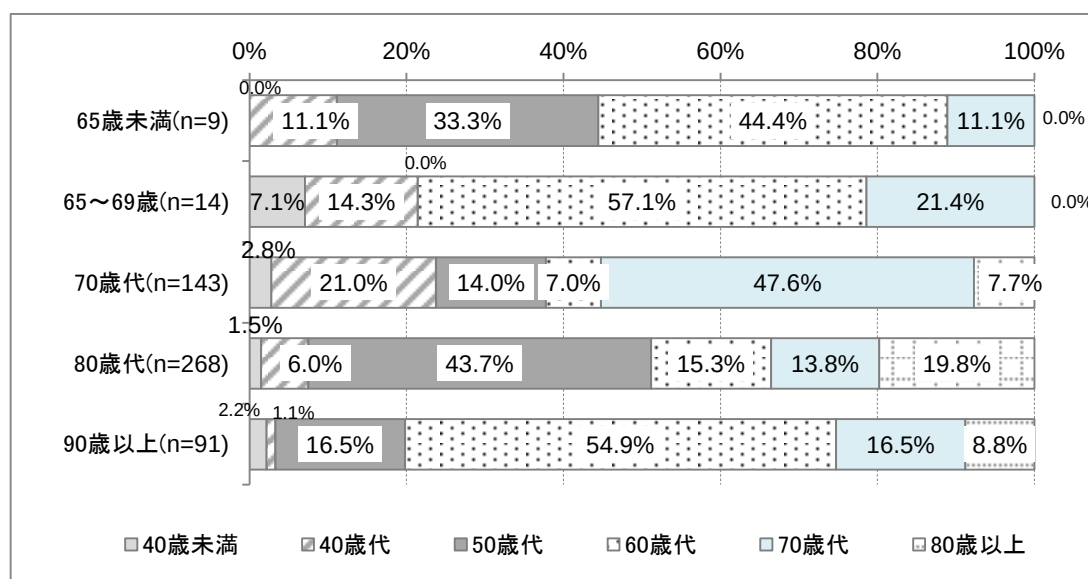


(4) 本人の年齢別・主な介護者の年齢

「主な介護者の年齢」×「本人の年齢」クロス集計

本人の年齢が“70歳代”では主な介護者の年齢が「70歳代」の割合が最も高く、本人が“80歳代”では主な介護者の年齢が「50歳代」が、本人が“90歳以上”では主な介護者の年齢が「60歳代」が最も高い割合となっています。

図表 6-13 本人の年齢別・主な介護者の年齢

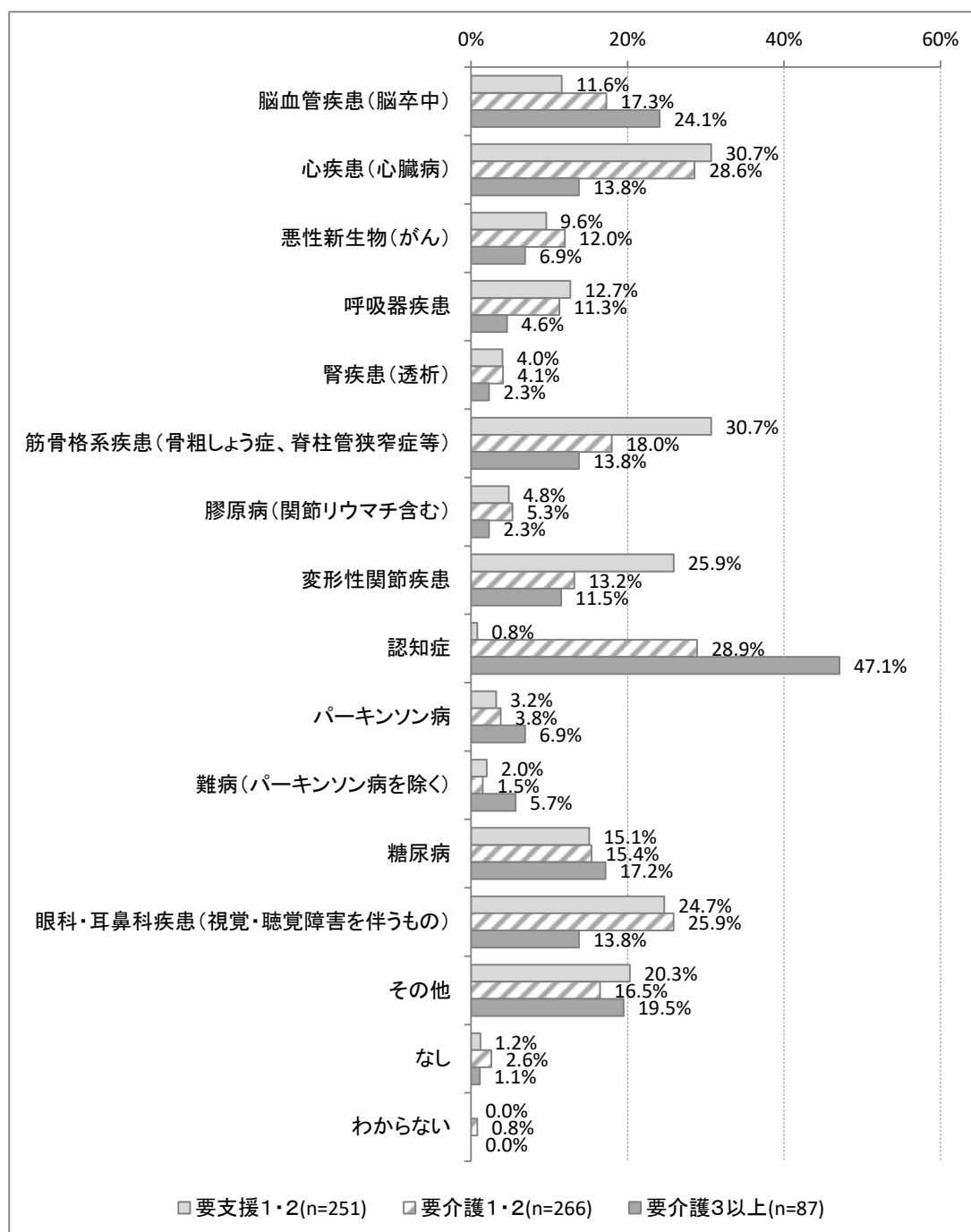


(5) 要介護度別の抱えている傷病

「抱えている傷病」×「要介護度」クロス集計

要介護度の重度化に伴って、「脳血管疾患（脳卒中）」、「認知症」、「糖尿病」の割合が高くなっています。

図表 6-14 要介護度別・抱えている傷病



(6) 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病

「抱えている傷病」×「訪問診療の利用の有無別」クロス集計

“利用している”では「脳血管疾患（脳卒中）」、「心疾患（心臓病）」、「悪性新生物（がん）」、「認知症」、「パーキンソン病」、「糖尿病」の割合が“利用していない”と比べて高くなっています。

図表 6-15 訪問診療の利用の有無別・抱えている傷病

